

Title	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵〔南北朝〕写老子道德經：本文並びに訓読文・附本文校異記(三)
Sub Title	Nanbokucho manuscript copy Lao Tzu-Tao Te Ching in the Shido Bunko Institute: transcription and the Japanese rendering append text collation (3)
Author	山城, 喜憲(Yamashiro, Yoshiharu)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2007
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.42 (2007.) ,p.1- 90
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	関場武文庫長退職記念
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20070000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学
附属研究所

斯道文庫蔵「南北朝」写 老子道德經

本文並びに訓読文 附本文校異記 (三)

山城 喜 憲

凡 例

一、本翻印並びに訓読文の底本は斯道文庫に所蔵する次の古鈔本である。

老子道德經二卷 漢河上公章句

南北朝一写 康應二年(一三九〇)施入識語本
大二冊(函架番号 〇九一 一八八 二)

書誌事項についての詳細は、本稿(一)(二)『斯道文庫論集』
第40・41輯)の「凡例」を参照されたい。

本稿(三)では、卷下前半の第三十八章から五十九章までを収めた。四巻本で言えば、卷三に相当するところである。

一、「本文」翻字、「訓読文」翻記、「校異」、「訓読文補注」の表記要領については前稿を踏襲する。その凡例を参照されたい。

一、対校に用いた諸本及びその略称は次の通りである。

活 「慶長」刊古活字版

活 「慶長」刊古活字版 異植字版

陽 陽明文庫蔵「室町末近世初」写本二冊

書陵 宮内庁書陵部蔵「室町」写至徳三年(一三八六)識語

本二冊

無窮 無窮会図書館蔵(井上頼因旧蔵)「近世初」伝写天文

五年(一五三六)書写清家本一冊

足利 足利学校遺蹟図書館蔵〔室町〕写本二冊

杏 杏雨書屋蔵（内藤湖南旧蔵）〔室町中期〕写本存巻下

徳經一冊

筑波 筑波大学附属図書館蔵天文二十一年（二五五二）写本

一冊

弘文 戸川濱男旧蔵〔室町末〕写元和五年（二六一九）付与

識語本合一冊

斯 斯道文庫蔵（伊藤有不為斎・戸川濱男旧蔵）天文十五年

年（一五四六）写本二冊

梅沢 梅沢記念館蔵（戸川濱男旧蔵）應安六年（一三七三）

写本二冊

慶 慶應義塾図書館蔵（戸川濱男旧蔵）天正六年（一五七

八）足利学校南春写本一冊

大東 大東文化大学図書館蔵天正六年（一五七八）足利学校

真瑞写本一冊宝素堂旧蔵経籍訪古志著録本

武内 瀧川君山・武内義雄旧蔵〔室町〕写本一冊

東大 東京大学総合図書館蔵（南葵文庫旧蔵）〔室町末〕写

本一冊

東洋 東洋文庫蔵〔室町末〕写本一冊

聖語 正倉院聖語蔵〔鎌倉〕写本存巻下一軸

東急 大東急記念文庫蔵〔室町〕写本二冊

六地 六地藏寺蔵〔室町末〕写単経本一冊

宋版 北京図書館蔵（常熟瞿氏鐵琴銅劍樓旧蔵）〔南宋〕建

安虞氏家塾刊本

世徳 〔明嘉靖十二年（一五三二）〕世徳堂顧春刊本

道蔵 明正統刊道蔵本（道徳眞經註四巻）道蔵洞神部玉訣類

知字号

敦 大英図書館蔵〔唐〕写零巻（存第三十九章）八十一章

首欠）敦煌出土スライソ蒐集本（S三九二六）

敦 大英図書館蔵〔唐〕写零巻（存第三十八章、後半欠）

敦煌出土スライソ蒐集本（S四六八二）

治要 羣書治要巻卅四所収本 宮内庁書陵部蔵〔鎌倉〕写金

沢文庫本

天理 天理図書館蔵。老子道德經河上公解〔抄〕寛永四

（二六一八）写本存道経三十七章掲出経注文

一、各本の書誌事項等詳細については拙著『河上公章句。老子

道德經』の研究』（東京 汲古書院 平成十八・二）緒論の

七「対校諸本略解題」を参照されたい。

下1オ1老子經下

河上公章句第三

論德第三十八

上德不德

上德謂太古无名号之君德大無上故言上德也不德者言其不以德教民因循自然養人性命其德不見故言不德也

是以有德

言其德合於天地和氣流行民得以全也

下德不失德

下德謂号謚之君德不及上德故言下德也不失德者其德可見其功可稱也

是以無德

以有名号及其身故

上德無爲

言法道安靜无所改爲也

老子經下

河上公章句第三

論德第三十八

上德八德アラ不

上德ト云ハ太古ノ名号无キ之君ヲ謂(フ)・德大ニソ上無(シ)。故ニ上德ト言(フ)也。德アラ不ト云ハ「者」言ハ其(レ)德ヲ以テ民ヲ教ヘ不ソ・因循自然ニソ人ノ性命ヲ養フ・其ノ德見去ハレ不・故ニ德アラ不ト言(フ)也
是(ヲ)以テ德有(リ)

言ハ其ノ德・「於」天地ニ合ナフテ・和氣流行ソ・民以テ全キコトヲ得(也)

下德八德ヲ失ハ不

下・德ト云ハ・号謚ノ「之」君ヲ謂(フ)・德上・德ニ及ハ不・故ニ下・德ト言(フ)也。德ヲ失ハ不ト云ハ「者」・其ノ德見ツ可(ク)・其ノ功稱去シツ可(キ)ソ(也)

是(ヲ)以テ德無(シ)

名号・其ノ身ニ及フコト有(ル)ヲ以テ(ノ)故ナリ

上・德ハ爲(ル)コト無(シ)

言ハ道ノ安・静ニ法リテ・改メ爲(ル)所无(キ)ソ(也)

而無³³以為

言无³⁴以名號為也³⁵

下德為之

言為教³⁶令³⁷施政事也³⁸

而有³⁹以為

言以為已取名号也⁴⁰

上仁為之

上仁謂行仁之君也其仁無上故言上仁也為之者為⁴¹

仁恩之也⁴⁴

而無⁴⁵以為

功成事立無以執為也⁴⁶⁴⁷⁴⁸⁴⁹⁵⁰

上義為之

為義⁵¹以斷⁵²為也⁵³

而有以為

動作以為已殺人以成威賦下以自奉也⁵⁴⁵⁵⁵⁶⁵⁷⁵⁸

上禮為之

謂上礼之君也其礼無上也為之者言為禮制度序威⁵⁹⁶⁰⁶¹⁶²⁶³

而テ以テ為(ル)コト無(シ)

言八名號ヲ以テ為(ル)コト无(シ)也

下・德ハ為ス之

言八教・令ヲ為(シ)テ・政事ヲ施ス也

而テ以テ為(ル)コト有(リ)

言八為(ル)コトヲ以テ己名号ヲ取(ル)也

上仁ハ為ス之

上仁ト云ハ・仁ヲ行去フ之君ヲ謂(フ)也。(其ノ仁

上無(シ)・故ニ上仁ト言(フ)也。為(ス)ト云ハ「之者・

仁恩ト為(ス)ソ之也」

而テ以テ為(ル)コト無(シ)

功成(リ)事立テ・以テ執(リ)為(ル)コト無(シ)也」

上・義ハ為ス之

義ヲ為(シ)テ以テ斷・害ス也」

而テ以テ為(ル)コト有(リ)

動作ノ・以テ己方為去ニス。人ヲ殺ノ・以テ威ヲ成(シ)・

下ヲ賦ノ・以テ自(ラ)奉ス也」

上・禮ハ為ス之

上礼ノ「之君ヲ謂(フ)也。其ノ礼上無(シ)也。為(ス)

儀也⁶⁴
也⁶⁵

而莫之應

言礼華盛實衰飾偽煩多動則離道不可應也⁶⁶
⁶⁷
⁶⁸
⁶⁹
⁷⁰

則攘臂而仍之

言煩多不可應也上下忿争故攘臂相仍引也⁷¹
⁷²
⁷³
⁷⁴
⁷⁵

故失道而後德

言道衰而德化生也⁷⁶
⁷⁷

失德而後仁

言德衰而仁愛見也⁷⁸

失仁而後義

言仁衰而義分明也⁷⁹
⁸⁰
⁸¹
⁸²
⁸³

失義而後禮

言義衰則施礼聘行玉帛⁸⁴
⁸⁵
⁸⁶

夫禮者忠信之薄

言礼廢本治末忠信日以衰薄⁸⁷

而亂之首也⁸⁸

礼者賤質而貴文故正直日以少邪乱日以生也⁸⁹
⁹⁰
⁹¹
⁹²

ト云「之者」・言八禮ノ制度ヲ為リテ・威儀ヲ序ルソ「也」
而テ「之」應去スル莫（シ）

言八礼ハ・華盛ニッ實衰ヘテ飾偽煩多ナリ・動ク「トキ
八」則「道ヲ離去レテ・應去ス可（カラ）不「也」

「則」臂ヲ攘ケテ「而」仍ク「之」

言八煩多ニッ應去ス可（カラ）不「也」。上下忿争ス・故
二臂ヲ攘ケテ相仍キ引ク「也」

故二道ヲ失（フ）テ而テ後二德アリ

言八道衰ヘテ・「而」德化生ル「也」

德ヲ失（フ）テ而テ後二仁アリ

言八德衰ヘテ・「而」仁愛見去ハル「也」

仁ヲ失（フ）テ而テ後二義アリ

言八仁衰ヘテ・「而」義分明ナリ「也」

義ヲ失（フ）テ而テ後二禮アリ

言八義衰（フ）ルトキハ・「則」礼聘ヲ施シ・玉帛ヲ行フ

夫平（レ）禮ハ「者」・忠・信ノ「之」薄キニッ

言八礼ハ本ヲ廢テ・末ヲ治ム・忠・信・日ニ以テ衰薄ス

而テ亂ノ「之」首ナリ「也」

礼ハ「者」・質ヲ賤（シウ）「而」文ヲ貴フ・故二正・直日ニ以

前識者道之華

不知而言知為前識此人失道之實得道之華⁹⁵

而愚之始也^{96 97 98}

言前識之人愚闇之唱始也^{99 100 101 102 103}

是以大丈夫孤其厚

大丈夫謂道德之君孤其厚者孤身於淳朴^{104 105 106 107 108 109}

不居其薄¹¹⁰

不処身遠道為世煩乱也

孤其實¹¹¹

処忠信也¹¹²

不居其華¹¹³

不尚言也^{114 115}

故去彼取此

去彼華薄取此厚實也^{116 117}

テ少ク・邪乱曰ニ以テ生^{補注2}ル也」

前識ハ「者」・道ノ「之」華ニ

知(ヲ)不^レ而^レ知レリト言(フ)ヲ・前識ト為。此ノ人ハ・

道ノ「之」實ヲ失(フ)テ道ノ「之」華ヲ得

而(テ)愚ノ「之」始メナリ也」

言ハ前識ノ「之」人ハ・愚闇ノ「之」唱ノ始ナリ也」

是ヲ以テ・大丈夫ハ其ノ厚キニ處上テ

大丈夫ト云ハ・道・徳ノ「之」君ヲ謂(フ)・其ノ厚キニ處

上(テ)ト云ハ「者」・身ヲ「於」淳朴入ニ處上(ク)ソ^{補注3}

其ノ薄キニ居不

身ヲ処上(ク)コト道ニ違フテ・世ノ煩乱ヲ為不也^{補注4}

其ノ實ニ處上(テ)

忠信ニ處上(ル)也」

其ノ華ニ居不

言ヲ尚ヒ不也^{タマフ下}

故ニ彼ヲ去上テ・此ヲ取(ル)

彼ノ華薄ヲ去上テ・此ノ厚實ヲ取(ル)也」^{美田版}

1 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東洋・杏・筑波・慶

- 2 「河上公章句」、(大東)は大題直下に題しその左旁に「異本无」との校異書入れ有り
- 3 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・梅沢・六地・敦・道蔵」三十字無し、尚(梅沢)は「句」字左旁に「第三」と、(東洋)「書」・東活)は「句」字下に小圈を施し右旁に「第三」と、また(弘文)は「第三」下旁に「二字無古本」と校異の書入れが見える
- 4 (無窮・書陵・斯・東急・六地・陽・敦・治要)は章題無し、(武内・東大)は「論德章第三十八」に、(東洋)は「論德章第卅八」に、(慶・大東)は「上德章第三十八」に、(杏)は「上德章第卅八」に、(筑波)は「上德不德章第三十八」に、(弘文)は「上德不德章第卅八」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(武内)は「上德章」、(東大・東洋)は「上德不德章」と、(杏)・筑波・慶・大東)は「論德章」と題し、また(弘文)には題下に大字で「本云論德第卅八」との書入れがある、尚(梅沢)は「上」字右旁に「一章」と(無窮)は本章首行眉上に「論德」と下巻内章次数を記す
- 5 (筑波・梅沢)「大」字に作る
- 6 (活)・活・無窮・書陵・東洋・慶・大東・弘文・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵)「無」字に作る
- 7 「君」字下、(活)・活・無窮・書陵・陽)「也」字有り、尚(東洋)は青筆で「君徳」字間に小圈を施し右旁に「也」字を加筆する
- 8 (陽)・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・梅沢・敦(治要)「无」字に作る
- 9 (東急・敦)「也」字無し
- 10 「不徳者言其不以徳教民」(治要)此の十字無し
- 11 (弘文)「言」字無し
- 12 (道蔵)「其」字無し
- 13 (敦)「民」字無し
- 14 (梅沢・敦)「治要」「情」字に作る
- 15 (敦)「也」字無し
- 16 (敦)「也」字無し

- 17 「流行」(道蔵)「游衍」に作る
- 18 (敦)「徳」に作る
- 19 (東急・敦)「也」字無し
- 20 「号謚」(敦)「謚号」に作る
- 21 「君」字下、(無窮)「也」字有り
- 22 「言下」(敦)「下言」に作る
- 23 (敦)「也」字無し
- 24 (梅沢)「東急・敦)「也」字無し、但(梅沢)は「稱」字下字間に「也」字を加筆
- 25 (武内・東大・六地・陽)「敦・治要)「无」字に作る
- 26 「身故」(東活)「故」字下に挿入符の小圈を施し地脚に「无」後」の校異の書入れ有り
- 27 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・斯・梅沢)「治要)「也」字有り
- 28 (宋版)「世徳)「謂」字に作る
- 29 (東大)「活)「无」字に作る
- 30 (活)・活・無窮・書陵・筑波・弘文・斯・梅沢)「東急・宋版)「世徳)「道蔵)「無」字に作る
- 31 (陽)「書陵)「斯)「政」字に作る、尚(無窮)は左旁に「政」の書入れ有り
- 32 (筑波)「也」字無し
- 33 (東大)「慶)「六地)「敦)「无」字に作る
- 34 (活)・活・無窮・書陵)「筑波)「弘文)「斯)「梅沢)「東急)「宋版)「世徳)「道蔵)「無」字に作る
- 35 (陽)「書陵)「宋版)「世徳)「敦)「也」字無し
- 36 (梅沢)「命)「字に作る
- 37 (敦)「施)「字無し
- 38 (東急)「敦)「也」字無し
- 39 (斯)「經文)而有以爲」四字及び其の注文「言以爲已取名号也」八字無し、譌脱か
- 40 (敦)「治要)「也」字無し
- 41 (活)・活・陽)「書陵)「武内)「東大)「東洋)「杏)「筑波)「慶)「大東)「弘文)「斯)「梅沢)「東急)「宋版)「世徳)「道蔵)「治要)「也」字無し
- 42 (陽)「武内)「東大)「東洋)「杏)「筑波)「慶)「大東)「梅沢)「敦)「是)「无」字に、(宋版)「世徳)は「爲」字に作る
- 43 (敦)「也」字無し

44 「之也」、(東急・宋版・世徳・敦)は此の二字無し、(大東)は「之」を「云」に誤る(活・活・陽・無窮・杏・道蔵)は「之」字無し、尚、(東活)は「也」字旁に「中ナ」の書入れ有り

46 45 (筑波・慶・大東・東大・六地・敦)「无」字に作る

47 (陽・杏・筑波・武内・東大・東洋・敦)「无」字に作る

48 47 (活・活・陽・書陵・筑波)「以」字無し

49 (執)字上、(無窮・慶・大東・弘文・斯)「所」字有り

50 (武内・東大・東洋・東急・宋版・世徳・道蔵・敦)「也」字無し

51 (道蔵)「謂」字に作る

52 51 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・敦)「割」字に作る

53 (東急・敦)「也」字無し

54 (書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶)は「敦」字、(梅沢・敦)は「敦」に、(道蔵)は「敦」字に作る

55 (道蔵)「爲」字に作る

56 55 (以自)「活」字に作る

57 (自)字下、(梅沢)「以」字有り

58 57 (東急・敦)「也」字無し

59 (活・活・陽・無窮・武内・東大・東洋・杏・筑波・弘文・慶・大東・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵)「也」字無し

60 (其)字上、(弘文)「爲之者言」四字衍

61 (陽・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・敦)「无」字に作る

62 (宋版・世徳・道蔵)「也」字無し

63 62 (爲)字上、(武内・東大・東洋・宋版・世徳・道蔵)は「故言上礼」四字、(杏)は「故言上礼也」五字有り、尚、(杏)はその「故」字右旁に「以下五字異无也」と校異の書入れ有り

64 (武内・東大)「義」字に作る

65 (東急・宋版・世徳・敦)「也」字無し

66 (東急・宋版・世徳・敦)「華盛實衰」に作る

67 (實衰)「無窮」「弁實」に作る

68 (道蔵)「盛」字に作る

69 68 (可)字下、(道蔵)「徳」字有り

70 (東急・敦)「也」字無し

71 70 (東活)「可」字右下に「以」字を加筆

72 71 (活・活・陽・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・弘文・慶・大東・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・敦)「也」字無し

73 (道蔵)は「怨」字に「敦」は「急」字に作る

74 73 (武内)「辟」字に作る

75 74 (慶・大東・東急・宋版・世徳・敦)「也」字無し、(武内・東大・杏)は「之」字に「東洋」は「之者也」三字に作る、尚、(東洋)は「之者」両字左旁に青筆の見消ちを付す

76 (活・活・陽・書陵・筑波・弘文・慶・大東・斯・梅沢・東急・敦)「也」字無し

77 (東急・敦)「也」字無し

78 77 (無窮)「徳」字に作る(右旁「仁イ」と朱校異有り)

79 (東急・敦)「而」字無し

80 79 (無窮)「分」字有り

81 80 (義)字上、(無窮)「分」字有り

82 81 (義)字上、(斯・宋版・世徳・敦)「分義」に作る、尚、(東活)は「分」字に「義」字の上への移行符を付す

83 (東急・敦)「也」字無し

84 83 (失)字下、(陽)「言」字無し

85 84 (陽・書陵・東大・東急)「言」字無し

86 85 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・筑波・弘文・慶・大東・斯・梅沢・道蔵)は「也」字、(東洋)は「者」也(二字有り)

87 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・筑波・弘文・慶・大東・斯・聖語・道蔵)は「也」字、(東洋)は「者也」二字有り、尚、(東洋)は両字左旁に見消ちを付し、右旁にまた「也」字を加筆する(並びに青筆)

88 (東急・宋版・世徳・敦)「也」字無し

89 88 (道蔵)「而」字無し

90 (東急)「貢」字に作る

91 90 (敦)「耶」字に作る

92 (東急・宋版・世徳・敦)「敦)「謂」字に作る

93 (敦)「謂」字に作る

113 112 111 「識」字下、(治要)「也」字有り
 (活)・活・陽・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・「者也」二字有り、尚、(東活)の「者」字左旁に「才」の書入れ有り
 96 (道蔵)此の經文「而愚之始」は前の經文「前識者道之華」下に直接、従つて前注文「不知而言知爲前識此人失道之實得道之華」此の經文句下に配す
 98 97 (武内)「愚」字に作る、但、左旁に「愚イ」と校異の書入れ有り
 99 (道蔵)此の注文は「言前識之人」の前三字を省き「人之」とし、前注文下に直結
 101 100 (東急)・道蔵「暗」字に作る
 (活)・活・陽・無窮・書陵・東大・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・宋版・世徳・道蔵・敦「倡」字に作る、尚、(杏)は「唱」字左旁に「倡同」の書入れが有り、(東洋)は「唱」字左旁に見消ちを付し右旁に「一本作」と書入れ、眉上に「倡」字を標記する(並びに青筆)、また「東活」は「倡」字左旁に「唱一本作」との書入れ有り
 105 104 103 102 (始)字上、(東洋)「之」字有り、但、左旁に見消ちを付す
 (慶)・大東・東急・宋版・世徳・道蔵「也」字無し
 「道徳」、(無窮)・宋版・世徳・道蔵「得道」に作る
 「君」字下、(活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・東急・宋版・世徳・道蔵・治要「也」字有り
 「處」字上、(道蔵)「謂」字有り
 109 108 107 106 (治要)「撰」字に作る
 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・東急・道蔵「也」字有り
 110 (無窮)武内・東大・東洋・杏・敦・道蔵・治要「處」字に作る、但、(東洋)は左旁に見消ちを付し右旁に「居」字を加筆し、左旁にはさらに「才作處或作居」との校異の書入れ有り(並びに青筆)
 (道蔵)「居」字に作る
 (道)「敦」字無し
 (活)・活・陽・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶

訓読文補注

- 1 「為(ル)コトヲ以テ己名号ヲ取ル」、(治要)は「以て己(ヲ)為に、名号を取ル」と加點し、諸点本もほぼ同訓であるが、本点でも文意は通る
- 2 「生(ル)」、(無窮)・書陵・斯・東大)が「ナル」と加點し、(陽)・武内・杏・筑波)は「ル」を、(慶)・大東)「ルソ」を送る、今、これらに依つて「ナル」と訓む、尚、(東洋)・弘文・東活)は音読し「ス」を送っている
- 3 「處ク)、(治要)・武内)は「ヲケル」と加點、(陽)・無窮・書陵・筑波・慶)・大東)・斯)・東洋)・東活)が「ヲク」と訓む、今(陽)等の点に倣う
- 4 「世ノ煩乱ヲ為不(也)」、(治要)は「世の煩乱を為不(也)」と加點し、(陽)・書陵)・武内)も同訓で、今これに倣う、尚(筑波)・東大)は「為不」を「ナサス」と読み、(慶)・大東)は「世ノ為二煩乱セ(ル)也」と、(杏)は「世ノ為二煩乱セラレ不(也)」と訓じている

昔之得一者

昔往也一無為道之子也

天得一以清地得一以寧

言天得一故能垂象清明言地得一故能安靜不動搖也

神得一以靈

言神得一故能變化无形也

谷得一以盈

言谷得一故能盈滿而不絕也

萬物得一以生

言万物皆須道以生成也

王侯得一以為天下貞

言王侯得一故能為天下平正也

其致之

致誠也謂下五事也

天無以清將恐裂

言天當有陰陽弛張晝夜更用事不可但欲清明无已

昔ノ一之ヲ得タル者

昔ハ・往ニ也。一ハ・無為道ノ一ノ子ナリ也

天一ヲ得テ以テ清シ。地一ヲ得テ以テ寧シ

言八天一ヲ得(タリ)・故二能(ク)象ヲ垂(レ)テ清明ナリ・言八地一ヲ得(タリ)・故二能(ク)安靜ニ動搖セ(不)也

神一ヲ得テ以テ靈アリ

言八神一ヲ得(タリ)・故二能(ク)變化ノ形无(シ)也

谷一(ヲ)得テ以テ盈テリ

言八谷一ヲ得(タリ)・故二能(ク)盈(テ)滿(テ)而(レ)絶ヘ(不)也

萬物一(ヲ)得テ以テ生ス

言八万・物・皆道ヲ須テ以テ生(成)ス也

王・侯一(ヲ)得テ以テ天・下ノ貞(正)為(リ)

言八王・侯一ヲ得(タリ)・故二能(ク)天・下ノ平・正(正)為(リ)也

其(レ)致ム(之)

致ハ・誠(カ)也。下ノ五・事ヲ謂(フ)也

天以テ清カラントスルコト無(レ)。(將)裂ケンコトヲ恐(オ)チヨ

言八天當二陰・陽・弛・張・晝・夜有(テ)・更平(ル)ク事ヲ用

時將恐分裂不為天也⁴³

地無以寧將恐發⁴⁵

言地當有高下剛柔氣節五行不可但欲安靜无已時
將恐發泄不為地也⁴⁸

神無以靈將恐⁵¹

言神當有王相囚死休廢不可但欲靈无已時將恐虛
歇不為神也⁵²

谷無以盈將恐竭⁵⁶

言當有盈縮虛實不可但欲盈滿无已時將恐枯竭不
為谷也⁵⁷

萬物無以生將恐滅⁶³

言万物當隨時死生不可常生將恐滅亡不為物也⁶⁴

(フ)「當(シ)」。但清明ニソ已ム時无カラシコトヲ欲ス可
(カラ)不。將二分・裂ノ・天為(ラ)不(ラ)シコトヲ恐(チ)ヨ
「也」

地以テ寧カラシトスルコト無レ。將ニ發ケンコトヲ恐(チ)ヨ
言八地當ニ高・下・剛・柔・氣・節・五・行有(ル)「當」シ。但
安靜ニソ已(ム)時无(カラ)シコトヲ欲ス可(カラ)不。將ニ
發泄去^エソ・地為(ラ)不(ラ)シコトヲ恐(チ)ヨ「也」

神以テ靈トスルコト無レ。將ニ歇^ハキ^ハシコトヲ恐(チ)ヨ

言八神當ニ王・相・去・囚・死・休・廢有(リ)。但靈ニソ已
(ム)時无(カラ)シコトヲ欲ス可(カラ)不。將「虚(シ)ク歇
(キ)テ・神為(ラ)不(ラ)シ」コトヲ恐ル「當シ」也

谷以テ盈(テ)リトスルコト無レ。將ニ竭(キ)ナシコトヲ恐(チ)
「也」

言八當ニ盈・縮・虚・實有(リ)。但盈(チ)・滿(チ)テ已(ム)時无
(カラ)シコトヲ欲ス可(カラ)不。將ニ枯(レ)・竭(キ)テ・谷
為(ラ)不(ラ)シコトヲ恐ル「當シ」也

萬物以テ生トスルコト無レ。將ニ滅ヒンコトヲ恐(チ)ヨ

言八万物當ニ時ニ隨(ヒ)テ死生ス・常ニ生ス可(カラ)不。
將ニ滅亡ソ・物為(ラ)不(ラ)シコトヲ恐ル「當シ」也

王侯無以貴高將恐蹙⁶⁹

言王侯當屈已下人汲く求賢不可但欲貴高於人將⁷²
恐巔蹙失其位也⁸⁴

故貴必以賤為本⁸⁵

言必欲尊貴當以薄賤為本若禹稷躬稼舜陶河濱周
公下白屋也⁹⁰

高必以下為基

言必欲尊高當以下為本基猶築墟造功因卑成高下
不堅固後必傾危也¹⁰⁰

是以王侯自稱孤寡不穀

孤寡喻孤獨也不穀喻不能如車轂為衆輻所湊也¹¹¹

此非以賤為本耶¹¹²

言王侯至尊貴能以孤寡自稱此非以賤為本乎以曉¹²³

王侯以テ貴、高ナリトスルコト無し。將ニ蹙^クランコトヲ恐^レチ

ヨ

言ハ王侯・當ニ己ヲ屈^シテ人ニ下^リテ・汲^ク々ニ賢ヲ求
ム、當^レシ。但^レ於^テ人ヨリモ貴^ク・高ナランコトヲ欲^ス可^クカラ
不^レ。將ニ巔^ニ蹙^ル・其ノ位ヲ失^ハ（ハ）ンコトヲ恐^レチヨ^ク也⁸⁴
故ニ貴ハ・必ス賤ヲ以テ・本ト為^ス

言ハ必ス尊^ク・貴ナランコトヲ欲^セハ・當ニ薄^ク・賤ヲ以テ本ト為^ス・
禹稷ノ・躬^{ミツカ}稼^ムシ・舜ノ河^ノ濱^ニ陶^ツクリ・周公ノ白屋
ニ下^リ去^ル（ル）カ若^ク（ク）ナル、當^レシ也⁹⁰

高キハ・必ス下ヲ以テ・基ト為^ス

言ハ必ス尊^ク・高ナランコトヲ欲^セハ・當ニ下ヲ以テ本^ト・基ト
為^ス、當^レシ。猶墟ヲ築^キテ・功^ヲ造^ルス力^ノ・卑キニ因^リ
テ高^ク（キ）ヲ成^ス（ス）力^ノ猶^シ・下堅^ク固ナラ不^ルトキハ・後
ニ必ス傾^キ・危シ也¹⁰⁰

是^レヲ以テ・王侯・自^ラ孤寡不^レ穀ト稱^シ去^ス

孤^ク・寡^クヲハ・孤^ク・獨^クニ喻^ヘ也¹⁰⁶。不^レ穀^クハ・車^ノ・轂^ノ・衆^ノ・輻^ノ
為^シニ湊^ル所^ノ力^ノ如^ク（ク）ナルコト能^ハ不^ル（ル）ニ喻^フ也¹¹¹

此ハ賤ヲ以テ本ト為^ス（ル）ニ非^ズ耶¹¹²

言ハ王侯至尊^ク・貴ナレトモ・能^ク（ク）孤^ク・寡ヲ以テ自^ラ稱^ス

人也¹²⁴

非乎¹²⁵

嗟嘆之辭也^{126 127 128}

故致數車无車¹²⁹

言人致就車數之為輻為輪為轂為衡為轡无有名為^{130 131 132 133 134 135 136 137 138 139}

車者故成為車以喻侯王不以貴号自名故能成其貴也^{140 141 142 143 144 145}

不欲碌く如玉落く如石^{147 148}

碌く¹⁴⁹喻少¹⁵⁰落く¹⁵¹喻多¹⁵²玉少¹⁵³故見貴¹⁵⁴石多¹⁵⁵故見賤¹⁵⁶言不欲¹⁵⁷
如玉為人所貴¹⁵⁸如石為人所賤¹⁵⁹當処其中也

去ス・此八賤[㊦]以テ本ト為(ル)非[㊧]乎[㊨]。以テ人ヲ曉ス

ナリ[㊩]也[㊪]

非ス乎[㊫]

嗟嘆スル之辭ナリ[㊬]也[㊭]

故二車ヲ數フルコトヲ致(ス)トキハ・車无(シ)

言八人車二就(イ)テ數フルコトヲ致(ス)トキハ二之・輻ト為・

輪ト為・轂ト為・衡ト為・轡ト為・名ツケテ車ト為(ル)者

有(ル)コト无(シ)・故二車為(ル)コトヲ成(ス)・以テ侯王ノ

貴号ヲ以テ自(ラ)名ツケ不[㊮]・故二能(ク)其ノ貴キコトヲ

成スニ喻フ[㊯]也[㊰]

碌入・々タルコト玉ノ如(ク)・落々タルコト石ノ如(ク)ナラ

ンコトヲ欲セ不^㊱

碌入・々ハ少キニ喻(フ)・落々ハ多キニ喻(フ)・玉ハ少

シ(・)故二貴ヒ見(ル)・石ハ多シ・故二賤(シウ)セ見(ル)・

言八玉ノ如ク人ノ為去二貴ヒ(ラ)所・石ノ如ク人ノ為去

二賤(シウ)セラ所^㊲コトヲ欲セ不^㊳・當二其ノ中^㊴ニ処上(ル)

「當^㊵シ」也^㊶

1 (無窮・書陵・斯・足利・六地・陽・東急・敦)は章題無

し、(武内・東大)は「法本章第三十九」に、(東洋)は「法本章第
州九」に、(慶)は「昔之章第三十九」に、(杏・大東)は「昔
之章第卅九」に、(筑波・弘文)は「昔之得一章第卅九」に作る。
また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(武内)
は「昔之章」、(東大・東洋)は「昔之得一章」と、(杏・筑波・
慶・大東)は「法本章」と題し、(弘文)は題下に大字に「一本
云法第卅九」との書入れがある、(無窮)は本章首行眉上に「法
本二」と下巻内章次數を記す、尚、(梅沢)は本章首より経文「谷
無以盈將恐竭」下注前半までを欠く

2 「無為道之子也」、此の句は諸本間で異同が激しい。(活・活
陽・書陵・杏・慶・大東・弘文・斯)は「一無也道之
子也」に、(慶・大東)は「一无也道之子也」に、(武内・東大・
東洋・筑波)は「一元也道之子也」(但、(東洋)は青筆で「元」字
右旁に「无」字を加筆)に、(足利)は「二亡也道之子也」に、(但、
「元」字右旁に「元」字を加筆)、(東急)は「一元氣道之子也」に、
(敦)は「一元氣為道之子」に、(無窮)は「一元氣也道之子也」
(「氣」字右旁に「御本無之の朱校異記有り」)に作る。また、(治
要)は「一无為」に作り下句「道之子也」と、(慶・大東)は眉上に「無或作
无氣義通也」との校勘書入れ、また、(東活)は上の「也」字右旁
に「為」と校異の書入れがある。

3 「一以」と(敦)は「一以」と転倒

4 (活・活陽・無窮)は経文「天得一以清」句下に次句下注文前
半の「言天得一故能垂象清明也」を配す

5 (敦)「像」字に作る

6 (明)字下、(斯・活・活陽・無窮・書陵・杏・筑波・
慶)「大東・弘文」も「也」字有り、(足利)は「明」字下料紙損傷し
一字欠失

7 (陽・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘
文・斯・東急・宋版・世徳・敦・道蔵・治要)「言」字無し、(東洋)
は「者也」一字に作る

8 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵・治要)「也」字無し、(東洋)
は「者也」一字に作る

9 (活・活陽・無窮・書陵・弘文・足利・斯・東急・宋版・世
徳・道蔵)「無」字に作る

10 (道蔵)「爲」に作る

11 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵・治要)「也」字無し

12 (治要)「能」字無し

13 (道蔵)「而」字無し

14 (道蔵)「枯竭」二字に作る

15 (敦・治要)「也」字無し

16 (活・活陽・斯・慶・大東・筑波・弘文・足利・東
急・敦・治要)「以」字無し

17 (治要)「成」字無し

18 (東急・敦)「也」字無し、(筑波)は「之」字に作り、(武内・
慶)は「大東・弘文・斯・足利」は「之也」二字に作る、尚、(東
洋)は青筆で「也」字に見消ちを付し左旁に「之」字を加筆する

19 王侯、(斯・活・活陽・武内・東大・東洋・杏・
筑波・慶・大東・弘文・足利・書陵・東急・六地・宋版・世徳・
敦・道蔵・治要)「侯王」に作る

20 (活・活陽・書陵・六地)「以」字無し、尚、(東活)は
「爲」字間に小圈を施し眉上に「以」字を標記

21 (高天下、(宋版)「天下高」に作る

22 (活・活陽・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・陽
・六地・宋版・世徳・敦・道蔵)「正」字に作る、尚、(杏・
慶)は眉上に「大東」は「貞」字右旁に「貞異本作正字意同」と
(六地)は「正」字右旁に「或本貞一」と、また(東洋(青)・東活)
は「正」字左旁に「貞本本無誤」眉上に「一本摺本成作貞」と、(無
窮)は「貞」字左旁に「この本と同じく「正一」と校異の書入れが有
る

23 王侯、(活・活陽・無窮・書陵・東洋・筑波・慶・
大東・弘文・斯・足利・東急・宋版・世徳・敦・道蔵・治要)
「侯王」に作る

24 (能)字下、(足利)「卒」字有り

25 (下)字下、(東洋)「之」字有り、但、左旁に青筆で見消ちを付
す

26 (平正、(敦)「正平」に作る

27 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し

28 (道蔵)は「戒」に、(世徳)は「誠」に、(敦)は「成」字に
作る

29 (道蔵)「故」字に作る

30 (無窮・書陵・東洋・杏・筑波・慶・大東)「六」字に作る

31 (東急)「也」字無し

32 (東急)「也」字無し

33 (東急)「也」字に作る

(東大・慶・大東・六地・敦)「元」字に作る

63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

〔道藏〕「以」字に作る。
 〔陽〕字下、〔武内〕「張」字有り、行か
 〔東急・宋版・世徳〕「施」字に作る
 〔弛張〕、〔治要〕此の二字無し
 〔更用事〕、〔治要〕此の三字無し
 〔足利・宋版・世徳・道藏〕「事」字無し
 〔清明〕、〔道藏〕「安靜」に作る
 〔活〕・活・無窮・書陵・筑波・足利・斯・東急・宋版・世
 徳・道藏〕「無」字に作る
 〔道藏〕「發」字に作る
 〔天〕字下、〔筑波・慶・大東・斯・弘文・足利〕「下」字有
 り、但〔足利〕は「下」字に見消ちを付す
 〔宋版・世徳〕「也」字無し
 〔東大・六地・敦〕「无」字に作る
 〔氣節五行〕、〔治要〕此の四字無し
 〔活〕・活・無窮・書陵・弘文・足利・東急・宋版・世徳・道
 藏〕「無」字に作る
 〔道藏〕「將」字無し
 〔敦〕「洩」字に作る、尚、〔書陵〕は右旁に「本作洩」の校異
 書入れ有り
 〔東急・宋版・世徳・敦・治要〕「也」字無し
 〔陽〕・六地・敦・治要〕「無」字に作る
 〔囚死〕、〔治要〕此の二字無し、〔道藏〕「死囚」に作る
 〔陽〕・筑波〕「体」字に作る
 〔活〕・活・無窮・書陵・杏・筑波・弘文・斯・足利・梅
 沢・東急・宋版・世徳・道藏〕「無」字に作る
 〔斯・東急・治要〕「也」字無し
 〔東急〕此の經文句及び注文無し
 〔陽〕・東大・慶・大東・六地・治要〕「无」字に作る
 〔道藏〕「靈」字に作る
 〔六地〕「歌」字に作る、尚、其の左下旁に「或本竭」の校異書入
 れ有り
 〔言〕字下、諸本「谷」有り
 〔活〕・活・弘文・足利・無窮・書陵・斯・梅沢・宋版・世
 徳・道藏〕「無」字に作る
 〔宋版・世徳・敦・治要〕「也」字無し
 〔陽〕・六地・治要〕「无」字に作る

87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67 66 65 64

〔死生〕、〔宋版・世徳・道藏〕「生死」に作る
 〔可〕字下、〔筑波・弘文・大東・慶〕は「无已時但欲」五字、
 〔活〕・活・無窮・宋版・世徳・道藏〕は「但欲」二字有り
 〔宋版・世徳・道藏〕「常」字無し、〔慶・弘文〕は「當」字に
 作る
 〔生〕字下、〔活〕・活・無窮・東洋・宋版・世徳・道藏〕「無
 已時」三字有り
 〔道藏〕「恐」字無し
 〔王侯〕、〔杏・筑波・弘文・斯・足利・慶・大東・東洋・
 梅沢・宋版・世徳・道藏・敦・治要〕は「侯王」に作る、尚、
 〔東洋〕は兩字に見消ちを付し右旁に「王侯本尊王」と、左旁に
 〔侯王本尊王〕との校異の書入れ（並びに青筆）が有る、また、〔東
 活〕にも同文の書入れを認める
 〔慶波・東大・六地・敦・治要〕「无」字に作る
 〔慶・大東〕「尚」字に作る、尚、両本共左旁に「高イ」との書
 入れが有る、また〔杏〕は「高」字左旁に「尚イ」とある
 〔王侯〕、〔活〕・活・陽・書陵・東洋・杏・筑波・慶
 大東・弘文・斯・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・敦・敦・
 道藏〕治要〕「侯王」に作る
 〔己〕字下、〔宋版・世徳・道藏〕「以」字有り
 〔人〕字上、〔道藏〕「於」字有り
 〔書陵・斯・足利・東急〕「吸」字に作る
 〔求〕字上、〔東洋〕「而」字有り
 〔宋版・世徳〕「貴」字無し
 〔慶・大東〕「尚」字に作る、尚、両本共左旁に「高」字の書入
 れが有る
 〔武内・東洋・杏〕「於」字無し
 〔人〕字下、〔敦〕「无已時」三字有り
 〔將恐顛蹙失其位也〕（東大）は此の八字を大字經文として書写
 し次經文に連続する
 〔道藏〕「恐」字無し、〔敦〕「欲」字に作る
 〔活〕・活・陽・無窮・武内・東洋・杏・筑波・東急・宋
 版・世徳・敦・道藏〕治要〕「願」字に作る
 〔敦〕「也」字無し
 〔宋版・世徳〕「必」字無し
 〔道藏〕「貴」字に作る
 〔若〕、此の本、本行に脱す、「本馬」字間に挿入符の小圈を施し

右旁に「若^{ナレ}」と加筆
 88 (活)・活・陽・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶
 大東・梅沢・東急)「耕」字に作る、尚(書陵)は左旁に「稼
 イ」と(東洋(書)・東活)は左旁に「稼イ本」と、杏・慶
 は眉上に「耕或作稼」と、また(大東)の左旁に「或作稼也」との
 校異書入れがある
 (慶)「阿」字に誤る
 89 (書陵・道蔵・敦)「也」字無し、(斯・弘文・足利)「者也」
 二字に作る
 90 (欲)字下、(書陵・杏・慶・大東・弘文・斯・足利・梅沢)
 「立」字有り
 91 (梅沢)「尊」字無し
 92 (活)活・陽・無窮・書陵・筑波・慶・大東・弘文・斯
 ・足利・東急・宋版・世徳・道蔵・治要)「貴」字に作る
 (梅沢)本行に「嘗」字を脱し、小圈を施し右旁に加筆
 93 (梅沢)「書」字に作る
 94 (治要)此の「基」字以下の注文無し
 95 (東急)「由」字に作る
 96 此の本「築造」字間に小圈を施し右旁に「墟」字を加筆、今其の
 加筆訂正に従う(活)活・陽・無窮・書陵・武内・東大・
 東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・斯・足利・梅沢・東急)
 97 「墟」字に、(宋版・世徳・敦・道蔵)は「牆」字に作る
 98 (傾)字下、(弘文)は「嗔」字有り
 99 (武内・東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し、(東洋)
 100 は「者也」一字に作る
 101 「王侯」(杏・筑波・慶・大東・弘文・東急・世徳・
 敦・道蔵・治要)「侯王」に作る、尚(東洋(書)・東活)は左
 102 旁に「侯王才」の書入れ有り
 (慶)大東・斯・足利・敦)は「日」字に、(宋版・世徳)
 103 は「謂」字に、(無窮・筑波・弘文・六地)は「稱日」(道蔵)は
 「謂日」二字に作る、尚(書陵)は「稱」字左旁に「イ本作日」と
 104 また、(東洋)は「稱孤」字間に小圈を施し右旁に「日」と(書筆)
 と(東活)も同所に「日本」との校異書入れがある
 (東大・足利・道蔵)「穀」字に作る、尚(東洋(書)・東活)は
 眉上に「經家作穀訓善今為穀亦失助之意」との校勘書入れ有り
 (寫)字上(無窮)「者」字有り

106 105 (武内・東大・東洋・慶・梅沢)「諭」字に作る
 (活)活・陽・書陵・杏・筑波・大東・弘文・斯・足
 107 利・武内・東大・東洋・慶・梅沢・東急・宋版・世徳・敦・道
 蔵・治要)「也」字無し
 108 (東大・大東・足利)「穀」字に作る
 109 (武内・東大・梅沢)「諭」字に作る
 110 (東大・大東)「穀」字に作る
 111 (梅沢)は「輪」(世徳)は「穀」字に作る
 112 (慶)大東・宋版・世徳・敦)「也」字無し、(東洋)は「者
 也」一字に作る
 113 (非)字下、(東急)「其」字有り
 114 (東急・敦・治要)「耶」字無し、(活)活・陽・杏・
 武内・東大・東洋)「邪」字に作る
 115 (王侯)「活」活・陽・無窮・書陵・杏・筑波・慶・
 大東・弘文・東急・宋版・世徳・敦・道蔵・治要)「侯王」に作
 116 る
 (梅沢)「聖語」(「貴」字無し)
 117 「稱」字下(弘文)「以」字有り
 118 (道蔵)「言」字に作る
 119 (道蔵)「非」字無し
 120 (杏)「為」字重複、一字衍
 121 (道蔵)「乎」一字無し
 122 (以曉人也)「治要)此の注文四字無し
 123 (宋版・世徳)「也」字無し
 124 (敦)「悲」字に作る
 125 (梅沢)「聖語」(「差」字に作る
 126 (活)活・陽・書陵・筑波・弘文・斯・足利・宋版・世
 127 徳・敦・道蔵)「歎」字に作る
 128 (東急)宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し
 129 (活)活・陽・無窮・書陵・武内・東洋・杏・筑波・弘文・斯
 ・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵)「無」字に作る
 130 「言」字上、(宋版・世徳・敦・道蔵)「致就也」三字有り
 131 (筑波)「人」字無し
 132 (宋版・世徳・敦・道蔵)「致」字無し
 133 (東急)「為」字無し

149 148 (梅沢)「論」字に作る
 (斯)は「輪」(梅沢)は「輻」字に作る
 (東大)「穀」字に作る
 (爲衝)「道蔵」此の「字無し」
 138 137 136 135 134 (活)・活・書陵・筑波・弘文・斯・足利・梅沢・東急・宋
 版・世徳・敦・道蔵「無」字に作る
 (道蔵)「爲」字無し
 140 139 「者」字上(筑波)「也」字有り
 (武内・東大)「論」字に作る
 142 141 (活)・活・陽・書陵・武内・東大・東急・道蔵
 「王侯」に作る
 143 (活)・活・陽・書陵・杏・武内・東大・東洋・慶・大
 東・筑波・弘文・斯・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・敦・道
 蔵「尊」字に作る
 (東大)「号」字に作る
 146 145 144 「貴」字上(無窮)「高」字有り
 (宋版・世徳・敦)「也」字無し、(慶・大東)は「也矣」、
 147 (東洋)は「者也」字に作る
 (書陵・六地)は「琢」(無窮・道蔵)は「碌」字に作る、尚、
 (東洋)は青筆で右旁に「琢」字、左旁に「中本」と、また(東活)
 は左旁に「碌」中本」との書入れ有り
 (敦)「碌」字に作る
 (書陵)は「琢」(無窮・道蔵)は「碌」字に作る

下6ウ2 去用第四十

反者道之勤

反本也本者道所以動生万物背之則亡也

弱者道之用

159 158 157 156 155 154 153 152 151 150 (武内・東大・東洋・梅沢)「論」字に作る
 (敦)「裕」字に作る
 (武内・東大・梅沢)「論」字に作る
 「少故」(無窮)「故少」に作る
 (道蔵)「見」字無し
 (道蔵)「見」字無し
 (敦)「言」字無し
 (不)字上(道蔵)「人」字有り
 「貴」字下(無窮)「而」字有り
 (道蔵)「也」字無し

訓読文補注

1 「以テ生トスルコト」諸点本は「生」を「以」の目的語として訓
 む。「生ヲ以テスル」(梅沢)、「生ヲ以(テスル)」(大東・
 慶)、「生ケラン」ヲ以(テスル)「(大東別・慶)別」(生
 することをノミ以フこと) (書陵)、「生を以テスルこと」(治要)、「
 生を以フこと」(陽)、「生を以テストノミヲモフこと」(治要
 別・東急・東活)等の如くで、「以」を接続詞として訓む例は此の
 本その他には未だ管見に入らない。

去用第四十

反八者・道ノ之勤ナリ

反八・本「也」。本ト云ハ者・道ノ万物ヲ動生スル所以ナ
 リ・之ヲ背クトキハ則亡フ「也」

弱八者・道ノ之用ナリ

柔弱者道之所常用故能久長⁸ ⁹ ¹⁰ ¹¹ ¹²

天下萬物生於有¹³ ¹⁴ ¹⁵ ¹⁶

天下万物皆從天地生天地有¹⁷形位故言生於有也¹⁸

有生於無¹⁹ ²⁰

天地神明蚘飛蠕動皆從道生道无形故言生於无此²¹ ²² ²³
言本勝於葉弱勝於強謙虛勝盈滿也²⁴ ²⁵ ²⁶ ²⁷ ²⁸

校異

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(武内・東大・東洋)は「去用章第四十」に、「杏・慶・大東」は「反者章第四十」に、「弘文」は「反者道之動章第四十」に、「筑波」は「反者道之動章四十」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(武内)は「反者章」、(東大・東洋)は「反者道之動章」と、「杏・筑波・慶・大東」は「去用章」と題し、「弘文」は題下に大字で「一本去用第四十」との書入れがある、尚、「梅沢」は章題「去」字右旁に「三章」と、「無窮」は本章首行眉上に「去用三」と下巻内章次数を記す
- 2 「反」字上、「敦」¹「反者」二字有り
- 3 「敦」¹「也」字無し
- 4 「敦」¹「也」字無し
- 5 「道」字下、「活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・敦・道感」²之字有り
- 6 「動」字下、「宋版・世徳・道感」更に「動」一字有り

柔弱八「者」・道ノ「之常二用」¹所ナリ²故二能³ク久長ナリ

天下ノ萬物ハ「於」有¹リ生ス

天下ノ万物ハ・皆天地從¹リ生ス²・天地ハ・形位有¹

(リ)・故二於¹有²ヨリ生³ト言⁴フ「也」
有八「於」無¹ヨリ生²(ス)

天地神明・蚘・飛蠕動・皆道從¹(リ)生ス²(・)道ハ形无³(シ)・故二於¹无²ヨリ生³(ス)ト言⁴フ⁵・此ハ言八本(八)「於」葉二勝⁶チ・弱八「於」強二勝⁷(チ)・謙⁸・虛八盈滿二勝⁹ツ「也」

- 7 (東急・敦・道感)「也」字無し
- 8 「所」字下、「活・活・無窮」¹「以」字有り
- 9 「用」字下、「道感」¹「也」字有り
- 10 「故能久長」(敦)此の注文句無し
- 11 「久長」(宋版・世徳・道感)「長久」に作る
- 12 (活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・道感)は「也」字(梅沢)は「之也」二字有り
- 13 「下」字下、「活・活・陽・無窮・書陵・足利・梅沢・武内・東大・東洋・杏・筑波・弘文・慶・斯・六地・東急」は「之」字(大東)は「生」字有り
- 14 (書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶・大東・弘文・斯・六地・東急)「萬」字無し
- 15 (大東)は「物」字右旁に「之」字を加筆、しかし、此れは本来は(大東)「天下生物」句の「生」字の訂字であろう
- 16 「生」字下、「道感」¹「之」字有り
- 17 「天下」(武内・東大・東洋・宋版・世徳・道感)此の二字無し

18 (敦・道藏)「也」字無し、(武内)は「也」之、(梅沢)は「之也」二字に作る
 (斯)「於」字無し
 20 (東大・慶・大東・六地・敦)「无」字に作る
 21 (活・活・無窮・書陵・弘文・足利・斯・東急・世徳・道藏)「無」字に作る
 22 (活・活・武内・東洋・弘文・足利・無窮・書陵・梅沢・東急・世徳・道藏)「無」字に作る
 23 「此」字上(活・活・陽・無窮・書陵・杏・東大・筑波・弘文・慶・大東・斯・武内・東洋・足利・梅沢・東急・道藏)

「也」字有り
 24 (足利)「於」字無し、(斯)は「從」字に作る
 25 (活・活・陽・無窮・弘文・斯・宋版・世徳・敦・道藏)「華」字に作る、(足利)は「葉華」二字に作り、「葉」字に見消ちを付す
 26 「勝」字下、(東洋・慶・大東・東急・道藏)「於」字有り、但(東洋)は左旁に青筆で見消ちを付す
 27 「盈滿」(敦)「滿盈」に作る
 28 (弘文・敦・道藏)「也」字無し

下7才3 同異第四十一

上土聞道動而行之

上土聞道自動苦竭力而行之

中土聞道若存若亡

中土聞道治身以長存治國以太平欣然而存之退見財色榮譽惑於情欲而復亡也

下土聞道大笑之

下土貪很多欲見道柔弱謂之怨懼見道質朴謂之鄙陋故大笑之

同異第四十一

上土八道ヲ聞テ・勤メテ(而)行フ(之)

上土八道ヲ聞テ・自(ラ)勤・苦ソカラ渴ソ・(而)行フ(之)

中土八道ヲ聞テ・存セルカ若ク亡セルカ若シ

中土八・道ノ身ヲ治メテ以テ長ク存シ(一)國ヲ治メテ以テ太平ナルヲ聞テ(一)欣然トシ(而)存ス(之)・退テ財・色・榮・譽ヲ見テ・(於)情欲ニ惑フテ・(而)復去亡ス(也)

下土八道ヲ聞テ・大ニ笑フ(之)

下土八・貪(多)很ニ欲多(シ)・道ノ柔弱ナルヲ見テ八・之ヲ怨・懼ナリト謂(ヒ)道ノ質朴入ナルヲ見テ八之ヲ鄙・陋ナリト謂(フ)・故大ニ笑(フ)(之)

不笑²³不足以為道

不為下土所笑不足名以為道²⁶

故²⁷建言有之

建設也設言以有道當如下句也³²

明道若昧

明道之人若闇昧无所見也³⁶

進道若退

進取道者若退不及³⁸

夷道若類

夷平也大道之人不自別殊若多比類也⁴¹

上德若谷

上德之人若深谷不恥垢濁也⁴²

大白若辱

大潔白之人若汙辱不自彰顯也⁴⁵

廣德若不足

笑(ハ)不(ル)ハ・以テ道ト為(ル)ニ足(ラ)不

下・土ノ為去ニ笑(ハ)所不(ル)ハ・名(ツケ)テ以テ道ト為(ル)ニ足(ラ)不

故ニ言ヲ建(ス)ク(ル)コト有(リ)ニ之

建(ハ)・設(ニ)也。言ヲ設ケテ以テ道有(ル)ハ・當ニ下ノ句ノ

如(ク)ナル「當(シ)也」

道ニ明ナルハ昧(ス)キカ若(シ)

道ニ明ナル「之」人ハ・闇・昧ニツ見(ル)所无(キ)カ若(シ)也

道ニ進テ退クカ若(シ)

進テ道ヲ取(ル)者ハ・退テ及ハ不(ル)カ若(シ)

道ニ夷(ラ)カナ(ル)類(ノ)若(シ)

夷(ハ)・平(ニ)也。大(道)ノ「之」人ハ・自(ラ)別(ル)入(ル)ニ殊(ナ)ラ

不・比・類(多)キカ若(シ)也

上・德(ハ)谷(ノ)若(シ)

上(德)ノ「之」人ハ・深(ク)谷(ノ)垢(ヲ)濁(ラ)耻(チ)不(ル)カ若(シ)也

大(白)ハ辱(レ)タルカ若(シ)

大(潔)・白(ノ)「之」人ハ・汙(ラ)辱(ニ)ツ自(ラ)彰(ハ)レ顯(ハ)レ不

(ル)カ若(シ)也

廣(德)ハ・足(ラ)不(ル)カ若(シ)

德行廣大之人若愚頑不足也⁴⁶

建德若揄⁵⁰

建設道德之人若可揄引使空虛也⁵¹

質直若渝⁵⁴

質朴之人若五色有渝淺不明也⁵⁵

大方無隅⁵⁶

大方正之人无委曲廉隅也⁵⁷

大器晚成⁶⁰

大器之人若九斲瑚璉不卒成也⁶¹

大音希声

大音猶雷霆待時而動論常愛氣希言也⁶³

大象無形⁶⁷

大法象之人質朴无形容也⁶⁸

道隱無名⁷¹

道潜隱使人无能指名也⁷²

德行廣大ノ之人ハ・愚頑ニツ足ラ不ルカ若シ也

建・徳ハ揄クカ若シ

道徳ヲ建^{補注}テ・設^{補注}クル之人ハ・揄キ引テ・空・虚ナラ使

ム可キカ若シ也

質・直ハ渝ルカ若シ

質・朴ノ之人ハ・五色ノ渝リ淺ノ明ナラ不ルコト有ル

カ若シ也

大方ハ隅無シ

大・方・正ノ之人ハ・委・曲・廉・隅无シ也

大器ハ晚ク成ル

大器ノ之人ハ・九・鼎・瑚・璉ノ・卒カニ成ラ不ルカ若

シ

大音ハ声希ナシ

大音ト云ハ・雷・霆ノ時ヲ待テ而動クカ猶シ・常ニ氣ヲ

愛^{補注}ノ言ヲ希^{補注}ニスルニ論フ也

大象ハ形無シ

大・法・象ノ之人ハ・質・朴・无・形・容无シ也

道ハ隱レテ名無シ

道ハ潜レ隱レテ・人ヲノ使能ク指シ名ツクルコト

夫唯道善貸且成

成就也言道稟貸人精氣且成就也⁷⁶
成就也⁷⁷

校異

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は「章題無し」(武内・東大・東洋)は「同異章第四十一」に、(杏・慶)は「上土章第四十一」に、(大東)は「上土章第卅」に、(弘文)は「上土章第四十一」に、(筑波)は「上土章道章四十一」に作る。また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(武内)は「上土章」(東大・東洋)は「上土章道章」と、(杏・筑波・慶・大東)は「同異章」と題し、(弘文)は題下に「又同異」との書入れがある、尚、(梅沢)は「章題」同「字右旁に」四章」と、(無窮)は本章首行肩上に「同異四」と下巻内章次数を記す。
- 2 (梅沢)は「功」字に、(陽・書陵・弘文・足利)は「心力」二字に作る、尚、(東活)は「力」上の字間に小圈を施し右旁「心イ」の書入れ有り
- 3 (道蔵)「而」字無し
- 4 (足利)「之」字無し、(活・陽・書陵・無窮・武内・東大・筑波・慶・大東・弘文・斯・梅沢・東急)は「也」字に、(道蔵)は「之也」二字に作る、尚、(東洋)は青筆で「之」字下に「也」字を加筆
- 5 (陽)「開」字に誤る
- 6 (太平)「足利」「大手」に誤り、「手」字右旁に「平」字加筆
- 7 (筑波・書陵)「賤」字に作る
- 8 (斯)「言」字に作る、誤写か
- 9 (宋版・世徳・敦)「或」字に作る
- 10 (書陵)「慾」字に作る
- 11 (東急)「後」字に作る
- 12 (東急)「也」字無し、(敦)は「之」字に、(無窮・杏・武内・東大・東洋・梅沢・宋版・世徳)は「之也」、(道蔵)は「之矣」

無力ラ「使」ム「也」
夫平(レ)唯道善(ク)貸ヘテ且成ス⁷⁸
成八・就「也」。言八道人ノ精氣ヲ稟(ケ)貸(ヘ)テ・且成
就ス「也」
社代反

- 13 (慶)大東・足利・梅沢・敦)は「咲」字に作る
- 14 (活)活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵)「狼」字に作る
- 15 (活)活・陽・書陵・武内・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯)は「慾」字に作る
- 16 (見)「字上、(東大)」は「心」字有り
- 17 (足利)「謂」字無し、(諷脱)か
- 18 (諸本並びに)「恐」字に作る
- 19 (東急)「撲」字に作る
- 20 (大)「字下、(無窮・梅沢・敦)「而」字有り
- 21 (慶)大東・足利・梅沢・敦)は「也」字に、(活)活・陽・書陵・武内・東大・東洋・梅沢・敦)は「也」字に、(活)活・陽・無窮・書陵・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢)は「之也」、(道蔵)は「之矣」二字に作る、尚、(東洋)は青筆で「也」字上の字間に小圈を施し右旁に「之」字を加筆
- 22 (書陵・筑波・慶・大東・足利・梅沢・敦)咲」字に作る
- 23 (書陵・筑波・慶・大東・弘文・足利・梅沢・敦)「咲」字に作る
- 24 (書陵・筑波・慶・大東・弘文・足利・梅沢・敦)「咲」字に作る
- 25 (名以)「(宋版・世徳)は「以名に、(道蔵)は「以多」に作る
- 26 (活)活・陽・武内・東大・杏・筑波・慶・大東・弘文・無窮・書陵・梅沢・東急)は「者也」二字有り、但、(東洋)は青筆で「者」字左旁に見消ちを付す
- 27 (活)活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・筑波・慶・大東・足利・梅沢・六地・東急・敦)「故」字無し、尚、(杏)は「故」字左旁に「イ无」と、(杏・慶・大東)の肩上に

「建字」上有故字或无也」との校異の書入れがある
 28 「建」字上「慶」二字有り 衍
 29 「設」字上「否」字に作る
 30 「武内・慶」大東・弘文・足利・斯「道」字有り
 31 「敦」以「字無し」活・活・陽・無窮・書陵・弘文・足利・斯「東急」は「已」字に作る、尚「書陵・東活」は「已」字左旁に「以本」との書入れ有り
 32 「杏」武内・東大・東洋・宋版・世徳・敦「也」字無し、陽・書陵・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢「は」之也「二字に作る」
 33 「活」活・陽・書陵・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・道蔵「暗」字に作る
 34 「活」活・書陵・無窮・筑波・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・世徳・道蔵「無」字に作る
 35 「見」字下「道蔵」知「字有り」
 36 「陽」宋版・敦「也」字無し「東洋」は「者也」二字に作る
 37 「筑波・東急」者「字無し」
 38 「活」活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯「東急」は「也」字「東洋」は「者也」梅沢「は」之也「二字有り」
 39 「梅沢」太「字に作る」
 40 「別殊」道蔵「殊別」に作る
 41 「敦」道蔵「也」字無し「陽・書陵・梅沢」之也「二字に作る」
 42 「梅沢・聖語・宋版・道蔵」恥「字に作る」
 43 「筑波」太「字に作る」
 44 「筑波」太「字に作る」
 45 「書陵・東急・宋版・世徳・敦」道蔵「也」字無し「東洋」は「者也」二字に作る
 46 「筑波」太「字に作る」
 47 「愚頑」道蔵「頑愚」に作る、慶「は」遇頑「に」宋版・世徳「は」愚頑「に」誤る
 48 「足」字下「梅沢」人「字有り」
 49 「敦」道蔵「也」字無し
 50 「梅沢・宋版・道蔵」偷「字に作る」
 51 「宋版・世徳・道蔵」偷「字に作る」

52 「大東」虚「字に作る」
 53 「敦」也「字無し」
 54 「宋版・世徳・道蔵」真「字に作る、尚、書陵」の「直」字左旁に「述作真」の書入れ有り
 55 「東急・宋版・世徳・敦」道蔵「也」字無し
 56 「陽」東大・筑波・梅沢・六地・敦「也」字無しに作る
 57 「梅沢」太「字に作る」
 58 「活」活・陽・無窮・書陵・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵「無」字に作る
 59 「斯」足利・東急・宋版・世徳・敦「道蔵」也「字無し」筑波「者也矣」三字に作る
 60 「弘文」脱「字に誤る」
 61 「不」字下「活」活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・敦「道蔵」可「字有り」
 62 「書陵・敦」道蔵「也」字無し
 63 「道蔵」獨「字に作る」
 64 「梅沢」當「字に作る」
 65 「活」活・陽・書陵・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯「東急・宋版・世徳・敦」道蔵「噓」字に作る
 66 「陽」東大・慶・大東・六地・敦「无」字に作る
 67 「朴」字下「東洋」而「字有り」
 68 「活」活・陽・無窮・書陵・弘文・足利・斯・梅沢・東急・世徳・道蔵「は」無「字に作る」
 69 「東急・宋版・世徳・敦」道蔵「也」字無し
 70 「陽」武内・東大・六地・敦「无」字に作る
 71 「道蔵」伏「字に作る」
 72 「活」活・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・東急・世徳・道蔵「無」字に作る
 73 「慶」大東・斯「旨」字に作る
 74 「筑波」道蔵「也」字無し「陽・書陵・弘文・斯」者也「二字に作る」
 75 「武内・東大・梅沢・東洋」且「字無し」
 76 「筑波・敦」道蔵「也」字無し「活・陽・書陵・杏・慶・大東・弘文・足利・斯」武内・東大・梅沢・宋版・世徳「は」之也「一字に作る」東洋「は」之者也「三字に作る」

訓読文補注

1 「建(テ)設(ク)ル」(書陵)は「建け設る」、(武内)は「建ケ
設ル」と訓むが、「梅沢・東大」は「建テ設クル」、(筑波・弘文)
は「建テ設ル」と加點(慶・大東)も加點の省略があるが「建
は「タテ」に訓まれたと認められる。今(梅沢)等の訓に従う

2 「希(ニ)スル」、經文「大音希声」の本訓は「希ナシ」であるが、
「氣ヲ愛シ言(ヲ)希ニスルニハ如(方)不」(虚用第五「不如守中」下
注、「言(ヲ)希ニスルハ自然ナリ」(虚無第二十三經文)、「言ヲ希
(ニ)スト云ハ言ヲ愛ムヲ謂フ也」(虚無第二十三「希言自然」
下注)の訓例に拠り「ニ」を補う

下9才2 道化第四十二

道生一

道始所生者一也^{2,3}

一生二

一生陰与陽也⁴

二生三

陰陽生和氣清濁三氣分為天地人也⁷

三生萬物

天地人共生万物也⁸天施地化人長養之也^{9,10,11,12}

萬物負陰而抱陽^{13,14}

万物无不負陰而向陽迴心如就日^{15,16,17,18,19}

道化第四十二

道一ヲ生(ス)

道ノ始メテ生(スル)所ハ「者」・「一ナリ」也

一ニヲ生ス

一・陰ト陽与ヲ生ス也

二三ヲ生ス

陰・陽・和・氣清・濁ヲ生ス・三・氣分レテ・天地人ト為(ル)

「也」

三萬物ヲ生ス

天地人・共ニ万・物ヲ生ス也。天・施シ・地・化シ・人長

上・養ス之也

萬物ハ・陰ヲ負イテ而陽ニ抱フ

万・物・陰ヲ負(イ)テ而陽ニ向ハ不ト云コト无(シ)。心ヲ

冲氣以為和²⁰²¹

万物中皆有元氣得以和柔若胸中有感骨中有髓草²²²³²⁴²⁵²⁶
木中有空虛與氣通故得久生也²⁷²⁸²⁹³⁰³¹

人之所惡唯孤寡不韞而王公以為稱

孤寡不韞者不祥之名而王公以為稱者処謙卑法虛³²³³³⁴³⁵³⁶³⁷³⁸³⁹⁴⁰
空和柔也⁴¹⁴²

故物或損之而益

引之不得推讓之必還⁴³⁴⁴⁴⁵

或益之而損

夫增高者速崩貪富者致患⁴⁶⁴⁷⁴⁸⁴⁹⁵⁰⁵¹⁵²

人之所教

謂衆人所以教去弱為強去柔為剛也⁵³⁵⁴

廻ラソ曰ニ就(ク)カ如シ

冲氣・以ヲモテ和ヲ為ス

万物ノ中ニ・皆元氣有(リ)・以テ和柔ナルコトヲ得。()

胸ノ中ニ感有(リ)・骨ノ中ニ髓有ルカ若(シ)・草木中

ニ空・虚有テ・氣与通ス。故ニ久(シ)ク生(スル)コトヲ得

〔也〕

人ノ〔之〕惡ム所ハ・唯孤・寡不韞ナリ・而(ル)ヲ王公以テ稱⁴¹

去ト為ス

孤・寡不韞ハ〔者〕・不祥ノ〔之〕名ナリ・而(ル)ヲ王公以

テ稱去ト為(ス)コトハ〔者〕・謙卑ニ処上テ・虚・空和

柔ニ法ル〔也〕

故ニ物損ソ〔之〕而益スルコト或リ

引(ク)トキハ〔之〕得不・推讓ルルトキハ〔之〕必ス還ル

益ソ〔之〕而損スルコト或リ

夫平高キヲ増(ス)トキハ〔者〕速(カ)ニ崩ル・富ヲ貪(ルト)

キハ〔者〕患ヘヲ致ス

人ノ〔之〕教フル所ナリ

衆人ノ教(フ)ル所以ハ・弱ヲ去上テ強ヲ為(シ)・柔ヲ去

上テ剛ヲ為(ス)ヲ謂(フ)〔也〕

我亦教之⁵⁵

言我教衆人使去強為弱去剛為柔也⁵⁷

強梁者不得其死

強梁者謂不信玄妙背叛道德不從經教尚勢任力也⁶⁰
不得其死者為天所絕兵刃所伐王法所殺不得以壽⁶²

傘死也⁷⁵

吾將以為教父⁷⁶

父始也老子以強梁之人為教形之始也⁷⁷

我亦之ヲ教フ

言ハ我衆・人ニ教(ヘ)テ・強ヲ去上テ弱ヲ為(シ)・剛ヲ去上テ柔ヲ為(サ)使(ム)也」

強・梁ノ者ハ・其ノ死ヲ得不得

強・梁ノ者ト云ハ・玄・妙ヲ信(セ)不^レ・道・德ヲ背去キ叛(イテ)・經・教ニ從ハ不^レ・勢ヲ尚ヒ力ニ任スルヲ謂(フ)

「也」。其ノ死ヲ得不得ト云ハ「者」・天ノ為去ニ絶(タ)所・

兵・刃ニ伐(タ)所・王・法ニ殺サ所テ・以テ壽・命ヲ死(スル)

コトヲ得不得(ル)ソ「也」

吾將ニ以テ教フ・父ト為(ント)「將」

父ハ・始「也」。老子・強・梁(ノ)「之」人ヲ以テ・教・形ノ「之」

始メト為(ス)「也」

校異

1

(無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(武内・東大・東洋)は「道化章第四十二」に、(慶)は「道生章第四十二」に、(大東)は「道生章第卅三」に、(杏・筑波・弘文)は「道生一章第四十二」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(武内・東大・東洋)は「道生一章」(杏・筑波・慶・大東)は「道化章」と題し、(弘文)は題下に「一本云道化第四十二」との書入れがある、尚、(梅沢)は章題「道」字右旁に「五章」と、(無窮)は本章首行肩上に「道化五」と下巻内章次数を記す

2

(大東・宋版)「」字無し

3 (慶・東急・宋版・世徳)「也」字無し

4 (敦・道蔵)「也」字無し

5 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・敦)「氣」字無し

6 (宋版・世徳)「清」字無し

7 (敦)「也」字無し

8 (宋版・世徳)「人」字無し

9 (敦)「也」字無し

10 (天施地化人長養之也)「敦」此の注文九字無し

11 (東大・東急)「之」字無し

12 (陽・杏・東洋・道蔵)「也」字無し、但、(東洋)は青筆で「之」字下字間に小圈を施し左旁に「也」字を加筆
 (弘文・斯)「而」字無し
 13 (弘文・斯)「枕」字に作る
 14 (活・活)「無窮・書陵・弘文・足利・斯・梅沢・東急・世徳・道蔵」は「無」字に作る
 15 (道蔵)「背」字に作る
 16 (道蔵)「回」字に作る
 17 (東急・道蔵)「回」字に作る
 18 (宋版)「世徳・敦」字に作る
 19 陵・無窮・足利)は「始」字に、(梅沢)は「而如」一字に作る
 (活・活)「陽・書陵・杏・足利・武内・東大・筑波・慶大・東・斯・東急・敦」は「也」字、(無窮・東洋・梅沢・道蔵)は「者也」二字が有る、尚、(梅沢)は「者」字右旁に「イ无」と校異書入れが有り、(東洋)は青筆で「者」字左旁に見消ちを付す
 20 (活・活)「陽・無窮・書陵・武内・東大・慶大・東・弘文・斯・梅沢・六地・道蔵」沖字に作る
 21 「冲氣以為和」(敦)此の經文五字、段落間の空格に小字双行に書写、書写者自らの訂諷であるう
 22 (物)字下(道蔵)「之」字有り
 23 (慶)「有」字に作る、誤写か
 24 (東急)「以」字無し
 25 (弘文)「有」字を脱す
 26 (杏)「慶」字に作る
 27 (筑波)「本」字に作る
 28 「中」字上(活・活)「陽・書陵・杏・武内・東大・東洋・足利・斯」筑波・弘文・慶大・東大・梅沢)「之」字有り
 29 「与氣通」(道蔵)「和氣潜通」に作る
 30 (道蔵)「長」字に作る
 31 (敦)「也」字無し
 32 (弘文)「弧」字譌脱
 33 (東大・道蔵)「穀」字に作る
 34 (東大・道蔵)「穀」字に作る
 35 (治要)「者」字無し
 36 「名」字下(無窮)「也」字有り、尚、(梅沢)は「名而」字間に「也」字を加筆する
 37 (道蔵)「者」字無し

38 (活・活)「陽・筑波・慶大・東・弘文・足利・東急・治要」卑字無し、尚、(慶大・東大)は肩上に「謙」字下或有卑字也の校語書入れが有り、また、(東洋)は「卑」字左旁に青筆で見消ちを付す
 39 (法)字上(無窮)「以」字有り
 40 (虛空)「活」字に作る
 41 慶大・東大・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東洋・東急・敦・道蔵)「空虛」に作る
 42 (筑波)「梁」字に作る
 43 (書陵・宋版・世徳・敦・治要)「也」字無し、(東洋)は「者也」二字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 44 (宋版)「世徳・道蔵」讓字無し
 45 (活・活)「陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・筑波・慶大・東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・敦・治要」之字無し、(東洋)は「則」字に作る、但、左旁に青筆で見消ちを付す
 46 (活・活)「無窮・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶大・東・弘文・足利・斯」は「也」字、(陽・書陵・梅沢)は「之也」二字有り、但、(東洋)は青筆で「還也」字間に小圈を施し右旁に「之」字を加筆する
 47 (慶)「憎」字に誤る
 48 (斯)「者」字無し
 49 (宋版)「世徳・敦・治要)「速」字無し、(道蔵)は「致」字に作る
 50 「貪」字上、(陽・書陵・足利)「故」字有り、尚、(東活)は「崩貪」字間に墨小圈を施し右旁に「故」字を加筆する
 51 (富)「道蔵)「富貴」二字に作る
 52 (武内・斯)「者」字無し
 53 (活・活)「陽・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶大・東・弘文・足利・斯・梅沢・世徳)は「也」字、(無窮)は「之也」二字有り
 54 (道蔵)「以」字無し
 55 (宋版)「世徳・敦」字無し
 56 (我亦)「東活)は左旁に「亦我才作」と校異の書入れ有り
 57 (活・活)「陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶大・東・弘文・足利・斯・梅沢・六地・治要)一人」字に作る
 (道蔵)「教」字無し

58 (道蔵)「使」字無し
 59 (東急・宋版・世徳・敦)「也」字無し、(東洋)は「者也」、
 (梅沢)は「之也」二字に作る、但(東洋)は青筆で「者」字左旁
 に見消ちを付す。
 60 (宋版・世徳)「者」字無し
 (道蔵)「高」字に作る
 61 (道蔵)「爲」字に作る
 62 不信玄妙背叛道徳不從經教、(治要)此の注文句十二字無し
 (道蔵)「皆」字に作る
 63 (敦・治要)「也」字無し、(大東)は本行に無く「力不」の間
 に小圈を施し左旁に加筆する
 64 (敦・治要)「不」字上、(道蔵)「云」字有り、「不得其死者」、(治要)此の注
 文句五字無し
 65 (東急)「其」字無し
 (道蔵)「謂」字に作る
 66 (無窮・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・足利・斯
 ・梅沢)は「天地」、(東急)は「天命」二字に作る、但、(東洋)
 は青筆で「地」字左旁に見消ちを付す
 67 (兵)字上、(陽・書陵・杏・東大・東洋・筑波・弘文・足利・
 梅沢)は「爲」字有り、(武内)は「爲爲」と重複書写し、上「爲」
 字に見消ちを付す
 70 (世徳)「刀」字に作る
 (道蔵)「加」字に作る
 71 (王法所殺)「治要」此の注文句四字無し
 72 (活・活・陽・書陵・梅沢・聖語)「敵」字に作る
 73 (活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑
 波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢)は「壽」命を以て死又
 ルことを得」と加點、此の本には「死又(ル)」と送る例が無く、成
 象第六經文「神ヲ谷フトキハ死セ不(合神不死)」、その下注「則
 死セ不(則不死)」、辯德三十三經文「死スルマテ二而亡ナラ不
 者八(死而不亡者)」、貴生第五十經文「出生入死」下注「故二死又
 「也」(故死也)」、戒強第七十六經文「故堅強者死之徒柔弱者生之徒」
 下注「堅強八(者)死シ(堅強者死)」、任契第七十九經文「和大怨」
 下注「入ヲ殺ス者ヲ八死セシメ(殺人者死)」の訓例に按じ、サ変
 動詞と看做して「スル」を補う。以下の事例も同様である。

下10ウ3 偏用第四十三

天下之至柔馳騁天下之至堅
 至柔者水至堅者金石水能貫堅入剛无所不通

天(下)ノ(之)至柔八(天)下ノ(之)至堅ヲ馳騁ス
 至柔八(者)水ナリ・至堅八(者)金石ナリ・水能(ク)堅
 ヲ貫キ剛キニ入テ・通セ不ト云所无(シ)

偏用第四十三

訓読文補注

波・弘文・慶・大東・足利・斯・東急・敦・治要)「壽」字
 無し
 (武内・敦・道蔵)「也」字無し
 75 (東急)「文」字に誤る
 (書陵)「孝」字に誤る
 76 此の本、下の「爲」字下に書写、移行符を以て訂正さる
 77 (活・活・陽・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大
 東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦・道
 蔵・治要)は「戒」字、(無窮・書陵)は「誡」字に作る
 80 (敦・治要)「也」字無し
 1 「以テ壽・命ヲ死(スル)コトヲ得」、(梅沢)は「壽・命を以て死又
 ルことを得」と加點、此の本には「死又(ル)」と送る例が無く、成
 象第六經文「神ヲ谷フトキハ死セ不(合神不死)」、その下注「則
 死セ不(則不死)」、辯德三十三經文「死スルマテ二而亡ナラ不
 者八(死而不亡者)」、貴生第五十經文「出生入死」下注「故二死又
 「也」(故死也)」、戒強第七十六經文「故堅強者死之徒柔弱者生之徒」
 下注「堅強八(者)死シ(堅強者死)」、任契第七十九經文「和大怨」
 下注「入ヲ殺ス者ヲ八死セシメ(殺人者死)」の訓例に按じ、サ変
 動詞と看做して「スル」を補う。以下の事例も同様である。

無有入於無間¹⁵

无有謂道也道无形質故能出入无間通神群生也¹⁶

吾是以知無為之有益²⁵

也³⁵吾見道无為而万物自化成是以知無為之有益於人²⁶

不言之教

法道不言師之以身³⁶

無為之益⁴⁰

煩⁴⁶法道无為治身則有益精神治國則有益於万民不勞⁴²

天下希及之⁴⁷

天下人主也希能有及道無為之治無為之治⁴⁸無為之治⁴⁹無為之治⁵⁰無為之治⁵¹無為之治⁵²無為之治⁵³無為之治⁵⁴身治⁵⁵國者也⁵⁶

有ルコト無キハ「於」無間ニ入ル

有(ル)コト无(キ)ト云ハ・道ヲ謂(フ)也。道ハ形・質无(シ)。

故ニ能ク无・間ニ出入²・神ヲ群生ニ通ス¹也¹

吾・是(ヲ)以テ無・為ノ(之)益有(ル)コトヲ知(ル)

吾道ノ无・為ニシテ・而²万物ノ自(スカラ)化・成スルヲ見

(ル)・是(ヲ)以テ・無・為ノ(之)於²人ニ益有(ル)コトヲ知

(ル)也¹

不・言ノ(之)教¹

道ノ言(ハ)不(ル)ニ法リテ・師^{補注}(ト)スルニハ(之)身ヲ以テス

無・為ノ(之)益¹

道ノ无・為ニ法リテ・身ヲ治(ム)ルトキハ(則)精・神ニ益有

(リ)・國ヲ治(ム)ルトキハ(則)於²万・民ニ益有(リ)・勞・煩

セ不ラシム

天下及フコト希ナシ^ス之^{ナリ}

天・下ト云ハ・人・主ゾ也¹。能(ク)道ノ無・為ノ(之)治ニ及

フコト有(ル)コト希ナリ・無・為ノ(之)治去(ハ)身ヲ²治(メ)國ヲ治(ム)ル者ナリ也¹

1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(梅

沢・道蔵)は「偏用第四十三」に、「(武内・東大・東洋)は「偏用
 章第四十三」に、「(杏・慶)は「天下章第四十三」に、「(大東)
 は「天下章第三十三」に、「(筑波)は「天下之章四十三」に、「(弘文)
 は「天下之至柔第四十三」に作る、また、本題下に別題名を小書或
 いは大書する本がある、即ち(武内)は「天下章」、(東大・東洋)
 は「天下之章」、(杏・筑波・慶・大東)は「偏(偏)用章」と
 題し、「(弘文)は題下に、「一本云偏用第四十三」との書入れがある、
 尚、「(梅沢)は章題「偏」字右旁に「六章」と、「(無窮)は本章首行
 眉上に「偏用」と下巻内章次数を記す。
 (陽)「馳」字重複、一字衍
 (斯)「聘」字謁脱
 (斯)「者」字無し
 5 4 3 2
 杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・敦
 治要)「也」字有り
 8 7 6
 (筑波)「賢」字に誤る、(道蔵)は「剛」字に作る
 (宋版・世徳・斯)「者」字無し
 「石」字下、(活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・
 東洋・慶・大東・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東急・聖語・
 敦・治要)「也」字有り
 10 9
 (筑波)「賢」字に誤る
 (活・活・陽・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東
 急・世徳・道蔵)「無」字に作る
 11
 (活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・慶
 大東・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東急・治要)「也」字
 有り
 12
 (東大・筑波・六地・敦・治要)「无」字に作る
 (宋版・世徳)「於」字無し
 13 12
 (東大・梅沢・六地・敦・治要)「无」字に作る
 14 13
 (東大・梅沢・六地・敦・治要)「无」字に作る
 15 14
 文頭に「(無窮・東急・敦)は「五」字、(道蔵)は「夫言」二
 字がある
 16
 (活・活・無窮・書陵・足利・斯・筑波・梅沢・東急・宋
 版・世徳・道蔵)「無」字に作る
 17
 「有」字下、(慶・大東・筑波・道蔵)「者」字有り
 18 17
 (道蔵)「謂」字無し
 19 18
 (活・活・無窮・書陵・弘文・足利・斯・東急・宋版・世

徳・道蔵)「無」字に作る
 20
 (活・活・無窮・書陵・大東・弘文・足利・梅沢・東急・世
 徳)「無」字に作る
 21 20
 (活・活・無窮・書陵・大東・弘文・足利・梅沢・東急・世
 徳)「無」字に作る
 22 21
 (通神群生)「道蔵」通於神明濟於羣生」八字に作る
 23 22
 (敦)「養」字に作る
 24 23
 (弘文・東急・宋版・道蔵・治要)「也」字無し、(書陵・梅沢)
 は「之也」二字に作る、尚、「(東洋)は青筆で「生也」字間に小圈
 を施し右旁に「之」字を加筆する
 25
 「吾」(東洋・東活)は左旁に「才无」の書入れ有り(東洋)は
 青筆
 26 25
 (是以)「以是」に作る
 27 26
 (武内・東大・六地・敦)「无」字に作る
 28 27
 (書陵・慶・大東・足利・斯・弘文・六地)「也」字有り、
 (東活)は「益」下字間に「也」字を加筆し左旁に「才」の校異
 書入れ有り
 29
 (道)「下」(道蔵)「之」字有り
 30 29
 (活・活・無窮・書陵・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道
 蔵)「無」字に作る
 31
 (物)「下」(無窮)「之」字有り
 32 31
 (成)「下」(道蔵)「也」字有り
 33 32
 (陽・杏・武内・東大・東洋・慶・弘文・宋版・敦)「无」
 字に作る
 34
 (有)「下」(無窮)「所」字有り
 35 34
 (道蔵・敦)「也」字無し
 36 35
 (法道)「道蔵」道法」に作る
 37 36
 (陽・無窮・武内・東大・筑波・弘文・斯)「帥」字に作る
 38 37
 (道蔵)「於」字に作る
 39 38
 (活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・筑波・慶
 大東・弘文・足利・斯・梅沢・治要)は「也」字「東洋」
 は「者也」二字有り、但「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 40
 (六地・敦・治要)「无」字に作る
 41 40
 (益)「上」(無窮)「有」字有り
 42 41
 (活・活・無窮・書陵・東洋・筑波・弘文・足利・梅沢・東
 急・聖語・世徳・道蔵)「無」字に作る
 43 42
 (東急・治要)「則」字無し
 44 43
 (益)「下」(道蔵)「於」字有り

45 (活)活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・梅
 沢・東急・宋版・世徳・敦・道蔵・治要 (於字無し)
 46 (活)活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑
 波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道
 蔵は「也」字有り
 47 (杏)筑波・慶・大東「笑」字に作る、尚、(東洋・東活)
 は左旁に「笑才」の書入れ有り(東洋)は青筆
 48 「下」字下(無窮)は「者」字、(治要)は「謂」字有り
 49 (敦)「道」字無し、「道」字下(陽)書陵・慶・大東・斯
 (敦)筑波・弘文・足利、道蔵は「之」字有り、尚、(東洋)は青
 筆で「道」下字間余白に小圈を施し右旁に「之」字を加筆する
 50 (陽)杏・筑波・慶・大東・斯・武内・東大・東洋・宋
 版・道蔵・治要「无」字に作る
 51 (敦)「之治無爲之治」六字無し、(東急・道蔵)「之治」二字無
 し
 52 (宋版、世徳)「治無爲之治」五字無し
 (陽)武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・斯・治

下11ウ1 立戒第四十四

名與身孰親
 名遂則身退也
 身與貨孰多
 財多則害身也
 得與亡孰病
 好得利則病於行也

要「无」字に作る
 54 「治」字下、(東急)「身」字有り
 55 「國」字下、(無窮)「皆同笑」三字有り
 56 (活)活・陽・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大
 東・弘文・東急・宋版・世徳・道蔵・治要「者」字無し
 57 (敦)「也」字無し

訓読文補注

1 「師」ト「スルニ」之身ヲ以テス、(治要)は「師」并ルに「之」身を
 以す」と加点し、(梅沢・陽・書陵・武内・東大・杏・弘文・
 慶・大東・東活)等点本の多くは同様に「師(帥)」を「ヒキイ
 ル」と訓じている、唯、(東洋)は「之ヲ師トスルニ身ヲ以テス」
 と「シ」と音読しており此の本の点に通じる

立戒第四十四

名ト身與・孰レカ親シキ
 名遂(クル)トキハ「則」身退ク「也」
 身ト貨與・孰(レ)カ多レル
 財多(キ)トキハ「則」身ヲ害ス「也」
 得ト亡與・孰(レ)カ病シキ
 利ヲ得(ン)コトヲ好去(ム)トキハ「則」於行去ヲ病(マ)
 シム「也」

甚¹⁰愛必大費

甚¹¹愛色¹²費精神¹³甚愛財¹⁴遇禍¹⁵患所愛者¹⁶少所亡者多故言大費也

多藏必厚亡¹⁷

生多藏於府庫死多藏於丘墓生有攻劫之憂²⁰死有掘冢探極之患²²

知足不辱

知足之人絕利去欲不辱於其身也²⁷

知止不殆

知可止則止財利不累於身³²聲色不乱於耳目則終身³⁵不危殆³⁶

可以長久

人能知止足則福祿在己治身者神不勞治國者民不擾故可長久也⁴²

甚¹⁰タ愛スルトキハ・必ス大ニ費ス^{ソフヤ}

甚¹¹(タ)色ヲ愛スルトキハ・精神ヲ費ス・甚¹²(タ)財ヲ愛スルトキハ・禍患ニ遇フ^ア・愛スル所ノ者ハ少ク^ク・亡フ所ノ者ハ多シ。故ニ大ニ費スト言フ^{コト}也¹⁷

多ク藏平ムルトキハ必ス厚ク亡フ

生ケルトキハ多ク^ク於^ニ府庫ニ藏メ・死^シスルトキハ多ク^ク於^ニ丘墓ニ藏ム。生^イ(ケル)トキハ攻^ク劫^クノ^ニ憂^ヘ有^リ・死^ス(ル)トキハ冢ヲ掘^ル極^ヲ探^ルル^ニ之^ノ患^ヘ有^リ

足ルコトヲ知ル^ルトキハ辱シメラレ不

足ルコトヲ知^ル(ル)之^ノ人ハ・利ヲ絶^チ欲ヲ去^テ・於^ニ其身ヲ辱^シメ不^レ也¹⁷

止ムコトヲ知^ルトキハ殆カラ不

止^ム(ム)可^キヲ知^ルトキハ^ニ則^チ止^ム。財利^ノ於^ニ身ヲ累^フ去^ハサ不^レ也¹⁷・聲^ノ色^ノ於^ニ耳目ヲ乱^ラ不^ルトキハ・^ニ則^チ身ヲ終^フルマテニ危^ヲ殆^ナラ不^レ也¹⁷

以テ長ク久シカル可^シ

人能^ク止^ル足^ヲ知^ルトキハ・^ニ則^チ福^祿己^ニ在^リ・身ヲ治^ムルトキハ^ノ者^ハ・神^ヲ勞^セ不^レ・國ヲ治^ムルトキハ^ノ者^ハ・民^ヲ擾^レ不^レ・故^ニ長^ク久^{ナル}可^シ也¹⁷

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(武内・東大・東洋)は「立戒章第四十四」に、(杏・筑波・弘文・慶)は「名と身章第四十四」に、(大東)は「名與身章第卅四」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(武内・東大・東洋)は「名と身章」、(杏・筑波)は「立戒章」、(慶・大東)は「玄戒章」と題し、(弘文)は題下に「一本云立戒四十四」との書入れがある、尚、(梅沢)は章題「立」字右旁に「七」と、(無窮)は本章首行眉上に「名と身七」と下巻内章次第を記す
- 2 (則身)・(梅沢・東急・敦)は「身則」に、(道蔵)は「身必」に作る
- 3 (敦)「也」字無し
- 4 (書陵)「賤」字に作る、但、左旁に小圈を施し、眉上に「財」字を加筆
- 5 (敦)「也」字無し
- 6 (書陵)は右旁に「无イ」の校異書入れ有り
- 7 (道蔵)「於」字に作る
- 8 (敦)「則」字無し
- 9 (敦)「也」字無し
- 10 (筑波)「其」字に誤る、尚、(書陵)は左旁に「是故イ本」の校異書入れ有り
- 11 (無窮・東急・敦・道蔵・治要)「者」字有り
- 12 (神)「字下」(道蔵)「也」字有り
- 13 (梅沢)「賤」字に作る、字下(無窮・弘文・足利・斯・梅沢・東急・敦・道蔵・治要)「者」字有り
- 14 (遇)「字上」(無窮・筑波・慶・大東)「則」字有り
- 15 (弘文)「過」字に作る
- 16 (患)「字下」(道蔵)「也」字有り
- 17 (書陵・弘文・慶・大東)は「大」字に、(足利)は「厚大」二字に作る
- 18 (治要)「於」字重複、衍
- 19 (書陵・弘文)「兵」字に作る、但、(書陵)は見消ちを付し、右旁に「丘」字を加筆
- 20 (憂死)・(足利)「死憂」に作る、但、「死」字の上字間に小圈を施し移行符を以て訂正
- 21 (堀家探極)・(梅沢)は「堀家探極」、(治要)は「發掘家極」(但、

- 「發」字は本行には脱し右旁に加筆、(足利)は「發掘塚」、(慶・斯)は「發掘塚」、(活・活・武内・東大・筑波・東洋・東急)は「發掘」、(陽・書陵)は「發掘」、(杏・大東・弘文)は「發塚」に作る、尚、(東洋)は「掘」字右旁に青筆で「掘」字を加筆、また、(大東)は「塚」字左旁に「掘イ」と校異書入れがある
- 22 (活・活・陽・書陵・無窮・杏・武内・東大・筑波・弘文・大東・慶・斯・梅沢・東急・治要)は「也」字、(東洋)は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 23 (足利)「施」字に誤る、但、左旁に見消ちを付し右旁に「絶」字を加筆
- 24 (書陵)「慾」字に作る
- 25 (世徳)「於」字無し、(敦)は重複、一字衍
- 26 (活・活・陽・無窮・書陵・杏・慶・大東・弘文・足利・斯・東洋・東急・宋版・道蔵・治要)「其」字無し
- 27 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し、(東洋)は「者也」二字に作る
- 28 「止」字下、(筑波・弘文・豊字)「夕」有り
- 29 (則)「字下」(道蔵)「須」字有り
- 30 (筑波・弘文・宋版・世徳)「止」字無し、「止」字下、(道蔵)「乃」字有り
- 31 (慶・大東)「則」字に作る
- 32 (宋版・世徳)「於」字無し
- 33 (身)「字下」(道蔵)「心」字有り
- 34 (慶)「舌」字を脱す
- 35 (宋版・世徳)「終」字無し
- 36 (世徳)「急」字に作る
- 37 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・聖語・宋版・世徳・道蔵・治要)「也」字有り
- 38 (知)「字下」(道蔵)「於」字有り
- 39 (足)「字上」(敦)「知」字有り
- 40 (在)「字下」(道蔵)「於」字有り
- 41 (治要)「人」字に作る
- 42 (道蔵)「能」字に作る
- 43 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し

訓読文補注

1 「死（スル）トキハ」、道化第四十二訓読文補注1参照、尚、(書陵・東活)は「死ヌルときは」、(梅沢)は「死ヌレハ」、(東洋)は「死

ッハ」と訓む

下12才6 洪徳第四十五

洪徳第四十五

大成若缺

大・成^大八^成缺^ケタルカ若^シ(シ)

2 謂²道徳大成之君也³ 缺⁴者減名⁵ 蔵譽如毀⁶ 缺不備也^{5 6}

道徳大成ノ之君ヲ謂フニ也。缺ケタルト云ハ「者」名ヲ減シ譽ヲ蔵平ノ毀ケ缺ケテ備ハラ不(ル)カ如(シ)一也

其用不弊

其ノ用弊ヘ不

8 其用心如是則无弊^{8 9} 盡¹⁰時也¹¹

其ノ心ヲ用(ヅ)ルコト是ノ如(ク)ナルトキハ「則」弊ヘ

(ク)ル時无(シ)也

大盈若冲

大・盈^大八^盈冲^シキカ若^シ(シ)

18 謂¹⁸道徳大盈¹⁴ 滿之君也¹⁵ 如冲者¹⁶ 貴不敢驕也¹⁷ 富不敢奢也¹⁸

道徳大ニ盈(チ)滿(ツル)之君ヲ謂フニ也。冲(シ)キカ如シト云ハ「者」貴(ク)シテ敢テ驕(ラ)不(ル)也。富テ敢テ奢(ラ)不(ル)也

不(ル)也

其用不窮

其ノ用窮マラ不

19 其用心如是則无窮^{19 20} 盡²¹也²²

其(ノ)心ヲ用(ヅ)タルコト是ノ如(ク)ナルトキハ「則」窮

(マ)リ盡(ク)ルコト无(シ)也

大直若屈

大直謂修道法度正直如一也如屈者不与俗人爭如可屈折也

大直ハ屈ケタルカ若シ

大直ト云ハ道ヲ修メテ法度アリ・正直ナルコト一ノ如クナルヲ謂フ也。屈ケタルカ如シト云ハ一者・俗人と争ハ不・屈折ス可キカ如シ也

大巧若拙

大巧謂多才術也如拙者亦不敢見其能

大巧ハ拙キカ若シ

大巧ト云ハ才術多キヲ謂フ也。拙キカ如シト云ハ一者・亦敢テ其ノ能ヲ見去不ルソ

大辯若訥

大辯者知無疑如訥者无口辭也

大辯ハ訥ノ若シ

大辯ト云ハ一者・知テ疑フコト无シ。訥ノ如シト云ハ一者・口辭无キソ也

躁勝寒

勝極也春夏陽氣躁疾於上万物盛大極則寒則零落死亡也言人不當剛蹇也

躁シキコト勝テハ寒シ

勝ハ極也。春夏ハ陽氣・於上ニ躁疾ニシテ万物盛大ナリ・極テハ則寒シ・冬(寒キ)トキハ則零落死亡ス也。言ハ人當ニ剛躁ナル當カラ不也

静勝熱

秋冬万物静於黄泉之下極則熱者生之源也

静カナルコト勝テハ熱シ

秋冬ハ万物・於黄泉ノ下ニ静カナリ・極ルトキハ則熱シ・冬(熱キ)ハ一者生ノ源ナリ也

清静為天下正

能清能静則為天下長持正則无有終已時也

清静ハ天下ノ正為リ

能ク清ク能ク静カナルハ一則天下ノ長上為

校異

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(武内・東大・東洋)は「洪徳章第四十五」に、(杏・慶)は「大成章第四十五」に、(大東)は「大成章第卅五」に、(筑波)は「大成章第四五」に、(弘文)は「大成若缺章第四十五」に作る。また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある。即ち(武内・東大・東洋)は「大成章、(慶・大東)は「洪徳章、(杏)は「洪徳章、(筑波)は「洪徳章、(弘文)は「又洪徳」と題す、尚、(梅沢)は「洪」字右旁に「八一」と、(無窮)は本章首行眉上に「大成缺八」と下巻内章次数を記す。
- 2 「講」字上、(敦)、「大成者」三字有り
- 3 (陽・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し
- 4 「缺」字上、(活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・敦・道蔵)は「若」字、(治要)は「如」字有り
- 5 (東急)「修」字に作る
- 6 (敦・道蔵)「治要」也」字無し
- 7 (敦)「敝」字に作る
- 8 (道蔵)「此」字に作る
- 9 (活・活・無窮・書陵・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・敦)「道蔵」無」字に作る
- 10 「盡」字下、(筑波・東洋・道蔵)「之」字有り、但、(東洋)は左旁に見消ちを付す
- 11 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し
- 12 (敦)「滿」字に作る、尚、(東洋)は左旁に「王弼作滿也」の書入れがある。また、(東活)は右旁に「述王弼作大滿義」と、(東洋)は上記墨筆の書入れに青筆で「王」字上に「述」「作滿」字間右旁に「大」「也」字の右旁に「義」と、さらに「述王弼作滿」各字右旁に小円圈を加筆する。従つて青筆に沿えば(東活)の書入

(リ)・正ヲ持(ツ)トキハ・[則]終(リ)已(ム)時(有)ル(ル)コト
无(シ)也

- 13 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・筑波・慶・大東・斯・梅沢・六地・東急・世徳・敦・道蔵・治要)「沖」字に作る
- 14 (道蔵)「也」字無し
- 15 (慶)「如」字に誤る
- 16 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・筑波・大東・斯・梅沢・東急・敦・道蔵・治要)は「沖」字に作る
- 17 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・敦・道蔵・治要)「也」字無し
- 18 (武内・東急・敦・道蔵)は「也」字無し、(無窮)は「者也」二字に作る
- 19 (道蔵)「此」字に作る
- 20 (活・活・無窮・書陵・筑波・大東・弘文・足利・世徳・梅沢・東急・道蔵)無」字に作る
- 21 (無窮)「極」字に作る、(盡)「極」字下、(活・活・陽・無窮・書陵・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・武内・東大・斯・宋版・世徳・道蔵)は「時」字、(東洋)は「之」時」二字有り、但、「之」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 22 (敦・道蔵)「治要」也」字無し
- 23 (治要)「大」字無し
- 24 (道蔵)「若」字に作る
- 25 (陽・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・敦)「也」字無し
- 26 (道蔵)「何」字に作る
- 27 (筑波・宋版・世徳・敦)「也」字無し、(梅沢)は「者也」二字に作る
- 28 (杏・武内・東大・東洋)「如」字に作る
- 29 「巧」字下、(梅沢・敦)「者」字有り
- 30 (東大)は「財」字、(筑波)は「方」字に作る

32 31 (敦)「也」字無し
 (梅沢・敦)「亦」字無し、(陽・無窮・書陵・杏・弘文・武内・筑波・慶・大東・足利・斯・東洋・治要)「示」字に作る、(尚(無窮))は「示」字右旁に朱て「亦イ」と、(東活)は「亦」字左旁に「示イ」と校異の書入れがある
 33 (活)・活・陽・無窮・書陵・杏・弘文・東大・梅沢・治要「也」字有り、(武内・筑波・慶・大東・足利・斯)は「之也」(東洋)は「者也」「二字に作る、但、(東洋)は「者」字左旁に青筆の見消ちを付す
 34 (活)・活・無窮・書陵・武内・東大・東洋・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・治要「辨」字に作る
 35 (活)・活・陽・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯・敦(治要)は「辨」字に、(武内・東大・東洋)は「分」字に作る
 36 (活)・陽・書陵・弘文・足利・斯・梅沢・東急・治要「者」字無し、「者」字下、「敦」言「字有り、尚(東洋)は「者」字左旁に青筆の見消ちを付す
 37 (宋版)・世徳・道蔵「智」字に作る
 38 (活)・活・筑波・慶・大東・弘文・足利・無窮・書陵・東急・宋版・世徳・道蔵「無」字に作る
 39 「疑」字下、「活」・活・陽・無窮・書陵・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・武内・東大・東洋・斯・梅沢・東急・治要「也」字有り
 40 (慶)・弘文「納」字に誤る
 41 (活)・活・陽・無窮・書陵・大東・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵「無」字に作る、(无(無)口)、「宋版・世徳・道蔵」は「口无(無)」に作る
 42 (武内)は「辨」字に、(東大)は「分」字に、(斯)は「乱」字に作る
 43 (東急・宋版)・世徳・敦・道蔵「也」字無し
 44 (梅沢・東急)「謬」字に作る
 45 (筑波)は「慶」字に誤る
 (梅沢)「謬」字作る

47 48 49 「躁疾」(東急)「疾謬」に作る
 「寒則」(敦)「則寒」に作る
 「落死」(敦)「死落」に作る
 50 (道蔵)「散」字に作る
 51 (活)「也」字無し
 52 (活)・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・慶・大東・筑波・弘文・足利・斯・東洋・宋版・世徳・敦・道蔵「躡」字に作る
 53 (敦)「也」字無し、(筑波)「之也」「二字に作る
 54 (書陵)「勢」字に作る、但、左旁に朱以て「熱」字を加筆する
 55 (斯)「泉」字無し、譌脱
 56 (弘文・敦)「熱」一字無し
 57 (東洋)「之」字無し、但、青筆で「生源」両字間に小圈を施し右旁に「之」字を加筆する
 58 (宋版)・世徳・敦「也」字無し、(慶・大東・足利・斯)は「之也」「一字に作る
 59 (東大)「淨」字に作る
 60 (為)字上、(無窮・武内・東洋・杏・筑波・慶・大東・足利・東大・斯・梅沢・東急・道蔵・治要)「以」字有り
 61 (宋版)・世徳「能」字無し
 62 (治要)「為」字無し
 63 「下」字下、(道蔵)「之」字有り
 64 (慶)「特」字に作る
 65 (敦)「則」字無し
 66 (活)・活・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵「無」字に作る
 67 (活)・活・陽・無窮・書陵・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・宋版・世徳・敦・道蔵(治要)「有」字無し、(尚(杏))は「有」字右旁に「イ无」の校異書入れがあり、また(東洋)は同字左旁に青筆の見消ちを付す
 68 (慶)・大東「止」字に作る
 69 (東急・敦)「也」字無し、(梅沢)は「也矣」二字に作る

天下有道

謂人主有道也³

却走馬以糞

糞者治田也⁴兵甲不用却走馬治農田治身者却陽精¹¹

糞其身¹²

天下無道¹³

謂人主無道也¹⁶

戎馬生於郊

戰伐不止戎馬生於邦境之上久不還¹⁸

罪莫大於可欲¹⁹

好色淫也²¹

禍莫大於不知足

富貴不能自禁止也²⁴

咎莫大於欲得

欲得人物利且貪也

故知足之足²⁵

儉欲第四十六

天下道有(ル)トキハ

人主ノ道有(ル)ヲ謂(フ)ニ也

走馬ヲ却ケテ以テ糞ム

糞ハ「者」・田ヲ治(ムル)ソ也。兵甲用(ヅ)不(ル)トキハ・

走馬ヲ却(ケ)テ・農・田ヲ治ム・身ヲ治(ム)ル者ハ・陽精

ヲ却(ケ)テ・其ノ身ヲ糞ヤス

天下道無(キ)トキハ

人主ノ道無(キ)ヲ謂(フ)ニ也

戎馬「於」郊ニ生(ル)

戰伐止(マ)不(ル)トキハ・戎馬「於」邦境ノ「之」上ニ生テ・

久(シ)ク還ラ不

罪ハ「於」可欲ヨリ大ナルハ莫シ

色ヲ好去テ淫スニ也

禍ハ「於」足(ル)コトヲ知(ラ)不(ル)ヨリ大ナルハ莫(シ)

富貴ニツ自(ラ)禁止スルコト能(ハ)不(也)

咎ハ「於」得(ル)マク欲スル(ヨリ)大ナルハ莫(シ)

人ノ物ヲ得(ル)コトヲ欲(シ)・利(ヲ)且貪(レリ)也

故ニ足(ル)トスルハ「之」足(ル)コトヲ知(ル)トキハ

守真根也²⁶

常足矣²⁸

无欲心也³¹

真根ヲ守ル也

常二足ル一矣

欲心无(キ)ソ也

校異

- 1 (活・活・陽)「慾」字に作る。
 2 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、「武内・東大・東洋」は「儉欲章第四十六」に、「杏・慶」は「天下章第四十六」に、「(大東)は「天下章第卅六」に、「弘文」は「天下有道章第四十六」に、「筑波」は「天道有道章四十六」に作る。また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある。即ち「(武内)は「天下章、(東大・東洋)は「天下有道章、(杏)筑波・慶・大東)は「儉欲章」(弘文)は「又儉欲」と題す。尚、「梅沢」は章題「儉」字右旁に「九」と、「無窮」は本章首行眉上に「天下有道九」と下巻内章次数を記す。
 3 (敦・道蔵)「也」字無し
 4 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵)は「糞」字に作る
 5 (東大)「也」字無し
 6 (兵)字上、「敦」治國者 三字有り
 7 (馬)字下、「活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・敦・道蔵・治要」以「字有り」
 8 (敦)「糞」字に作る
 9 (田)字下、「無窮・道蔵」「也」字有り
 10 (治身者却陽精養其身)「治要」此の注文句九字無し
 11 (精)字下、「活・活・陽・書陵・武内・東大・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・敦・道蔵」以「字有り」
 12 (活・活)「陽・武内・東大・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・書陵・梅沢・道蔵)は「也」字、「(東洋)は「者

- 13 也二字有り、但「(東洋)は「者」字左旁に青筆の見消ちを付す
 14 (東大・六地・敦)「无」字に作る
 15 (主)字下、「(東急)之」字有り
 16 (陽・武内・東大・東洋・杏・慶・敦)「无」字に作る
 17 (東急・敦)「也」字無し
 18 (足利)「征」字に作る
 19 諸本「郊」字に作る
 20 (梅沢)「禍」字に誤る
 21 (好色淫)「(宋版・世徳・治要)は「好淫色」に、「(東急)は「好淫色」に、「(道蔵)は「好色淫色」に作る。尚、「(武内・杏・慶・大東)は眉上に「日本淫字在色字上今案淫字在下又不劣」の書入れ有り
 22 (敦・道蔵)「也」字無し
 23 (貴)字下、「活・活・陽・弘文)「而」字有り、尚、「(東洋)は青筆で「貴不」字間に小圈を施し左旁に「而」字を加筆する
 24 (自)字下、「(無窮・道蔵)は「知」字有り、「(活)は「知自」に作る
 25 (敦・道蔵)「也」字無し
 26 (治要)「記」字無し
 27 (守真根也)「(治要)此の注文句無し
 28 (敦)「也」字無し
 29 (宋版・世徳・敦)「矣」字無し
 30 (活・活)「無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵)「無」字に作る
 31 (欲)字上、「(道蔵)「有」字有り
 (敦・道蔵)「也」字無し

不出戸以知天下²

戸ヲ出不^レ。以テ天^下ヲ知(ル)

聖人不出戸以知天下者以己身知人身以己家知人家所以見天下也⁵

聖人ノ戸ヲ出不^レ。以テ天^下ヲ知(ル)コトハ「者」己カ身ヲ以テ(人ノ身ヲ知(リ)己カ家ヲ以テ人ノ家ヲ知(ル)天^下ヲ見(ル)所以(ナリ)也」

不闕牖以見天道⁶

牖ヲ闕ハ不^レ。以テ天^道ヲ見(ル)

天道与入道同天人相通精氣相貫人君清淨天氣自正人君多欲天氣煩濁吉凶利害皆出於巳¹³

天^道ト人^道ト同シ。天^人相^通。精^氣相^貫。人^君清^淨ナルトキハ。天^氣自(スカラ)正シ。人^君多^欲ナルトキハ。天^氣煩^濁ナリ。吉^凶利^害皆^於己^二出(ス)

其出彌遠其知彌少

其ノ出(ル)コト彌^遠。其ノ知(ル)コト彌^少シ

謂去其家觀人家去其身觀人身所觀益遠所知益少也¹⁷

其ノ家ヲ去テ人ノ家ヲ觀。其ノ身ヲ去テ人ノ身ヲ觀(ル)ヲ謂(フ)觀(ル)所^益遠(キ)トキハ。知(ル)所^益少シ也」

是以聖人不行而知

是(ヲ)以テ聖人ハ行(力)不^レ而(知)ル

聖人不上天不入淵能知天地以心知也²²

聖人ノ天^上入^淵不^レ。能^ク天^地ヲ知(ル)コトハ。心ヲ以テ知(ル)也」

不見而名

見不^レ而(名)ツク

上好道下好德上好武下好力聖人原小知大察內知外也²⁷

上^道ヲ好^去(ム)トキハ。下^德ヲ好^去ミ。上^武ヲ好^去(ム)トキハ。下^力ヲ好^去ム。聖人ハ小^ヲ原^{ネテ}大^ヲ知

不為而成²⁸

上无所為則下无事家給人足万物自化就也^{29 30 31 32 33 34 35 36 37}

校異

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は「章題無し」、(武内・東大・東洋)は「鑿遠章第四十七」に、(杏・慶・弘文)は「不出戸章第四十七」に、(大東)は「不出戸章第卅七」に、(筑波)は「不出戸章四十七」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(武内・東大・東洋)は「不出戸章」、(杏・筑波・慶・大東)は「鑿遠章」、(弘文)は「又鑿遠」と題す、尚、(梅沢)は「章題」「鑿」字右旁に「十」と、(無窮)は本章首行眉上に「不出戸」と下巻内章次數を記す
- 2 (宋版・世徳)「以」字無し
- 3 (書陵)「人」字に誤る、但、右旁に「人」字を加筆し訂正
- 4 (武内・東大・東洋・梅沢)「知」字に作る、尚、(武内・慶)の眉上及び(大東)の地脚に「或本知天下義亦通也」との校勘書入れ有り
- 5 (梅沢・東急・敦・治要)「矣」字に作る
- 6 (東急・宋版・世徳・道蔵・治要)「窺」字に作る
- 7 (宋版・世徳・道蔵)「以」字無し
- 8 「天人相通精氣相貫」、(治要)此の注文句八字無し、「天」字、(宋版)「大」字に誤る
- 9 (清浄)、「書陵」「淨清」に作る
- 10 (活)活・陽・無窮・杏・武内・東洋・筑波・弘文・慶・大東・斯・梅沢・東急・敦・道蔵・治要「靜」字に作る
- 11 (東大・東洋)「君」字無し、但、(東洋)は青筆で「人多」字間に小圈を施し右旁に「君」字を加筆する
- 12 (活)活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・敦・道蔵・治要「由」字に作る

為不^二而^一成^ス

(リ)・内ヲ察^ソ外ヲ知^ル(ル)也
上為^ル(ル)所无^キトキハ・「則」下事无^シ・家^ツ給^キ人^足リ
テ・万^物・自^スカ^ラ化^ス就^ス也

- 13 (活)活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・治要)は「也」字「道蔵」は「者也」二字有り
- 14 (弘文)「人」字重複、「一」字衍
- 15 (足利)「遠迹」二字に作り、「遠」に見消ちを付す
- 16 (宋版・敦・道蔵・治要)は「見」字に、(世徳)は「用」字に、(無窮)は「見知」二字に作る
- 17 (聖)「道蔵」二字無し
- 18 「聖人不上天不入淵能知天地以心知也」、(治要)此の注文句無し
- 19 (大東)「閑」字に誤る
- 20 (敦)「道蔵」「下」字に作る
- 21 「以」字上、(活)活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・敦・道蔵)「者」字有り
- 22 (東急・宋版・世徳・敦)は「之」字に、(活)活・陽・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・無窮・書陵・道蔵)は「之也」に、(梅沢)は「也之也」に作る
- 23 (東大・慶・大東)「厚」字に作る、尚、(東洋)は青筆で「小」字左旁に見消ちを付し右旁に「少」字を加筆する
- 24 (無窮・書陵・梅沢)「少」字に作る、尚、(東洋)は青筆で「小」字左旁に見消ちを付し右旁に「少」字を加筆する
- 25 「知」字上、(慶)大東・道蔵)は「而」字、(無窮)は「以」字有り
- 26 (活)字下、(活)活・陽・無窮・書陵・武内・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯)は「以」字、(道蔵)は「而」字有り、尚、(東洋)は青筆で「内知」字間に小圈を施し左旁に「以」字を加筆する
- 27 (東急・宋版・世徳・敦・治要)は「也」字無し、(東洋)は

「者也」二字に作る、但、青筆で「者」字左旁に見消ちを付す
28 「未版」「無」字に作る
29 「上无所爲」(道蔵)「上好无爲」に作る
30 (活・活・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・東急・世徳・治要)「無」字に作る
31 (活・活・無窮・書陵・弘文・足利・斯・東急・宋版・世徳・道蔵)「無」字に作る

32 (治要)「万」字無し
33 (書陵)「物」字脱、但、右旁に加筆訂正
34 「自」字下、(無窮)「而」字有り
35 「化」字下、(東洋)「而」字有り
36 (道蔵・治要)は「就」字無し、(世徳)は「成」字に作り、(杏・武内・東大・東洋・東急)は「成就」二字に作る
37 (敦)「也」字無し

下15才5 忘知第四十八

忘知第四十八

爲學日益

學ヲ爲(ル)トキ八日ニ益ス

李謂政教礼樂之孝也日益者情欲文飾日以益多

孝ト云ハ・政・教礼・樂ノ之孝(ヲ)謂(フ)也。日ニ益(ス)ト云ハ「者」・情欲文飾・日ニ以テ益多キソ

爲道日損

道ヲ爲(ル)トキ八日ニ損ス

道謂自然之道也日損者情欲文飾日以消損也

道ト云ハ自然ノ之道ヲ謂(フ)也。日ニ損(ス)ト云ハ「者」・情欲文飾・日ニ以テ消損スルソ也

損之又損

損ノ之又損ス

損情欲又損之所以漸去也

情欲ヲ損ノ又損ス之。漸クニ去上(ツル)所以ナリ

以至於無爲

以テ於「無」爲ニ至ル

當恬如嬰兒无所造爲也

當ニ恬カナルコト嬰・兒ノ・造爲スル所无(キ)カ如(ク)ナル「當」シ也

無為²⁶而無不為²⁷

情欲²⁸斷絶徳与道合則无所不施²⁹无所不為³⁰无所不為也³¹

取天下常以無事³⁴

取治也治天下常當以無事不當煩勞³⁵

及其有事不足以取天下⁴⁰

及其好有事則政教煩民不安故不足以治天下也⁴¹

無為(二)ソ・(而)為不ト云コト無(シ)

情欲断(へ)絶(へ)テ徳ト道与合(フ)トキハ・(則)施サ不ト云所无(ク)・為不ト云所无(シ)也

天下ヲ取ムルニハ・常ニ無・事ヲ以(テ)ス

取ハ・治也。天下ヲ治(ムル)ニハ・常ニ當ニ无・事ヲ以テス・當ニシ・當ニ煩・勞ス・當ニカラ不

其ノ事有(ル)ニ及テハ・以テ天下ヲ取(ム)ルニ足ラ不

其ノ事有(ル)コトヲ好去(ム)ニ及テハ・(則)政教煩(シク)ソ・民安(カラ)不・故ニ以テ天下ヲ治(ム)ルニ足ラ不也

校異

1

(無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(活・活・陽)は「亡知第四十八」に、(東大・東洋)は「忘知章第四十八」に、(武内)は「志知章第四十八」に、(杏・慶・筑波)は「為学章第四十八」に、(大東)は「為学章第卅八」に、(弘文)は「為學日益章第四十八」に作る。また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(武内・東大・東洋)は「為学(学・学)章、(杏・慶・大東)は「忘知章、(筑波)は「玄知章、(弘文)は「又忘知」と題す、尚(梅沢)は章題「忘」字右旁に「十一」と、(無窮)は本章首行眉上に「為学日益十一」と下巻内章次数を記す

2

3

4

5

6

7

(東急・道蔵)「字」字無し
(敦)「字」字無し
(梅沢)「精」字に作る
(弘文)「之」字に作る
(東急)「消損」二字有り、但、右旁に見消ちを付す

8 (活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急)「也」字有り

9 (慶・大東・梅沢・敦・道蔵)「也」字無し

10 (梅沢)「精」字に作る

11 (書陵)「慾」字に作る

12 (無窮)は「清」字に誤り、(道蔵)は「銷」字に作る

13 (筑波・弘文・足利・東急・宋版・世徳・敦・道蔵)は「也」字無し、(慶・大東)は「之也」二字に作る

14 (損)字下、(活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・六地・東急・敦)「之」字有り

15 (損)字上、(道蔵)「損」二字有り

16 (書陵)「慾」字に作る

17 (又)字上、(道蔵)「也」字有り

18 (之)字下、(道蔵)「者」字有り

19 (宋版・世徳)「也」字無し、(東洋・敦・治要)は「之」字に、(活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・筑波・弘文・

慶・大東・足利・斯・梅沢・道感)は「之也」二字に作る、尚、
 (東洋)は「之」字下に青筆で「也」字を加筆
 20 (陽・東大・筑波・六地・敦・治要)「无」字に作る
 21 「當恬如嬰兒无所造爲也」(治要)此の注文句無し
 22 (恬)字下(世徳・道感)は「淡」字(宋版)は「悵」字有り
 23 (慶・斯・宋版・世徳)は「撰」字に、(陽・大東・足利・梅沢)は「櫻」字に作る
 24 (活・活・無窮・書陵・弘文・足利・斯・梅沢・東急・世徳・道感)「無」字に作る
 25 (宋版・世徳・敦・道感)「也」字無し
 26 (筑波・敦・治要)「无」字に作る
 27 (陽・東大・六地・敦・治要)「无」字に作る
 28 (書陵)「慾」字に作る
 29 (活・活・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道感)「無」字に作る
 30 (書陵)「絶」字に作る
 31 (活・活・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東急・世徳・道感)「無」字に作る
 32 「為」字下、(梅沢)「取」字有り
 33 (東急・敦・治要)「也」字無し
 34 (陽・東大・六地・敦・治要)「无」字に作る
 35 (常當)「敦」(當當)に作る、(道感)は「常」字無く、(無窮・書陵・足利・梅沢)は「當」字無し、但(梅沢)は「常以」字間に「當」字を加筆する
 36 (活・活・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道感)は「無」字に作る
 37 (世徳)「畜」字に作る

下16才3 任徳第四十九

聖人無常心

聖人軍改更責因循若自无心也

任徳第四十九 聖人八・常ノ心無(シ)

聖人八・改メ更平ヘンコトヲ重リテ・因・循ヲ責フ・自

38 「煩勞」(活・活・陽・道感)「勞煩」に作る、(書陵・杏沢・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・治要)は「勞煩民」(無窮・東急)は「勞煩之」の三字に作る、尚(東洋)は「民」字左旁に青筆で見消ちを付す
 39 (活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・治要・道感)「也」字有り
 40 (道感)「可」字に作る
 41 (東大・東洋・東急)「及」字無し
 42 (治)字下、(東洋)「於」字有り
 43 (敦・道感)「也」字無し

訓読文補注

1 「政教煩(シク)ノ・民安(カラ)不、(治要)は「政教煩ハシウシテ民不安」と加点する、諸点本、ここでは「煩」を「ワツラハス」と訓んでいるようである。また、(東洋)は「政教・民ヲ煩ハス・安カラ不」と加点し、同様に(梅沢・筑波・武内・杏・東大・大東・慶・書陵)は「民」を「煩」の目的格と見做している、本点本では、淳風第十七「其次悔之」下注「禁多令煩不可飯誠、淳風第五十七「天下多忌諱而民彌貧」下注「令煩則奸生」の「煩」字は「イタツカハシ」と訓じているが、ここでは「ワツラハス」、「イタツカハシ」のいずれに訓まれたものか明らかでない

以百姓心為心

百姓心之所便9因而從也10 11 12

善者吾善之

百姓為善聖人因而善之13 14 15

不善者吾亦善之

百姓雖有不善者聖人化之使善也16 17 18 19 20

德善矣21 22 23

百姓德化聖人為善也24 25

信者吾信之

百姓為信聖人因而信之26 27 28 29

不信者吾亦信之

百姓為不信聖人化之使信也30 31 32 33 34

德信矣35 36

百姓德化聖人為信也37 38

聖人在天下怵39 40 41

聖人在天下怵怵常恐42富貴不敢驕奢也43 44 45 46

〔ラ〕心无〔キ〕カ若シ〔也〕

百姓ノ心ヲ以テ・心ト為

百姓ノ心ノ〔之便ト〕スル所ヲ・因テ〔而〕從フ〔也〕

善ナル者ヲハ・吾善ス〔之〕

百姓ノ善ト為〔ル〕ヲ・聖人・因テ〔而〕善トス〔之〕

善ナラ不〔ル〕者ヲハ・吾亦善〔カラ〕シム〔之〕

百姓・善カラ不〔ル〕者〔有リ〕ト雖・聖人・化ノ〔之〕善ナラ

使ム〔也〕

德善ナル 矣カテ

百姓ノ德ニ化スルコトハ・聖人ノ善ヲ為レハナリ〔也〕

信アル者ヲハ・吾信トス〔之〕

百姓ノ信ヲ為〔ル〕ヲハ・聖人・因テ〔而〕信ス〔之〕

信アラ不〔ル〕者ヲハ・吾亦信アラシム〔之〕

百姓ノ・不〔信〕ヲ為〔ル〕ヲハ・聖人・化ノ〔之〕信アラ使ム

〔也〕

德信ナルソ 矣

百姓ノ・德ニ化スルコトハ・聖人ノ信ヲ為〔レ〕ハナリ也

聖人ノ・天下ニ在〔ル〕コト怵々六屬タリ

聖人ノ・天下ニ在〔ルコト〕怵・怵トシテ常ニ恐レ・怵ル・

為天下渾其心

言聖人為天下百姓渾濁其心若愚闇不通也^{47 48 49 50}

百姓皆注其耳目

注用也百姓皆用其耳目為聖人視聽也^{52 53 54 55 56}

聖人皆孩之⁵⁷

聖人愛念百姓如嬰孩赤子養長之而不責望其報也^{58 59 60 61 62}

校異

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(武内・東大・東洋)は「任徳章第四十九」に、(杏)は「聖人章第四十九」に、(慶)は「聖人無常章第四十九」に、(大東)は「聖人無常章第九」に、(筑波・弘文)は「聖人無常心章第四十九」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(武内)は「聖人章」、(東大・東洋)は「聖人无(無常)心章」、(慶・大東)は「任徳章」、(杏・筑波)は「任花章」、(弘文)は「又任徳」と題す、尚、(梅沢)は章題「任」字右旁に「十一」とし、(無窮)は本章首行眉上に「聖人無常心十二」と下巻内章次數を記す
- 2 (陽・東大・六地・敦・治要)「无」字に作る
- 3 「常」(無窮)朱で右旁「述義無常字」左旁「顧疏有常字」との書入れ有り
- 4 「心」(杏・慶・大東)の眉上に「才無心字頓(顧字の誤)

富貴ナレトモ敢テ驕リ奢ラ不^レ也¹

天下ノ為去ニ其ノ心ヲ渾^二ラス^一

言八聖人・天下ノ百姓ノ為ニ其ノ心ヲ渾濁ス・愚闇

ニ^レ通セ不^レル^レ力若シ^レ也¹

百^レ姓^レ皆其ノ耳^レ目ヲ注^二井^一ル

注ハ^レ用也¹。百^レ姓皆其ノ耳^レ目ヲ用^二并^一テ^レ聖人ノ為去

ニ^レ視^レ聽^レク^レソ^レ也¹

聖人^レ皆孩^二ス^一之¹

聖人^レ百^レ姓ヲ愛念^二シ^一愛シ念テ^レ嬰孩ノ赤子ノ如ク¹

養長^二之^一而^レ其ノ報ヲ責メ望メ不^レ也¹

疏有心字也」と、(武内)の眉上には「才无心字頓疏有字」との書入れ有り

- 5 (足利)「終」字に作る、但、見消ちを付し欄脚に「循」字を加筆
- 6 (道蔵)「似」字に作る
- 7 (活・活・書陵・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵)「無」字に作る
- 8 (東急・宋版・世徳・敦)「也」字無し
- 9 (心之、(東大)「之心」に作る
- 10 (筑波)「使」字に誤る
- 11 (書陵・東急・聖語・宋版・世徳・道蔵・敦・治要)は「之」字に、(活・活・無窮・杏・武内・東大・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢)は「之也」に、(東洋)は「之者也」に作り、「之者」両字左旁に青筆で見消ちを付す
- 13 「善」字下、(敦)「者」字有り

15 14 (筑波)「也」字に作り、右旁に「人イ」の校異記有り
 (慶・大東・足利)は「也」字に、(活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・筑波・弘文・斯)は「之也」、(東急)は「之矣」に、(東洋)は「之者也」に作る、尚、(梅沢)は「之」字下字間に「也」字を加筆し、(東洋)は「者」字左旁に青筆で見消しを付す
 16 「百姓雖有不善者聖人化之使善也」、此の注文(梅沢)は「百姓德化聖人入化」の八字に作る
 「聖人有」、(治要)「為」一字に作る
 (治要)「者」字無し
 17 「使善」、(治要)は「為善」に、(敦)は「使為善」に作る
 (敦・治要)「也」字無し、(杏)は「之」字に、(陽・書陵・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯)は「之也」に、(東急)は「也矣」に作る、尚、(東洋)は青筆で「也」上の字間に小圈を施し右旁に「之」字を加筆
 (敦)「得」字に作る
 20 19 18 17 「善」字下、(斯)「善」字有り
 (宋版・世徳・敦・道感)「矣」字無し
 (敦)「得」字に作る
 21 22 23 24 25 (東急・宋版・世徳・敦・道感)「也」字無し、(杏)は「矣」字に作る
 26 「吾信」、(無窮)は朱筆で字間に小圈を施し右旁に「亦イ」と校異の書入れ有り
 (梅沢)「之」字無し
 27 28 29 「信」字下、(梅沢・敦)「者」字有り
 (活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢)は「也」一字、(東洋)は「者也」二字有り、但、(東洋)は「者」字左旁に青筆で見消しを付す
 30 (慶・大東)「吾」字無し
 31 「信」字下、(敦)「吾」字有り
 32 (杏・東大・東洋・東急)「之」字無し、但、(東洋)は青筆で「化使」字間に小圈を施し左旁に「之」字を加筆する
 33 「信」字上、(敦)「為」字有り
 34 (敦)「也」字無し、(杏)は「之」字に、(陽・書陵・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯)は「之也」に、(東洋)は「者也」二字に作る、但、(東洋)は青筆で「者」字左旁見消しを付し右旁

に「之」字を加筆
 35 (敦)「得」字に作る
 36 (東急・宋版・世徳・道感)「矣」字無し
 37 (敦)「得」字に作る
 38 (東急・宋版・世徳・敦・道感)「也」字無し、(聖語)は「之」字に、(陽・武内・東大・東洋・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・書陵・梅沢)は「之也」二字に作る
 39 「聖」字上、(活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・六地)は「故」字有り、尚、(無窮)は右旁に朱で「一」の校異書入れ有り
 40 (活)字下、(活・活・無窮・梅沢)「之」字有り
 41 波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢(六地・東急)「焉」字有り
 42 (活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳)は「怖」字に、(敦・道感)は「懼」字に作る
 43 「置」字上、(梅沢)「置怖」二字有り
 44 (梅沢)「敢驕」二字無し
 45 (敦)「橋」字に作る
 46 (東急・宋版・世徳・敦・道感)「也」字無し、(東洋)は「者」字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消しを付す
 47 「渾」字下、(陽・書陵・弘文・晝符有り、尚、(東洋)は青筆で「渾濁」字間に小圈を施し右旁に「渾」字を加筆する
 48 (敦)「濁」字無し
 49 (道感)「暗」字に作る
 50 (敦)「道感」「也」字無し
 51 (慶)「註」字に作る
 52 (慶)「註」字に作る
 53 (梅沢)「也」字無し
 54 (活・陽・書陵・弘文・東急)「其」字無し、尚、(東洋)は「其」字左旁に青筆で見消しを付す
 55 「目」字下、(梅沢)「也」字有り
 56 (敦)「也」字無し
 57 (孩、(東洋(書・東活)は左旁に「又乍咳」と、(杏・武内・慶・大東)は眉上に「才作孩」と校異の書入れ有り
 58 「聖」字上、(無窮・敦)「言」字有り

59 「孺孩」、(道蔵)は「嬰孩」、(宋版・世徳)は「孩嬰」、(活
活)は「孩育」、(無窮)は「孩奔」、(敦)は「孩兒」、(陽
杏)は「武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶」は「孩兒」、(陽
東急)は「蠅虫」、(書陵)は「蠅忠」見消ちを付し右旁に「虫」字
を加筆)に、(梅沢)は「孩育蠅虫」四字に作る。尚、(東活)は
「孩育」の右旁に「蠅」虫との書入れ有り

60 「養長」、(活)・(陽)・(無窮)・(書陵)・(武内)・(東洋)・(筑波)・
弘文・慶)・(大東)・(足利)・(斯)・(梅沢)・(聖語)・(宋版)・(世徳)・(敦)・
道蔵)「長養」に作る
61 (筑波)「而」字無し
62 (宋版)・(世徳)・(敦)・(道蔵)「也」字無し、(東洋)は「者也」二
字に作る

下17才6 貴生第五十

出生入死

出生謂情欲出於五内魂定魄靜故生也入死謂情欲
入於骨髓精神勞感故死也

貴生第五十

出(ル)トキ八(生)入(ル)トキ八(死)ス

出(ル)トキ八(生)キト云ハ・情欲ノ「於」五内ヨリ出(ル)
ヲ謂(フ)・魂定マリ魄靜(力)ナリ・故ニ生(ス)也」。(入
ル)トキ八(死)スト云ハ・情欲於胸臆ニ入(ル)ヲ謂(フ)・
精・神勞感ス・故ニ死(ス)也」

生之徒十有三死之徒十有三

言生死之類各有十三謂九竅四關也其生也目不妄
視耳不妄聽鼻不妄臭口不妄言手不妄持足不妄行
精不妄施其死也反是也

生ノ「之」徒・十有三。死ノ「之」徒・十有三

言八生(死)ノ「之」類ヒ・各十三有(リ)・九(竅)四(關)ヲ謂(フ)
「也」其ノ生(ケル)トキ八「也」・目・妄(リ)ニ視不・耳・妄
(リ)ニ聽(力)不・鼻・妄(リ)ニ臭(カ)不・口・妄(リ)ニ言
(ハ)不・手・妄(リ)ニ持(ト)不・足・妄(リ)ニ行(力)不・精・
妄(リ)ニ施(サ)不・其(ノ)死(スル)トキ八「也」(・)是(ニ)反(ス)
「也」

人之生動皆²⁷之死地十有三

人之求生動作反之十三死地也³¹

夫何故哉³²

問何故動之死地也³⁴

以其生³⁵之厚³⁶

所以動之死地者以其求生活之事太厚違道忤天妄⁴¹

行失紀也⁴³

蓋聞善攝生者

損養也⁴⁴

陸行不遇兕虎⁴⁶

自然遠避害不干也

入軍不被甲兵⁴⁷

不好戰以殺人⁴⁹也

兕無所投其角虎无所措其爪兵無所容其刃⁵⁴

養生之人虎兕无由傷兵刃无從加之也⁶⁰

人ノ之生・動(ク)トキハ・皆死・地・十・有・三ニ之ク

人ノ之生ヲ求メテ・動作スルコト反ノ・十三ノ死・地ニ

之(ク)也

夫平何ノ故ソ哉³²

問(フ)・何ノ故ニカ・動(イ)テ死・地ニ之(ク)也

其ノ々(生)ヲ生スルコトノ之厚キヲ以テナリ

動(イ)テ死・地ニ之(ク)所以ハ者・其ノ生活ノ之事ヲ

求(ム)ルコトノ太(タ)厚³⁶・道ニ違^{タガ}ヒ天ニ忤^{サカ}テ・妄リニ

行テ紀ヲ失フヲ以テナリ也

蓋シ聞ク・善(ク)生ヲ攝^{ヤブ}フ者ハ

損^{セウ}ハ・養也

陸行スレトモ・兕^シ・虎ニ遇^アハ不

自然ニ遠ク避^{セウ}テ・害^{ガイ}干サ不也

軍ニ入(レ)トモ甲兵ヲ被ラ不

戰ヲ好去(ミ)・以テ人ヲ殺サ不也

兕モ・其ノ角ヲ投^イスル所無(ク)・虎モ其ノ爪ヲ措^サク所无(ク)・

兵モ・其ノ刃ヲ容^イル、所無(シ)

生ヲ養フ之人ハ・虎・兕モ・傷ルニ由^ヨ无(シ)・兵刃モ・從

テ加フルコト无(シ)也

夫何故哉⁶¹

問虎兕兵甲何故不害之也^{62 63 64 65}

以其無死地^{66 67 68}

以其不犯上十三之死地言神明營護之此物不敢害人^{69 70 71 72 73 74 75 76 77}之也

夫平何ノ故ゾ哉⁷⁸

問(フ)・虎兕兵甲・何ノ故ニ力害セ不⁷⁹之也

其ノ死⁸⁰・地無(キ)コトヲ以テナリ

其ノ上ノ十三ノ⁸¹之死地ヲ・犯サ不⁸²(ル)ヲ以テナリ・言ハ神明營護⁸³之⁸⁴・此ノ物・敢テ人ヲ害セ不⁸⁵之也

校異

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(武内・東大・東洋)は「貴生章第五十一」に、(杏・慶・大東・弘文)は「出生入死章第五十」に、(筑波)は「出生入死章五十」に作る。また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある。即ち(武内)は「出生章」、(東大・東洋)は「出生入死章」、(杏・筑波・慶・大東)は「貴生章」、(弘文)は「又貴生」と題す、尚(梅沢)は章題「貴」字右旁に「十三」と(無窮)は本章首行肩上に「出生入死章十三」と下巻内章次數を記す
- 2 (於五内、(世徳)は「於内」二字に作り、(宋版)は「无内」に誤る
- 3 (斯)「定魄」二字を脱す
- 4 (活・活・陽・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・敦)「也」字無し
- 5 「欲」字下、(足利)「故」字有り
- 6 (道蔵)「於」字無し
- 7 (敦)「凶」字に作る
- 8 (梅沢)「情」字に作る
- 9 (神勞)、「敦」(勞神)に作る
- 10 (活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵)は「惑」字に、(敦)は「或」字に作る
- 11 (宋版・世徳・敦)「也」字無し
- 12 (武内)「從」字に作り、右旁に「徒イ」の校異記有り
- 13 (武内)「從」字に作り、右旁に「徒」字加筆

- 14 「生死」、(世徳)「死生」に作る
- 15 「有十三」、(道蔵)「十有三」に作る
- 16 (敦)「關也」二字無し
- 17 (弘文)「妄」字無し
- 18 (弘文)は「嗅」、(無窮・東急)は「香」字に作る、(宋版)は「香鼻」、(世徳・敦)「香鼻」、(道蔵)は「香鼻」二字に作る
- 19 「言」字下、(宋版・世徳・敦・道蔵)「味」字有り
- 20 「不妄」、(梅沢)「妄不」に作る
- 21 「持」字下、(東急)「之」字有り
- 22 (筑波)「情」字に作る、(宋版・世徳)は「精神」二字に作る、(神)字衍
- 23 (杏・道蔵)「也」字無し
- 24 (筑波・宋版)「及」字に作る
- 25 (敦)「此」字に作る
- 26 (敦)「道蔵」「也」字無し
- 27 (宋版・世徳・道蔵)「皆」字無し
- 28 (梅沢)「動」字に作る
- 29 「十」字下、(陽・書陵・武内・東大・東洋・弘文・足利・梅沢・道蔵)「有」字有り、尚、(東活)は「十三」字間に小圈を施し左旁に「有」字を加筆
- 30 (宋版・世徳)「地」字を脱す
- 31 (東急・敦)「也」字無し
- 32 (東急・宋版・世徳・道蔵)「哉」字無し
- 33 (問)字下、(活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急)「之」

34 (慶) 大東・敦)「也」字無し
 35 (活) 活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・六地・東急・道蔵)「也」字有り
 36 (所) 字上(無窮・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶・大東・足利・斯・梅沢)は「言」字有り、(敦)は「言人」二字有り、尚(東洋)は「言」字左旁に青筆で見消ちを付す
 37 (道蔵)「也」字に作る
 38 (無窮・慶)「治」字に作る
 39 (活)之書、(道蔵)此の三字無し
 40 (活) 活・陽・無窮・斯)「大」字に作る
 41 (妄行失紀)、「道蔵」妄行於巳)に作る
 42 (弘文)「記」字に作る
 43 (東大・東急・宋版・世徳・道蔵)「也」字無し
 44 (撰)字下、(東洋)「者」字有り、但、左旁に青筆で見消ちを付す
 45 (東急)「猛」字に作る、但、右旁に「兕」字を加筆す
 46 (大東)「虚」字に誤る
 47 (宋版・世徳)「避」字に誤る
 48 (以)字上、(梅沢)「樂」字有り、但、右旁に「イ无」と校異書入れを加える
 49 (杏・武内・東大・東洋・東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し、但、(東洋)は青筆で「人」字下に小圈を施し下旁に「也」字を加筆す
 50 (武内・東大・慶・大東・六地・敦)「无」字に作る
 51 (宋版)「所」字脱
 52 (弘文)「捉」字に作る
 53 (活) 活・無窮・書陵・杏・武内・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵)「無」字に作る
 54 (宋版)「其」字脱、(杏)「昔」字に作る、但、右旁「其」字加筆
 55 (陽) 東大・六地・敦)「无」字に作る
 56 (虎兕)、「無窮・筑波・足利・慶・大東・斯・敦)「兕虎」に作る
 57 (活) 活・書陵・武内・東洋・弘文・筑波・足利・梅沢・東

58 (急) 世徳・道蔵)「無」字に作る
 59 (斯)「田」字に誤る
 60 (活) 活・無窮・書陵・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵)「無」字に作る
 61 (之也)、「敦」此の二字無し、(道蔵)「也」一字に作る
 62 (東急・宋版・世徳・道蔵)「哉」字無し
 63 (道蔵)「聞」字に作る
 64 (活)兕)「兕虎」に作る
 65 (活)「人」字に作る、(無窮)は「之人」二字に作る
 66 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し
 67 (其無)、「斯)「無其」に作る
 68 (東大・筑波・慶・大東・梅沢・六地・敦)「无」字に作る
 69 (無窮)「也」字有り
 70 (足利)「妃」字に作る、但、左旁に「犯」字を加筆す
 71 (宋版・世徳・道蔵)「上」字無し
 72 (地)字下、(活) 活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・斯・足利・梅沢・東急)「也」字有り
 73 (敦)「明」字無し、(無窮)杏・武内・東大・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・東洋)「明」字下に「當」字有り
 74 (東洋)は「衛」字、(足利・斯)は「勢」字に作る、尚、(東洋)は青筆で「當衛」各字左旁に見消ちを付し右旁に「營」字を加筆す
 75 (之)字下、(大東)「也」字有り
 76 (此物)、「道蔵)「兵兕」に作る
 77 (宋版・世徳・敦・道蔵)「人」字無し
 78 (之也)、「(東急・宋版・世徳・道蔵)は此の二字無し、(活) 活・陽・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢)は「也」一字に、(無窮)は「者也」に作る
 訓読文補注
 1 (生)キ)、「(梅沢・武内・慶・大東)は「イキ」と加点し、(東大・筑波・弘文)は「キ」を送る、今、これら点本に従い訓読する。
 尚(陽・無窮・書陵)は「ス」を、(東急・東洋・斯)は「シ」

を送り音読している。

2 「行テ」、(梅沢)は「ユイテ」と、(陽)は「行フテ」、(東活)

は「行テ」、(慶・大東)は「行テ」と加點し「行」を「をこなう」と訓む

下18ウ6 養徳第五十一

養徳第五十一

道生之

道生ス¹之

道生万物也²

道・万・物ヲ生ス¹也¹

徳畜之

徳畜ス¹之

徳一也一主布氣而畜養也³

徳ハ・一「ヲ」也¹・一・氣ヲ布(イテ)・二而「畜」養スルコト

物形之⁵

物ニ形ス¹之¹

一為万物設形象也⁶⁷

一・万・物ノ為去ニ・形・象ヲ設ク¹也¹

勢成之

勢アリテ成ス¹之¹

一為万物作寒暑之勢以成之也⁸⁹

一・万・物ノ為去ニ・寒・暑ノ「之」勢ヒヲ作(シ)テ・以テ成

是以萬物莫不尊道而貴徳

是ヲ(シ)以テ・萬・物・道ヲ尊テ・二而「徳」ヲ貴ヒ不ト云コト莫

道徳所為无不驚動而尊敬之也¹⁰¹¹¹²¹³

道徳ノ為(ル)所・尽(ク)ニ驚・動ノ・二而「尊」敬セ不ト云コ

ト无(シ)「之」也¹

道之尊德之貴夫莫之命而常自然¹⁴¹⁵

道一不命召万物常自然應之如影響也¹⁶¹⁷

故道生之德畜之長之育之成之熟之養之覆之¹⁸¹⁹

道之於万物非但生之而已乃復養長成熟覆育全於²⁰²¹²²²³²⁴²⁵
性命人君治國治身亦當如是也²⁶²⁷²⁸²⁹

生而不有

道生万物不有所取以為利也³⁰³¹³²

為而不恃³³

道所施為不恃望其報也³⁴³⁵³⁶

長而不宰³⁷

道長養万物不宰割以為利用也³⁸³⁹⁴⁰⁴¹⁴²

是謂玄德

道ノ「之」尊ナル・徳ノ「之」貴ナルアリ。夫平「之」命スルコト
莫(ケレ)トモ・而モ常ニ自然ナリ

道・一・万物ヲ命召セ不トモ・常ニ自然ニ應去スルコト
「之」影響キノ如(シ)「也」

故二道生ス「之」・徳畜フ「之」・長シ「之」育シ「之」・成シ「之」熟
シ・養ヒ「之」覆去フ「之」

道ノ「之」万物ニ於(ケ)ル・但生スル「之」而已ニ非ス・乃
(手)復去養長上成熟覆去育「之」於性命ヲ全クス・
人君・國ヲ治メ身ヲ治(ム)ルコト・亦當ニ是ノ如(ク)ナル

「當シ」也

生「之」而「有」セ不

道・万・物ヲ生(ス)トモ・取(リ)テ以テ利ト為ル所有(ラ)不
「也」

為「之」而「恃」マ不

道ノ施為スル「施シ為ル」所・其ノ報ヲ恃ミ望(マ)不「也」

長上「之」而「宰」セ不

道・万・物ヲ長上・養(ス)トモ・宰割ノ以テ利用ト為不
「也」

是ヲ玄德ト謂(フ)

道之所行恩德玄闇不可得見也⁴³
也⁴⁴
也⁴⁵

校異

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(武内・東大・東洋)は「養徳章第五十一」に、「杏」は「道生章第五十一」に、「慶」大東・筑波・弘文は「道生之章第五十一」に作る(但、「慶」は「五十一」を「五十二」に誤る)また本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(武内)は「道生章」、(東大・東洋)は「道生之章」、(杏・筑波・大東)は「養徳章」、(慶)は「養徳章」、(弘文)は「又養徳」と題す、尚「梅沢」は章題「養」字右旁に「十四」と、「無窮」は本章首行肩上に「道生之章十四」と下巻内章次數を記す。
- 2 (筑波・弘文・東急・宋版・世徳・敦・道感)は「也」字無し、(慶)大東・足利・斯・東洋は「之也」二字に作る、但、「大東」は「之」字右旁に見消ちを附す。
- 3 (世徳・道感)「生」字に作る。
- 4 (宋版・世徳・道感)は「也」字無し、(梅沢・東急・敦)は「之」字に、「陽」書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・弘文・慶)大東・足利・斯)は「之也」二字に作る。
- 5 (斯)此の経文及び注文向無し。
- 6 (活)活・陽)無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶)大東・弘文・梅沢・東急・敦)「像」字に作る。
- 7 (敦)「之」字無し。
- 8 (梅沢)「之」字無し。
- 9 (無窮・慶)大東・東急・宋版・世徳・敦)道感)は「也」字無し、(東洋)は「者」字に作る、但、青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「也」字を加筆。
- 10 (筑波)「字」字に作る。
- 11 (无)「字」上、「敦」「万物」二字有り、「无」字、「活」字、無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳)は「無」字に、「道感)は「莫」字に作る。
- 12 (活)活・陽)書陵・筑波・弘文・慶)大東・斯)「而」字無し、尚、(東洋)は「而」字左旁に青筆の見消ちを付す。

道ノ「之」行フ所・恩・徳玄闇ニッ・得テ見(ル)可(カラ)不
[也]

- 13 「之也」、(宋版・世徳・道感)此の二字無し、(敦)は「也」一
字無し。
- 14 (東大・東洋)「之」字無し。
- 15 (命)武内)は左旁に「爵」字を加筆、尚、(東洋・東活)は同
字左旁に「述曰嚴遵王師等並左爵」の書入れ有り、(東洋)は青筆
「常」字上、「活」字、活・陽)無窮・書陵・杏・武内・東大・
東洋・慶)大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・
敦)道感)「而」字有り。
- 17 (東急・宋版・世徳・敦)道感)「也」字無し、(梅沢)は「之
也」二字に作る。
- 18 (之徳)「無窮」徳之)に作る。
- 19 (東洋・弘文)は「焚」字(斯)宋版)は「孰」字(東急)
は「就」字に作る。
- 20 (筑波)は「之」字無し、(道感)は「生」字に作る。
- 21 (道感)「之」字無し。
- 22 (養長)宋版・世徳・敦)道感)「長養」に作る。
- 23 (成熟覆育)斯)育成孰覆)に作る。
- 24 (無窮・武内・東急・道感)は「就」字(弘文・梅沢)は「焚」
字(宋版)は「孰」字に作る。
- 25 (活)活・陽)無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑
波・慶)大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・敦)道感)
「其」字に作る。
- 26 (敦)治)字無し。
- 27 (當)字下、(東大)「知」字有り、但、抹消符を付す。
- 28 (梅沢・東急・敦)「之」字に作る。
- 29 (敦)「也」字無し。
- 30 (活)活・陽)無窮・書陵・杏・武内・東大・筑波・弘
文・慶)大東・足利・斯・東洋・梅沢・東急・治要)「所」字
無し。
- 31 (活)活・陽)書陵・東急・敦)道感)治要)「也」字無
し。
- 32 (活)活・陽)書陵・東急・敦)道感)治要)「也」字無
し。

し、(東洋)は「之也」二字に作る、但、両字左旁に青筆で見消ちを付す
 33 (慶)・大東「特」字に作る
 34 (斯)「不」字無し
 35 (慶)・大東「特」字に作る
 36 (敦)「也」字無し
 37 (東大)「寄」字に作る
 38 (東大)「寄」字に作る
 39 (武内)・道感「書」字に作る
 40 (敦)「器」字に作る

下20才3 歸元第五十二

天下有始

始者道也

以為天下母

道為天下万物之母

既知其母復知其子

子一也既知得道已當復知一也

既知其子復守其母

已知其一當復守道反无為也

歿身不殆

41 (宋版)・世徳・道感「用」字無し、(杏)は「養」字に作る
 42 (敦)・道感「也」字無し、(東洋)・梅沢は「之也」二字に作る
 43 (筑波)・弘文・慶・大東・足利・梅沢・道感「暗」字に作る、
 (斯)は「晴」字に誤る
 44 (無窮)「謂」字に作る
 45 (東急)・宋版・世徳・敦・道感「也」字無し、(陽)・書陵・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢は「之也」二字に作る

歸元第五十二

天下始有テ

始八「者」・道「也」

以テ天下ノ母為(リ)

道・天下ノ万物ノ之ノ母為(リ)

既ニ其ノ母ヲ知テ・復去其ノ子ヲ知(ル)

子ハ「一」也。既ニ道ヲ得(ル)コトヲ知(リ)・已ニ當ニ復

去一ヲ知(ル)「當シ」也

既ニ其ノ子ヲ知(テ)・復去其ノ母ヲ守(ル)

已ニ其ノ一ヲ知テ・當ニ復去道ヲ守テ・无為ニ反(ル)也

身ヲ歿ルマテ殆カラ不

不危殆也¹⁹

塞其兌

兌目也目不妄視也²¹

閉其門

門口也口不妄言也²⁴

終身不勤

人當塞目不妄視閉口不妄言則終身不勤苦也²⁸

開其兌

開目視情欲也³²

濟其事

濟益也益情欲之事也³⁵

終身不救

禍乱成也

見小曰明

萌芽未動禍乱未見為小昭然独見為明也³⁸

守柔曰強⁴⁴

危・殆ナラ不(ル)ソ「也」

其ノ兌ヲ塞キ

兌ハ・目「也」。目妄リニ視不(ル)ソ「也」

其ノ門ヲ閉(ツ)ルトキハ

門ハ・口「也」。口妄(リ)ニ言ハ不(ル)ソ「也」

身ヲ終(フル)マテニ勤メ不

人當ニ目ヲ塞テ(・)妄(リ)ニ視不(・)口ヲ閉テ(テ・)妄(リ)

ニ言(ハ)不(ル)トキハ・「則」身ヲ終(フル)マテニ勤・苦セ不
「也」

其ノ兌ヲ開キ

目ヲ開テ情欲ヲ視(ル)「也」

其ノ事ヲ濟ストキハ

濟ハ・益「也」。情欲ノ「之」事ヲ益(ス)「也」

身ヲ終(フル)マテ救ヒエ不

禍・乱成ル「也」

小ヲ見(ル)ヲ明ト曰(フ)

萌芽未タ動(カ)「未」・禍・乱未タ見(ヘ)「未」ルヲ小ト為・昭

然トソ独(リ)見(ル)ヲ・明ト為「也」

柔ヲ守(ル)トキハ曰(フ)「強シ」

守柔弱日以強大也⁴⁷

用其光⁴⁸

開用其目光於外視時世之利害也⁴⁹

復歸其明⁵²

當復反其光明於内無使精神泄也⁵³

無遺身殃⁵⁹

内視存神不為漏失⁶⁰

是謂習常

人能行此是謂習修常道也⁶³

校異

1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(武内・東大)は「歸元章第五十二」に、(東洋)は「歸元章第五十二」に、(陽)は「滯無第五十二」に、(杏・慶)は「歸元章第五十二」に、(筑波・弘文)は「天下有始章第五十二」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(東大・東洋)は「天下有始章」、(杏・筑波)は「皈元章」、(慶・大東)は「歸元章」と題し、(弘文)は「本云皈無第五十二」との大書書入れがある、尚(梅沢)は章題「歸」字右旁に「十五」と、(無窮)は本章首行肩上に「天下有始十五」と下巻内章次數を記す

柔弱ヲ守(ル)トキハ・日ニ以テ強ク大ナリ也⁴⁷

其ノ光ヲ用(フ)

其ノ目光ヲ於外ニ開(キ)用(フ)テ・時世ノ之利害ヲ

視(ル)ソ也

其ノ明ニ復・歸ス

當ニ復テ去・其ノ光明ヲ於内ニ反^{カス}・精神ヲノ(使)泄^モラサ

「使」ムルコト無(カ)ル當「シ」也

身ノ殃ヲ遺^{ワザハイノコ}スコト無(シ)

内ニ視テ神ヲ存^モ・漏失スルコトヲ為不(ル)ソ

是ヲ習常ト謂(フ)

人能(ク)此ヲ行(フ)・是ヲ常ノ道ヲ習(イ)修(ム)ト謂(フ)

一也

2 (梅沢・宋版・世徳)は「有」字に作る

3 (東急)「也」字無し

4 (活)・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・敦)「之」字無し

5 (活)・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・敦)道感

6 (也)字有り

7 (敦)「復」字に作る

武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・東急・

8 六地)「又」字に作る
 「知」字上、(活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・六地・敦)「以」字有り
 9 (敦)「知」字無し
 10 (敦)「知」字無し
 11 (敦)「知」字無し
 12 (敦)「知」字無し
 13 (敦)「知」字無し
 14 (敦)「知」字無し
 15 (敦)「知」字無し
 16 (敦)「知」字無し
 17 (敦)「知」字無し
 18 (敦)「知」字無し
 19 (敦)「知」字無し
 20 (敦)「知」字無し
 21 (敦)「知」字無し
 22 (敦)「知」字無し
 23 (敦)「知」字無し
 24 (敦)「知」字無し
 25 (敦)「知」字無し
 26 (敦)「知」字無し
 27 (敦)「知」字無し
 28 (敦)「知」字無し
 29 (敦)「知」字無し
 30 (敦)「知」字無し
 31 (敦)「知」字無し
 武内・東大・東洋・梅沢)は「也」二字に作る、(陽・書陵・

32 「目」字上、(道蔵)「其」字有り
 33 (書陵・杏)「怒」字に作る
 34 (敦・道蔵)「也」字無し
 35 (斯)「益」字無し
 36 (書陵)は「怒」字に作る
 37 (慶・大東・東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し、
 (東洋)は「者也」二字に作り「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 38 (無窮・武内・杏・筑波・慶・大東・東急・世徳)「芽」字に
 作る
 39 (杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯
 ・梅沢・敦)「照」字に作る、但、(筑波)は右旁に「昭」の校
 字書入れ有り
 40 (斯)は置字「々(照)」字に作る、「然」字下、(梅沢)は「之」
 字有り
 41 (梅沢)は「猶」字に作る
 42 (梅沢)は「朋」字に誤る
 43 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し、「(東洋)は「者
 也」二字に作り「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 44 (無窮・道蔵)「日」字に作る
 45 (無窮・道蔵)「日」字に作る
 46 (無窮・道蔵)「日」字に作る
 47 (東洋)は「已」字左旁に青筆で見消ちを付す
 48 (敦)「也」字無し、「(東洋)は「者也」二字に作る、但「者」
 字左旁に青筆で見消ちを付す
 49 (用)字上、(活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・
 東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・六地)「目」
 字有り
 50 (活・活・陽・書陵・武内・東大・東洋・筑波・梅沢・東
 急)「版」字に作る
 51 (活・活・陽・書陵)は「當」字無し、(道蔵)は「言」字
 52 (活・活・陽・書陵)は「當」字無し、(道蔵)は「言」字
 53 (活・活・陽・書陵)は「當」字無し、(道蔵)は「言」字
 54 (活・活・陽・書陵)は「當」字無し、(道蔵)は「言」字
 但、(東洋)は「當」字左旁に青筆で見消ちを付す
 (當復)、「(東大・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳)「復當」に作る、

55 「内」字下、「梅沢」「外」字有り
 56 「陽・無窮・杏・東大・東洋・筑波・武内・慶・敦」「无」字に作る
 57 「陽・東大・東洋・梅沢・敦」は「洩」字に、「無窮・足利」は「洩外」(活・活・書陵・杏・筑波・弘文・斯・大東・慶)は「洩外」(武内)は「外洩」二字に作る
 58 「大東・慶・敦」「也」字無し
 59 「陽・東大・慶・六地・敦」「无」字に作る
 60 「筑波」「神」字に誤る
 61 「道蔵」「全」字に作る

下21ウ1

1 益證第五十三

使我介然有知行於大道

2 介大也老子疾時王不行大道故設言使我介然有知
 3 於政事我則行於大道躬无為之化也
 4 5 6

唯施是畏

14 15 16
 11 12 13
 唯独也独畏有所施為失道意欲賞善恐偽善生欲信
 忠恐詐忠起也

62 (活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・筑波・慶・大東・足利・梅沢)は「也」字(東洋)は「矣也」二字有り
 但(東洋)は「矣」字左旁に青筆で見消ちを付す
 63 (宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し、(東洋)は「者也」二字に作る。但「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 訓読文補注
 1 「テ」、墨色薄く他と異なる、後筆の如し

益證第五十三

我ヲノ(使)・介然トシ知(ル)コト有テ・「於」大道ヲ行ハ「使」

メ八

介ハ・大「也」。老子・時ノ王ノ・大道ヲ行ハ不(ル)コトヲ疾ム。故ニ言ヲ設ク。(我ヲノ(使)介然トシ「於」政事ヲ知(ル)コト有(シ)「使」メハ・我「則」ニ「於」大道ヲ行(テ)・无為ノ「之」化ヲ躬ラセン「也」)

唯リ施スコト是ヲ畏ル

唯ハ・独「也」。独リ施・為(スル)所有テ道ノ意ヲ失(ハ)ンコトヲ畏ル・善ヲ賞セント欲(スレ)ハ・偽リノ善ノ生(ラ)ンコトヲ恐ル・忠ヲ信セント欲(スレ)ハ・詐(リ)ノ忠ノ起ランコト

大道其夷¹⁷

夷平也易也^{18 19}

而民好徑^{20 21}

徑邪不不正也大道甚平易而民好從邪徑不不正也^{22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33}

朝甚除³⁴

臺榭宮室修^{35 36 37 38 39}

田甚蕪

農事廢不耕治失時也^{40 41}

倉甚虛^{42 43}

五穀傷害國無儲也^{44 45 46 47}

服文綵⁴⁸

好飾偽賣外花也^{49 50 51 52}

帶利劔

尚剛強武且奢也^{53 54}

厭飲食財貨有餘^{55 56}

多嗜欲无足時也^{57 58 59 60}

是謂盜夸⁶¹

トヲ恐ル也」

大道其(レ)夷ナリ

夷ハ・平也易去也

而(ル)ヲ民徑ヲ好去ム

徑ハ・邪。平・正ナラ不(ル)ソ也」。大道・甚タ平易去

ナリ・而(ル)ヲ民好去テ邪徑ニ從テ・平・正ナラ不也」

朝平ハ甚タ除(マ)レリ

臺榭宮室修(マ)レリ

田ハ甚タ蕪レタリ

農事廢レテ耕(セ)不。治(ム)ルコト時ヲ失フ也」

倉ハ甚(タ)虚シ

五穀傷害アリ・國ニ儲无(シ)也」

文綵ヲ服

飾偽ヲ好去テ・外花ヲ賣フ也」

利劔ヲ帶キ

剛強ヲ尚テ・武ニソ且奢レリ也」

飲食ニ厭イテ・財貨餘リ有(ル)

嗜欲多(ク)ノ足(ル)時无(キ)ソ也」

是ヲ盜夸ト謂(フ)

百姓不足而君有餘者是猶劫盜以為服飾特行夸人
不知身死家破親戚并隨也

非道也哉

人君所行如是此非道也復言也哉者痛傷之辭也

道二非ル也哉

人君ノ行(ラ)所是ノ如(クナルハ)此道二非ス也(一)。(復去也。哉ト言ハ者・痛(ミ)傷ム之辞ナリ也)

校異

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(武内・東大・東洋)は「益證章第五十三」に、「杏・慶・大東」は「使我章第五十三」に、「筑波・弘文」は「使我介然章第五十三」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(東大・東洋)は「使我介然章」(杏・筑波・慶・大東)は「益證章」と題し、「弘文」は「一本云益證第五十三」との大書書入れがある、尚、(梅沢)は章題「益」字右旁に「十六」と、(無窮)は本章首行肩上に「使我介然十六」と下巻内章次数を記す「介大也、(敦)は此の三字無し
- 2 (筑波)「特」字に誤る
- 3 「言」字上(活・活・陽・無窮・書陵・慶・大東・弘文・斯・足利・東急・宋版・世徳・敦)「此」字有り、尚(東洋)は「故設」字間に青筆で小圈を施し右旁に「設此言」の三字を加筆
- 4 「使」字上(書陵・足利)「設言」二字有り、尚(東活)は「言使」字間に小圈を施し右旁に「設言」二字を加筆
- 5 (斯)「知於」字間に「躬」字を加筆
- 6 (行於)「弘文」於「字」下に「行」字を加筆「於行」に作る
- 7 (斯)「躬」字無し「躬」字下に「敦」字有り
- 8 (活・活・無窮・書陵・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・世徳・道蔵)「無」字に作る
- 9 (宋版・世徳・敦)「也」字無し
- 10 (欲字上、(梅沢)「故」字有り)

- 12 (道蔵)「恐」字無し
- 13 (道蔵)「性」字に作る
- 14 (東急)「恐」字無し
- 15 (敦)「作」字に作る
- 16 (筑波・武内・東大・東洋・東急・宋版・世徳・敦)「也」字無し(梅沢)は「之也」二字に作る、尚(東洋)は青筆で「起」字下に小圈を施し「也」字を加筆する
- 17 諸本「甚」字に作る
- 18 (活)「平」字下に小圈を施し右旁に「也」字を加筆
- 19 (易)字上(陽・無窮・書陵・杏・東大・東洋・筑波・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急)は「大」字(弘文)は「高大」二字有り、尚(東活)は「易」字上に小圈を施し右旁に「大」と加筆
- 20 「民」(東洋・東活)は左旁に「人述作」(東洋)は青筆と、また(書陵)は左旁に「述作人」と書入有り
- 21 (無窮・東大・敦・治要)「佳」字に作る
- 22 (無窮・東大・敦・治要)「佳」字に作る
- 23 (無窮・足利・梅沢・敦・治要)「耶」字に作る、但(足利)は「耶」字下旁に「邪」字を加筆
- 24 「不」字上(東洋)「也」字有り、但、左旁に青筆で見消ちを付す
- 25 (治要)「正」字無し

26 (宋版)「世」字に誤る
 27 (東急)「平」字無し
 28 (治要)「人」字に作る
 29 (東急)「也」字に作る
 30 (無窮)足利・敦・治要「耶」字に作る、但(足利)は「耶」字下旁に「邪」字を加筆
 31 (陽)書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・斯・足利・東急・治要「徑」字無し、(無窮・敦)は「徑」字に作る
 32 「不平正」、(宋版・世徳・敦・道蔵)此の三字無し
 33 (敦・治要)「也」字無し、(梅沢)「之世」二字に作る
 34 (梅沢)「修」字に作る、(斯)は「除修」二字に作る、尚、(書陵・東洋・東活)は「除」字下旁に「或作修」の校異書入れ、(東洋)は(青筆)有り
 35 「臺」字上(杏)筑波・弘文・慶・大東・斯・宋版・世徳・敦・道蔵・治要「高」字有り
 36 (足利)は「樹」字に作る
 37 (武内)「循」字に作る、尚、(東洋)は(青筆)で「修」字左旁に見消しを付し「脩」字を加筆する
 38 (活)活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・梅沢「也」字有り
 39 (失時也)、(宋版・世徳・敦・治要)此の三字無し
 40 (東洋)「之也」二字に作る、但「之」字左旁に(青筆)で見消しを付す
 41 (東活)は「甚」字右旁に「其」字と校異書入れ有り
 42 (大東)「唐」字に誤る
 43 (武内)筑波・足利「穀」字に誤る
 44 (敦)「書」字無し
 45 (活)活・無窮・書陵・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵「無」字に作る
 46 (足利)「也」字無し
 47 (足利)は「綵」字、(弘文・道蔵)は「彩」字、(治要)は「采」字、(活)活・陽・書陵・梅沢・六地)は「繡」字に作る、尚(慶・大東)は左旁に「亦作繡也」と、(東洋)は(青筆)で左旁に見消しを付し右旁に「繡」、左旁に「述作綵」との校異の書入れ有り、また、(東活)書陵・六地)の「繡」字左旁には「述作綵」

49 「或作綵述」或本綵」との書入れが見える
 50 (節偽)「道蔵」(偏飾)に作る
 51 (斯)「貴」字無し
 52 (宋版)は「内」字に誤る、(世徳)は「尚」字に作る
 53 (東急)宋版・世徳・敦・道蔵・治要「也」字無し
 54 (武)字下、(東洋)「而」字有り、但、左旁に(青筆)で見消しを付す
 55 (東急)宋版・世徳・敦・道蔵・治要)は「也」字無し、(梅沢)は「之也」二字に作る
 56 (敦)「繫」字に作る
 57 (財貨)「弘文」(貨財)に作る
 58 (聖語)「書」字に作る
 59 (慶)大東)「慾」字に作る
 60 (活)活・無窮・書陵・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵「無」字に作る
 61 (武内)東急)宋版・世徳・敦・治要)「也」字無し、(梅沢)は「之也」二字に作る
 62 (道蔵)「誇」字に作る、尚、(東洋(書)東活)は地脚に「夸唐本作誇」と、また、(大東)は地脚に「或作誇」と校異の書入れ有り
 63 (不足)、(宋版)此の二字脱
 64 (東急)宋版・世徳・道蔵)「由」字に作る
 65 (東大・弘文)「却」字に作る
 66 (道蔵)「致」字に作る
 67 (服飾)「敦)「飾服」に作る
 68 (活)活・陽・無窮・武内・東大・慶・大東・弘文・斯・東洋・足利・聖語)は「特」字に、(東急)は「獨」字に作る
 69 (道蔵)は「誇」字に、(梅沢)聖語)は「奢」字に作る
 70 (陽)書陵・慶・大東・弘文・足利・斯・東急・敦)は「之」字に、(活)活・無窮・武内・梅沢・治要)は「之也」二字に作る、尚、(東洋)は(青筆)で「也」字左旁に見消しを付し「之」字を加筆し「杏)は左旁に「之」字と校異書入れ有り
 71 「非」字上、(道蔵)「盜誇」二字有り
 72 (無窮)宋版・世徳)「也」字無し
 73 (道蔵)「人」字無し
 74 (筑波)「此」字に作る

74 (活・活・陽・書陵・道蔵)「也」字無し、尚、(東洋)は
 青筆で「也」字左旁に見消ちを付す
 75 「復言也哉者痛傷之辞也」(治要) 此の注文無し
 76 (世徳)「也」字無し
 77 「痛傷」(道蔵)「傷痛」に作る
 78 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し

訓読文補注

- 1 「我」則、「(慶)は「我」則子、「(東大・大東)「我」則、
 (杏・筑波)「我」則」と加點
- 2 「於」大・道ヲ行(テ)・无・為ノ之化ヲ躬ラセン也」(陽・
 書陵・杏・東洋)の加點を参照、(慶・大東)は「於」大・道ヲ

下22ウ4 修觀第五十四

善建者不拔

建立也善以道立身立國者不可得引而拔也

善抱者不脫

善以道抱精神者終不可拔引解脫也

子孫以祭祀不輟

為子子孫能脩道如是長生不死世以久祭祀先祖无

行ントハ無為ノ「之化ヲ躬ラ」セントナリ也」のように訓む
 3 「除マレ」リ、(治要・書陵・無窮・東急・武内・足利・杏・
 東活)は「ヲ(或いはオ)サマレリ」と訓む、いま、此れに倣つ、
 尚、(陽)は「オサマリ」、(慶・大東)は「ヲサマリ又」、(筑
 波)は「ヲサマツテ」、(東洋)は「ヲサマテ」と加點
 4 「如クナルハ」、(治要・陽・東活)は「如ナルは」、(武内)
 は「如ナルハ」、(慶)は「如ルハ」、(大東)は「如ナルコトハ」、
 (書陵)は「如キナルは」、(梅沢)は「如トキハ」、(杏)は「如
 ハ」、(弘文)は「如」と訓む

修觀第五十四

善(ク)建ツル者八拔ケ不

建ハ・立也。善(ク)道ヲ以テ身ヲ立(テ)國ヲ立(ツ)ル者ハ・

善(ク)抱ル者八脱ケ不

善(ク)道ヲ以テ精・神ヲ抱ル者ハ・終ニ拔(キ)引(イ)テ解

子・孫トノ以テ祭・祀スルコト輟マ不

人ノ子・孫ト為ソ能(ク)道ヲ脩(ム)ルコト是ノ如(キ)トキハ・

絶時也¹⁴¹⁵

修¹⁶之於身其德乃真

修道於身愛氣養神益壽延年其德如是乃為真人也¹⁹

修²⁰之家其德有餘

修道於家父慈子孝兄友弟順夫信妻貞其德如是乃有餘慶及於來世子孫也²⁹

修³⁰之於鄉其德乃長

修道於鄉尊敬長老愛養幼小教誨愚鄙其德如是乃無不覆及也³⁸

修³⁹之於國其德乃豐

修道於國則君信臣忠仁義自生禮樂自興政平无私其德如是乃為豐厚也⁴⁹

修⁵⁰之於天下其德乃普

長・生ニソ死セ不・世以テ久シク先・祖ヲ祭・祀ソ・絶ユル時无^{補注1}ケン^{補注1}也

「之於」身ヲ修ムルトキハ其ノ德乃チ真ナリ

道ヲ「於」身ニ修メテ・氣ヲ愛シ神ヲ養ヒ・壽ヲ益シ年ヲ延フ・其ノ德是ノ如キトキハ・乃チ真^{補注1}人ト為也

之ヲ「於」家ニ修ムルトキハ・其ノ德餘リ有リ

道ヲ「於」家ニ修ムルトキハ・父・慈アリ子・孝アリ兄・友アリ弟・順アリ・夫・信アリ妻・貞アリ・其ノ德是ノ如キトキハ・乃チ餘^{補注1}リノ慶有テ「於」來世ノ子・孫ニ及フ也

之ヲ「於」鄉ニ修ムルトキハ・其ノ德乃チ長シ

道ヲ「於」鄉ニ修ムルトキハ・長・老ヲ尊・敬シ・幼・小ヲ愛・養シ・愚・鄙ヲ教・誨ス・其ノ德是ノ如キトキハ・乃チ覆去ヒ及ハ不ト云コト無シ也

之ヲ「於」國ニ修ムルトキハ・其ノ德乃チ豊ナリ

道ヲ「於」國ニ修ムルトキハ・一則君・信アリ臣・忠アリ・仁・義自^{補注1}スカラ^{補注1}生リ・禮・樂自^{補注1}スカラ^{補注1}興テ・政・平ニ私无シ・其ノ德是ノ如キトキハ・乃チ豊・厚ナリト為也

之ヲ「於」天下ニ修ムルトキハ・其ノ德乃チ普^{補注1}シ

人主修道於天下不言而化不教而治下之應上信如
影響其德如是乃為普博也

人主・道ヲ〔於〕天下ニ修（ム）ルトキハ・言ハ不（ソ）而〔化〕
シ・教ヘ不（ソ）而〔治マ〕ル・下（ノ）ニ上（ニ）應（レ）去（ス）ルコト・
信（ニ）影（響）キノ如（シ）。其ノ德是ノ如（キ）〔田〕キハ・乃（チ）
普ク博シト為（レ）也

故以身觀身

故〔身ヲ〕以テ身ヲ觀

以修道之身觀不修道之人孰存孰亡也

道ヲ修（ム）ル之身ヲ以（テ）・道ヲ修メ不（ル）之人ヲ觀（ル）・
孰力（存）シ孰力（亡）スル〔也〕

以家觀家

家ヲ以テ家ヲ觀

以修道之家觀不修道之家也

道ヲ修（ム）ル之家ヲ以（テ）・道ヲ修メ不（ル）之家ヲ觀
（ル）〔也〕

以鄉觀鄉

郷ヲ以テ郷ヲ觀

以修道之鄉觀不修道之鄉也

道ヲ修（ム）ル之郷ヲ以（テ）・道ヲ修メ不（ル）之郷ヲ觀
（ル）〔也〕

以國觀國

國ヲ以テ國ヲ觀

以修道之國觀不修道之國也

道ヲ修（ム）ル之國ヲ以（テ）・道ヲ修メ不（ル）之國ヲ觀ル
〔也〕

以天下觀天下

天下ヲ以テ天下ヲ觀（ル）

以修道之主觀不修道之主也

道ヲ修（ム）ル之主ヲ以（テ）・道ヲ修メ不（ル）之主ヲ觀
（ル）〔也〕

吾何以知天下之然哉以此

老子言吾何以知天下修道者昌背道者亡以此五事
觀而知之矣也

校異

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(武内・東大・東洋)は「修觀章第五十四」に、(杏・慶・大東)は「善建章第五十四」に、(筑波・弘文)は「善建者不拔章第五十四」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(東洋)は「善建者不拔章」、(東大)は「善建者章」、(杏・筑波・慶・大東)は「修觀章」と題し、(弘文)は「一本云修觀第五十四」との大書書入れがある、尚(梅沢)は章題「修」字右旁に「十七」と、(無窮)は本章首行眉上に「十七」と下巻内章次数を記す
- 2 (敦・道藏)は「之」字に、(梅沢)は「之也」二字に作る
- 3 「解引」(敦)此の二字無し
- 4 「解」字上、(東洋)「而」字有り、但、左旁に青筆で見消ちを付す
- 5 (書陵・足利・宋版・世徳・敦・道藏)「也」字無し、尚、(東洋)は「也」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 6 (宋版・世徳・道藏)「以」字無し
- 7 原「修」に作り加筆して「情」に改ためる、(東洋)は「修」字左旁に青筆で見消ちを付し下旁に「情」字を加筆する
- 8 「是」字下、(敦)「足」字有り
- 9 「死」字下、(東急)「也」字有り
- 10 「世」字下、(活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・慶)大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・敦・道藏「世」字或いは書字有り
- 11 「以」字下、(東急)「必」字有り

吾・何ヲ以テカ・天下ノ之然ルコトヲ知(ル)哉。此ヲ以テナリ

老子言(補注)吾・何(ヲ)以テカ天下ノ道ヲ修(ム)ル者八昌ヘ・道二背去ク者八亡ルコトヲ知(ル)ヤ。此ノ五事ヲ以テ觀テ・「而」知ル之矣也

- 12 「祖」字下、(活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道藏)は「宗廟」二字、(東洋・慶・大東)は「之宗廟」三字有り、但、(東洋)は「之」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 13 (活・活・無窮・書陵・筑波・慶・大東・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道藏)「無」字に作る、「无」字下、(敦)「有」字有り
- 14 (東大)「終」字に作る
- 15 (東急・宋版・世徳・敦・道藏)「也」字無し
- 16 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
- 17 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
- 18 (益壽延年)「治要」此の四字無し
- 19 (慶・大東・足利・斯・東急・宋版・世徳・敦・治要)は「也」字無し、(東洋)は「者也」二字に作り青筆で「者」字左旁に見消ちを付す
- 20 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
- 21 (東急)「身」字に作る、但、見消ちを付し、右旁に「家」字を加筆
- 22 「德」字下、(活・活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶)大東・弘文・足利・斯・六地・東急・世徳・敦・道藏「治要」乃「」字有り
- 23 (無窮・世徳・道藏・治要)「有」字無し、尚、(東活)は「有」字左旁に「中本无」との書入れ有り
- 24 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
- 25 (弘文)「第」字に作る

26 (東大・足利)は「真」字に、(道藏)は「正」字に作る、但、(足利)は見消ちを付し、眉上に「真」字を加筆する
 27 (筑波)「乃」字に縁る
 28 (東急)は「未来」に、(足利)は「末世」に作る
 29 (宋版・世徳・敦)「也」字無し(東洋)は「者也」二字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す。(治要)は「及於來世子孫也」七字句無し
 30 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 31 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 32 (活)活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・敦・道藏・治要・「少」字に作る
 33 「教誨」(東急)「誨教」に作る、(治要)「教誨愚鄙」四字句無し
 34 (鄙)字下(東急)「也」字有り(弘文)は「幼」字有り
 35 (武内)「乃」字無し
 36 (陽)杏・武内・東大・東洋・慶・治要「无」字に作る
 37 (敦)敦・治要「也」字無し
 38 (敦)敦・治要「也」字無し
 39 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 40 (弘文)「於」字無く、「天下」二字を衍す、但、両字左旁に見消ちを付す
 41 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 42 (道藏)「聖」字に作る
 43 (仁義自生礼樂自興)「治要」此の八字句無し
 44 (筑波)は「與」字に作る
 45 (敦)「正」字に作る
 46 (東急)「事」字に作る
 47 (活)活・無窮・書陵・筑波・弘文・大東・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道藏「無」字に作る
 48 (道藏)「修」字に作る
 49 (弘文)敦・治要「也」字無し
 50 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 51 (武内・東大・東洋・弘文・足利・斯・東急)於「字無し
 52 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 53 (梅沢)「之」字無し
 54 (道藏)「信」字無し
 55 (乃)字下(道藏)「可以」二字有り

訓読文補注

1 「无(ケン)」、(梅沢)は「無ケン」、(書陵)は「無し」、(慶・宋版)「傳」字に作る
 2 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 3 (斯)「之」字無し
 4 (無窮・武内・東大・東洋・杏・弘文・梅沢・東急・宋版・世徳・道藏)「身」字に作る
 5 「孰存孰亡也」(陽)武内・東大・東洋・書陵・梅沢・東急・宋版・世徳・道藏)は「孰亡孰存也」に作る、(敦)「は」孰亡也」三字無く「孰」を「熟」字に作る
 6 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 7 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 8 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 9 (敦)「也」字無し
 10 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 11 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 12 (敦)「道藏」「也」字無し
 13 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 14 (敦)「敦」字無し
 15 (敦)「吾」字無し
 16 (宋版)「吾」字無し、(敦)「道藏」「我」字に作る
 17 (道藏)「者」字無し
 18 (道藏)「者」字無し
 19 (一事)「活」活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・敦」此の一字無し
 20 「矣也」(敦)「道藏」此の二字無し、(活)活・陽・無窮・書陵・杏・武内・東大・東洋・筑波・慶・弘文・大東・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳)は「也」一字に作る

大東)は「無キソ」と加点、此の本還淳第十九経文「盜賊有ル」コト無(ク)ン、同「盜賊無有」下注「邪私無(ケ)ン」、異俗第二十経文「憂へ無(ケ)ン」同「無憂」下注「則憂患无(ケ)ン也」の例及び「梅沢」の点に倣う

2 「眞・人ト為」也、「杏・筑波・斯」は同じ、「治要・陽・東活」は「眞・人ト為也」、「武内・慶・大東」は「眞・人ト為ス」也、「書陵・無窮」は「眞・人ト為り」也、「梅沢・武内別」は「眞・人ト為り」也

3 「ヲ」、後筆の如し

4 「ニ」、「ヲ」を擦り消して「ニ」に改める、上の「之ヲ」の「ヲ」に應ず、³参照

5 「知(ル)哉」、「知」字に附訓無し、諸点本の加点は種々、「知(ル)とす哉」(書陵)、「知(ル)トナス」(無窮)、「知(ル)哉」(陽)

下24ウ³ 玄符第五十五

含徳之厚
謂含懷道德之厚者也

比於赤子⁴
神明保祐含徳之人若父母之於赤子也⁶

毒蟲不螫

「知ルトナルヤ哉」(東急・杏別)、「知ルトナラハ哉」(武内・斯・弘文・東活別)、「知ルトナレハ哉」(東洋・杏・筑波・慶・大東・東大)、「知ルヤトナレハ哉」(梅沢・六地・東活)等と訓まれている

6 「老子言」、「老子言」の句は無源第四「吾不知其誰之子」、淳風第五十七「吾何以知其然哉以此」、三寶第六十七「天下皆謂我大似不肖」、「夫我有三寶持而保之、知難第七十「吾言甚易知甚易行」の経文句下注に見えるが、何れも「言」字に加点されていない、外の点本では「言」(梅沢・書陵・陽・無窮)、「言ク」(武内・東大・慶)、「言ク」(東洋・杏・筑波・大東)の加点例があり多くは「のたまわく」と訓まれたようであるが、「言ケル」(斯)の例も有る

玄符第五十五
含・徳ノ「之」厚キ

道・徳ヲ含・懷スルコトノ「之」厚キ者ヲ謂フ「也」
「於」赤子ニ比ス

神明・含・徳ノ「之」人ヲ保・祐スルコト・父・母ノ「之」赤子ニ於ケルカ若シ「也」

毒・蟲ヲ螫、不

蜂・蝮蛇・虺不螫⁷

猛獸⁸不撓獲鳥⁹不搏

赤子¹⁰不害於物¹¹亦不害之也¹²故太平之世人无貴賤¹³皆有仁¹⁴心有刺之物還¹⁵反其本有毒之蟲不傷於人¹⁶

骨弱筋柔而握固¹⁸

赤子筋骨柔弱而持物堅固以其意專心不移也²⁰

未知牝牡之合而峻作精之至也²⁵

赤子未知男女之合會而隤作怒者由精氣多之所致也²⁹

終日號而不啞和之至也³⁰

赤子從朝至暮啼號而声不變易者和氣多之所致也³⁴

知和曰常⁴⁰

人能知和氣之柔弱有益於人者為知道之常也⁴¹

蜂・蝮蛇・蝮蛇・蝮蛇・蝮蛇(不)不(之)

猛獸毛(不)不(獲)鳥毛搏(不)不

赤子・「於」物ヲ害セ不・々(物)亦之ヲ害セ不(也)」。故二太・平ノ「之」世二ハ・人貴・賤ト无(ク)・皆仁(心)有(リ)。刺有(ル)「之」物モ・其ノ本二還(リ)・反リ・毒有(ル)「之」蟲モ・「於」一人ヲ傷ラ不

骨弱筋(柔)力(ニ)「而」握ルコト固シ

赤子ノ・筋・骨柔・弱ニ「而」物ヲ持(ル)コト堅ク固キコトハ・其ノ意專ニ「心」移ラ不(ル)ヲ以テナリ(也)」

未タ牝・牡ノ「之」合ヲ知(ラ)「未」・而モ峻作スルコトハ精ノ「之」至レルナリ(也)」

赤子・未タ男・女ノ「之」合會ヲ知(ラ)「未」・而モ隤作怒スルコトハ「者」・精・氣ノ多キ力「之」致ス所ニ由テナリ(也)」

終日二號平ヘトモ・「而」啞セ不ルコトハ・和ノ「之」至レルナリ(也)」

赤子・朝從(リ)暮ニ至ルマテニ・啼(キ)號ヘトモ・「而」声變易セ不ルコトハ「者」・和・氣ノ多キ力「之」致ス所ナリ

和ヲ知(ル)ヲ・常ト曰(フ)

人能(ク)和氣ノ「之」柔弱ニ「於」人ニ益有(ル)コトヲ知

知常日明⁴⁷

人能知道之常行則日以明達於玄妙也^{48 49 50}

益生日祥⁵¹

祥長也言益生欲自生日以長大^{52 53 54 55}

心使氣日強⁵⁶

心當專一為和柔而神氣實內故形柔而反使妄有所為和氣去於中故形躰日以強剛^{57 58 59 60 61 62 63}

物壯則老^{64 65}

万物壯極則枯老也^{66 67 68}

謂之大道

老不得道者也⁶⁹

不道早已

不得道者早已死也^{70 71 72 73}

(ル)トキハ「者」・道ノ之常ヲ知(ル)ト為「也」

常ヲ知(ルトキ)ハ日ニ明(ヲカ)ナリ

人能(ク)道ノ之常ヲ知テ行フトキハ「則」・日ニ以テ「於」

玄妙ニ明達ス「也」

生ヲ益(ス)トキハ日ニ祥ル

祥ハ「長」也。言ハ生ヲ益ノ自生トセン欲(スル)トキハ

日ニ以テ長大ナリ

心氣ヲ使フトキハ日ニ強シ

心當ニ專一ニシテ和柔ヲ為シ・而シテ神氣内ニ實(シ)・故ニ

形柔ナリ・而(ル)ヲ反テ妄リニ為(ル)所有(ラ)使(ムル)ト

キハ・和氣「於」中ヲ去上(ル)。故ニ形躰日ニ以テ強剛

ナリ

物壯リニシ「則」老(ス)

一万物壯ナルコト極テハ「則」枯老ス「也」

之ヲ不道ト謂(フ)

老(スル)コトハ道ヲ得不(レ)ハナリ「者也」

不道ナルトキハ「早く已」

道ヲ得不(ル)者ハ「早く已リ死(ヌ)「也」

校異

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(武内・東大・東洋)は「玄符章第五十五」に、(杏・慶・大東)は「含徳章第五十五」に、(筑波・弘文)は「含徳之厚章第五十五」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある即ち(東洋・東大)は「含徳之厚章」、(杏・慶・大東)は「玄符章」、(筑波)は「玄府章」と題し、(弘文)は「一本云玄符第五十五」との大字書入れがある、尚(梅沢)は「章題」玄字右旁に「十八」と、(無窮)は本章首行眉上に「十八」と下巻内章次數を記す。
- 2 (道蔵)「進」字に作る
- 3 (敦)は「者也」「二字無し」(東急・道蔵)は「也」、(宋版・世徳)は「者」字「字無し」
- 4 (武内・東大・東洋・杏・東急)は「之」字に、(活・活・陽・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・書陵・梅沢・六地)は「之於」「二字に作る、尚(東洋)は青筆で「之赤」字間に小圈を施し左旁に「於」字を加筆する、また(梅沢)は「之」字左旁に「一本无」と校異の書入れ有り
- 5 「若」字上、(活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・敦)「比」字有り
- 6 (梅沢・東急・敦)は「也」字無し、(筑波・弘文・慶・大東・足利・斯)は「者也」に、(東洋)は「也矣」の二字に作る、但(東洋)は「矣」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 7 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵)「之」字無し、(活・活・陽・書陵・武内・東大・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢)は「也」字無し、(無窮)は「之也」、(東洋)は「者也」に作る、但、(東洋)は「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 8 (東急・敦)「搏」字に作る
- 9 (活・武内・筑波・慶・東急)は「搏」字に、(活・陽・東大・東洋・杏・大東・弘文・足利・斯・無窮・書陵・梅沢・聖語・六地)は「搏」字に、(敦)は「搏」字に作る
- 10 (宋版)「鳥」字に作る
- 11 (道蔵)「亦」字無し
- 12 (宋版・世徳・敦・道蔵)「也」字無し
- 13 (活・活・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵)「無」字に作る

- 14 (宋版・世徳)「皆有」二字無し
- 15 (世徳)「之」字に作る
- 16 (活・活・陽・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・書陵・梅沢)「返」字に作る
- 17 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急)「也」字有り
- 18 (東洋)「筋」字に作り、左旁に「又作筋」と書入れ有り
- 19 (慶・大東・六地)「掘」字に作る
- 20 「而」字下、(無窮)「握」字有り
- 21 (慶・大東・梅沢)「特」字に作る
- 22 (宋版・世徳)「專」字無し
- 23 (心)字上、(道蔵)「而」字有り
- 24 (東急・敦)「也」字無し
- 25 (活・活・陽)は「骸」字に、(無窮・敦)は「骸」字に、(足利)は「骸」字に、(梅沢)は「骸」字に作る
- 26 (敦)「由」字無し
- 27 (敦)「由」字無し
- 28 (無窮・書陵・筑波)「之」字無し、但、(書陵)は「多所」字間の右旁に「之」字を加筆する
- 29 (敦・道蔵)「也」字無し
- 30 (弘文)「暗」字に作る
- 31 「而」字下、(道蔵)「嗑」字有り
- 32 (足利)は「嚙」字に、(武内・東大・東洋・杏・梅沢・敦・道蔵)は「嚙」字に作る、尚、(東洋)は青筆で「嚙」字左旁に見消ちを付し右旁に「唾」通反又作嚙」との書入れ有り
- 33 (敦・道蔵)「也」字無し
- 34 (弘文)「暮」字に誤る
- 35 (敦)「啼」字無し
- 36 (活・活・陽・書陵・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵)「而」字無し
- 37 (東急)「戀」字に作る
- 38 (斯)「之」字無し
- 39 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵)は「也」
- 40 (活・斯)は「也」の「一」字有り
- (書陵・弘文・足利)「日」字に作る、但、(書陵)は左旁に「日

イ)と、(東洋・東活)の「日」字左旁に「日」字との校異の書入れ(東洋)は青筆)がある。
 (筑波・慶)・大東・敦)「之」字無し
 (東急)「有」字無し
 (梅沢)「者」字無し
 44 「為」字上(敦)字無し
 杏・筑波、弘文・慶)・大東・足利・斯)・梅沢・東急・東大・東洋)・世徳・敦)・道蔵)「則」字有り
 (武内)「和」字に作る
 (敦)「也」字無し
 47 (宋版)・世徳)・道蔵)「日」字に作る、尚、(書陵)は左旁に「日」の校異、(東洋・東活)の「日」字左旁に「日才六越」との書入れ(東洋)は青筆)がある
 (大東)「知」字に作る
 (於玄妙也)、「敦)此の四字無し
 (道蔵)「也」字無し
 50 (書陵)は左旁に「日イ」の校異書入れ有り
 (道蔵)「道」字に作る
 53 「言」字、(世徳)は下「欲」字の上に有り
 54 (敦)「生」字無し
 55 (活)・(生)字無し
 波)・慶)・大東)・弘文)・足利)・斯)・梅沢)・東急)・道蔵)「也」字有り
 (無窮)・道蔵)「日」字に作る、尚、(書陵)は左旁に「日イ」と(東洋・東活)は左旁に「日才」との校異の書入れ(東洋)は青筆)有り
 (宋版)・世徳)・道蔵)「為」字無し
 (無窮)「氣」字に作る
 (宋版)・世徳)「神」字無し
 (和)字上(敦)字無し
 (東急)「實」に作る
 (強剛)・(無窮)・武内)・東大)・東洋)・杏)・筑波)・弘文)・慶)・大東)・足利)・斯)・梅沢)・東急)・宋版)・世徳)・道蔵)「剛強」に作る
 63 (活)・(活)・陽)・書陵)・無窮)・武内)・東大)・東洋)・杏)・筑波)・弘文)・慶)・大東)・足利)・斯)・梅沢)・東急)・宋版)・世徳)「也」字有り

64 (道蔵)は以下の経文三句及び其の注を次章「玄徳第五十六」冒頭に配す
 (宋版)「將」字に作る
 66 「万物壯極則枯老也、(道蔵)此の注文、次経文下に有り
 65 「壯」字下、(筑波)判読不能の一字有り、或いは「精」字か
 67 (敦)「也」字無し
 68 (敦)「也」字無し
 69 (宋版)・世徳)・敦)「は」者也、「一」字無し、(梅沢)・道蔵)は「者」字無し
 70 「早」字上、(足利)「則」字有り
 71 (東大)・東洋)・梅沢)・敦)「已」字無し、尚、(足利)は「已」字に見消ちを付し上方経文「已」字下旁余白に「亡」字を加筆する、尚、此の本、眉上に「已」字を標記する
 72 「已死」、(東急)は「死已」に作り、(道蔵)は「已死亡」三字に作る
 73 (敦)・道蔵)「也」字無し、(慶)・大東)「也矣」二字に作る
 訓読文補注
 1 「於ケルカ)、(杏)は「於ケルカ)、(東大)は「於ケルカ」と加点、今此の例に倣う。また、(東洋)は「於ル)、(弘文)は「於力」と加点し同訓である。尚、(武内)・筑波)・慶)は「於テスルカ)、(大東)は「於テスル)、(書陵)は「於するか)、(梅沢)・陽)・東活)は「於するか)、(無窮)は「於せるか)等の加点例がある。
 2 「扱マ)不)、(陽)・梅沢)・無窮)・杏)・筑波)・武内)・大東)・慶)・東洋)・弘文)・東大)は「扱マ不)、(書陵)・東活)は「扱マ不」と点読す
 3 「持ル)コト)、(梅沢)・陽)・書陵)・東大)・東活)が「持ル)こと)、(東大)は「持ル)」と加点、今これらに倣う。尚、(慶)・大東)は「持スル)」と音読する
 4 「自)生)ト)セン)欲)スル)ト)キハ)、訓義不通、移点の誤で「自)生)セント)欲)スル)ト)キハ)が本来か、尚、(梅沢)は「自)生)セント)欲)ス

5 「實(ツ)」、左旁訓「ミツ」は後筆力
ルトキハ、(慶)は「自生スルヲ欲スルハ」と加點

6 「已リ」、「ヲハリ」は後の加筆のことし

下26才5 玄徳第五十六

玄徳第五十六

知者不言

知(レル)者(ハ)言(ハ)不

知者貴行不貴言也

知レル者ハ・行去ヲ貴テ言ヲ貴(ヒ)不也

言者不知

言(フ)者(ハ)知(ラ)不

駟不及舌多言多患

駟モ舌二及ハ不(言多(キ)トキハ患多シ

塞其兌閉其門

其ノ兌ヲ塞イテ・其ノ門ヲ閉ツ

塞閉之者欲絶其源

之ヲ塞閉スルコトハ「者」・其ノ源ヲ絶(タ)マク欲(シ)テナ

挫其銳

其ノ銳キヲ挫ヘ

情欲有所銳為當念道无為以挫止之

情銳(ク)為(ル)所有(ラ)ント欲スルトキハ・當二道ノ无為

解其紛

其ノ紛リヲ解キ

紛結恨不休當念道恬怕以解釋也

紛ハ・恨ヲ結テ休セ不(ル)ソ・當二道ノ恬怕ヲ念テ・以テ

和其光

其ノ光ヲ和(ケ)

雖有独見之明當和之使闇昧不使曜乱人也³⁰

同其塵

不當自别殊也^{32 33 34 35}

是謂玄同

玄天也人能行此上事是謂与天同道也^{36 37 38}

不可得而親³⁹

不以榮譽為樂獨立為哀^{40 41 42}

亦不可得而踈⁴³

志靜無欲与人无怨也^{44 45 46 47 48}

不可得而利

身不欲富貴口不欲五味⁴⁹

亦不可得而害

不与貪争利不与勇争氣⁵⁰

不可得而貴⁵¹

不為乱世主不处暗君位^{52 53 54 55 56}

亦不可得而賤⁵⁷

不以乘權故驕不以失志故屈^{58 59 60}

独見ノ之明有(リ)ト雖(モ)・當二和(レ)之闇昧ナラ使(メ)テ・人ヲ曜乱セ使(メ)不(ル)當(シ)也

其ノ塵ヲ同ス

當二自(ラ)別入ニ殊ニス當(カ)ラ不(也)

是ヲ玄同ト謂(フ)

玄ハ・天(也)・人能(ク)此ノ上ノ事ヲ行(フ)・是ヲ天与同道

ヲ同クスト謂(フ)也

得テ而親(可)カラ不

榮・譽ヲ以テ樂入ト為・独(リ)立(ツ)ヲ哀ト為不

亦得テ而踈(シ)ス可(カラ)不

志靜ニ欲無(キ)トキハ・人(ト)与(ト)怨无(シ)也

得テ而利(可)カラ不

身・富・貴ヲ欲セ不・口・五味ヲ欲セ不(ル)ソ

亦得テ而害(可)カラ不

貪(ト)与(ト)利ヲ争ハ不・勇(ト)与(ト)氣ヲ争ハ不

得テ而貴(可)カラ不

乱世ノ主為(ラ)不・暗君ノ位ニ处(ラ)不

亦得テ而賤(可)カラ不

權二乘(レ)ルヲ以テノ故二驕ラ不・志ヲ失(ヘ)ルヲ以テノ故

故為天下賈

其德如此天子不得臣諸侯不屈與世沈浮容身避害
故為天下賈也^{64 65 66}

故三天下ノ賈為(リ)

其ノ德此ノ如(キ)トキハ・天子モ臣トスルコトヲ得不・
諸侯モ・屈セ不・世与沈浮ソ・身ヲ容(レ)テ害(避ル)・故
二天下ノ賈為(リ)也⁶⁷

校異

- 1 (足利・無窮・書陵・斯・東急・六地・陽・敦)は章題無し、(武内・東大・東洋)は「玄徳章第五十六」に、(杏・慶・大東)は「知者章第五十六」に、(筑波)は「知者不言章第五十六」に(弘文)は「知者不言章第五十六」に作る、また本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(東洋・東大)は「知者不言章、(筑波・杏・慶・大東)は「玄徳章、と題し、(弘文)は「一本云玄徳第五十六」との大字書入れがある、尚(梅沢)は章題「玄」字右旁に「十九」と、(無窮)は本章首行眉上に「十九」と下巻内章次数を記す
- 2 「貴」字下(道蔵)「於」字有り
- 3 「行」字下(道蔵)「道」字有り
- 4 「貴」字下(道蔵)「於」字有り
- 5 「敦」字下(道蔵)「世」字無し
- 6 「馳不及舌多言多患、(道蔵)は「多言多患馳不及舌」に作る
- 7 「不」字下(敦)「不」一字衍
- 8 (活・活・無窮・武内・東大・杏・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢)「也」字有り、但(慶・大東)は「患」字下字間余白に書写、或いは後の加筆か、(東洋)は「之也」二字有り
- 9 (宋版)は「門」字に「世徳」は「閑」字に誤る
- 10 (弘文)「者」字無し
- 11 (筑波)「施」字に誤る
- 12 (東急)「厚」字に誤る
- 13 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・慶・大東・筑波・弘文・足利・斯・梅沢)「也」字有り、(東洋)は「者」

- 14 也二字が有り「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 15 (活)字下、(道蔵)「者」字有り
- 16 (梅沢)「之」字無し(活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・東急・世徳)は之也二字に作る
- 17 (活)活・陽・陽・書陵・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯字左旁に「牙紛」の校異書入れ有り
- 18 (活)活・陽・陽・書陵・筑波・慶・大東・斯・梅沢・東急)は「忿」字に、(敦)は「言」字に作る
- 19 (足利)「根」字に作る
- 20 (陽)「根」字に作る、「休」字下、(活・活・道蔵)「也」字有り
- 21 「道」字下、(道蔵)「之」字有り
- 22 (活)「恬」字に、(道蔵)は「淡薄」に作る
- 23 (解)「恬」字に、(宋版)「世徳」は「無患」に、(道蔵)に作る
- 24 (道蔵)「也」字無し、(武内)東急・宋版・世徳・敦)は「之」字に、(活)活・陽・陽・無窮・書陵・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢)は「之也」二字に作る
- 25 (弘文)「知」字に誤る
- 26 (筑波)「弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢)「暗」字に作る
- 27 (大東)「未」字に作る
- 28 (使)字下、(無窮・武内・東大・杏・梅沢・東洋・東急)「以

字有り、但、(東洋)は左傍に青筆で見消ちを付す
 29 「囉乱」(世徳)「囉眩」に作る
 30 「宋版・世徳・道蔵」に作る
 31 「宋版・世徳・敦・道蔵」也、字無し、(東洋)は「者也」、
 「梅沢」は「之也」二字に作る、但、(東洋)は「者」字左傍に青筆
 で見消ちを付す
 32 「自別」(弘文)「別自」に作る
 33 「梅沢」引字に作る
 34 「別殊」(道蔵)「殊別」に作る
 35 「敦」也、字無し
 36 「足利」引字に作り、見消ちを付して下傍に「同」字を加筆
 37 「東急」通字に作る
 38 「敦・道蔵」也、字無し
 39 「不」字上、(活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・
 杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・六地・東急・
 宋版・世徳・敦・道蔵)「故」字有り
 40 「樂」字下、(活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・
 杏・筑波・弘文・慶・大東・斯・足利・梅沢)「以」字有り
 41 「独立為哀」(道蔵)「同立而哀」に作る、「独」(弘文)は「極」
 字に作る
 42 「活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑
 波・弘文・慶・大東・斯・東急)は「也」字有り、(梅沢)は
 「之也」二字有り
 43 「活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑
 波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東急・道蔵)「疏」字
 に作る
 44 「陽・武内・東大・東洋・杏・慶・大東・足利・梅沢・敦
)は「无」字に作る
 45 「書陵」慾字に作る、(宋版・世徳)は「故」字に誤る
 46 「活・活・無窮・書陵・大東・弘文・足利・斯・梅沢・東
 急・宋版・世徳・道蔵)「無」字に作る
 47 「筑波」死字に作る
 48 「東急・宋版・世徳・道蔵・敦)「也」字無し、(東洋)は「之
 也」二字に作り、「之」字左傍に青筆で見消ちを付す
 49 「活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑
 波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢)は「也」字有り
 50 「活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・筑波・弘

文・斯・梅沢)「也」字有り、尚、(東洋)は「氣」字下余白に青
 筆で「也」字を加筆する
 51 「不」字上、(敦)「亦」字有り、尚、(無窮)は字間に小圈を施
 し右傍に「亦イ」と校異の書入れが有り、(六地)は左傍に「亦」
 字を加筆する
 52 「活・無窮)「事」字に作る
 53 「聖語」所字に作る
 54 「活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・筑波・慶
 ・大東・弘文・足利・斯・東洋・梅沢・東急・敦・道蔵)
 「聞」字に作る
 55 「君」字下、(東洋)「之」字有り、但、左傍に青筆で見消ちを付
 す
 56 「活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・筑波・慶
 ・大東・弘文・足利・斯・東洋・梅沢)「也」字有り
 57 「活・活・陽・書陵・六地)「亦」字無し、(梅沢)は「又」
 字に作る
 58 「道蔵)「而」字に作る
 59 「道蔵)「為」字に作る
 60 「活・活・陽・無窮・書陵・東大・杏・筑波・慶・大
 東・弘文・足利・斯)は「也」字、(東洋・梅沢)は「之也」二
 字有り、但、(東洋)は「之」字左傍に青筆で見消ちを付す
 61 「不」字下、(活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・
 杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・宋版・
 世徳・敦・道蔵)「得」字有り
 62 「書陵)「流」字に作る
 63 「沈浮」(道蔵)「浮沈」に作る
 64 「活・活・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・
 弘文・足利・斯・梅沢)「為」字無し
 65 「下」字下、(道蔵)「之」字有り
 66 「敦・道蔵)「也」字無し
 訓読文補注
 1 「二」も「ヨ」を送る、末画を擦り消して「二」に改める
 2 「乘(レル)」、(筑波)は「乗スル」と訓む、(東大・慶・大東・
 杏)は「乘ル」、(陽・無窮・書陵・武内・東洋・梅沢・東活)
 は「乘レル」或いは「乘レル」と加点点、これに倣う

3 「失(ヘル)ヲ、点本の多くは訓点を省く、但、(大東)が「失ルヲ」、(慶)が「失ヘルヲ」と加點、これに倣う
4 「害ニ避ル」、加點の省略はあるが(陽・無窮・書陵・梅沢・斯

・筑波・東活)は「害ヲ避ル」、(慶・大東)は「害ヲ避クル」、(武内・東大・杏・東洋)は「害ヲ避ク」と訓む、本点の如きは他に例を見ない。

下27ウ3 淳風第五十七

以正之國²³

之至也天使正身之人使至有國也⁴⁵⁶⁷

以奇用兵

奇詐也天使詐偽之人用兵之也⁸⁹¹⁰¹¹

以無事取天下¹²

以無事¹³無¹⁴為¹⁵之人使取天下為之主¹⁶¹⁷

吾何以知其然哉以此¹⁸¹⁹²⁰

此今也老子言我何以知天意哉以今日所見知²¹²²²³²⁴

天下多忌諱而民彌貧²⁵

天下謂人主也忌諱者防禁也令煩則奸生禁多則下

淳風第五十七

正¹ヲ以テ國ニ²ラシム³

之ハ・至⁴也。天身ヲ正(シ)ウスル⁵之人ヲ⁶ノ(使)國ヲ有⁷ツ

ニ至⁸ラ⁹使¹⁰ム也

奇¹¹リヲ以テ兵ヲ用(ヅ)ル

奇ハ・詐¹²也。天詐(偽)ノ¹³之人ヲ¹⁴ノ(使)・兵ヲ用(ヅ)使¹⁵

ム¹⁶之也

無¹⁷事ヲ以テ・天¹⁸下ヲ取(ラ)シム¹⁹

無事無²⁰為²¹ノ²²之人ヲ以テ天²³下ヲ取テ之(カ)主²⁴為²⁵(ラ)使²⁶ム

吾²⁷・何²⁸ヲ以テカ²⁹・其³⁰ノ然ルコトヲ知(ル)哉³¹此³²ヲ以テ³³因³⁴

此ハ・今³⁵也。老子ノ言³⁶・我³⁷・何³⁸ヲ以テカ³⁹・天⁴⁰意ヲ知(ル)哉⁴¹今⁴²日ノ見(ル)所ヲ以テ知(ル)

天⁴³下ニ忌諱多クシテ・而⁴⁴民彌⁴⁵貧シ

天⁴⁶下ト云ハ・人⁴⁷主ヲ謂(フ)也。忌諱ト云ハ⁴⁸者⁴⁹・防⁵⁰禁

天⁵¹下ト云ハ・人⁵²主ヲ謂(フ)也。忌諱ト云ハ⁵³者⁵⁴・防⁵⁵禁

詐相殆故貧²⁶
²⁷
²⁸
²⁹

民多利器國家滋昏³⁰

利器者權也民多權則視者眩於目聽者惑於耳上下
不親故國家昏亂³³
³⁴
³⁵

人多伎巧奇物滋起³⁶

人謂人君百里諸侯也多伎巧刻畫宮觀琢章服奇
物滋起下則化上飾金鏤玉文繡綵色日以滋起⁴⁵
⁴⁶
⁴⁷
⁴⁸
⁴⁹
⁵⁰
⁵¹

法物滋彰盜賊多有

法物好物也珍好之物滋生彰著則農事廢飢寒並至
故盜賊多有也⁵²
⁵³
⁵⁴
⁵⁵
⁵⁶

故聖人云

我無為而民自化⁶⁰
⁵⁸
⁵⁹

聖人言我修道承天无所改作而民自化成也⁶¹
⁶²
⁶³
⁶⁴

ソ「也」。令、煩シトキハ「則」奸、生（ル）・禁、多キトキハ・
「則」下、詐ル・相、殆ノ故ニ貧シ^{イダツカス}
^{アヤウ}

民利器多（ク）ノ・國家・滋、昏シ

利器ハ「者」・權ナリ「也」。民權多キトキハ・「則」視（ル）
者・「於」目ニ眩キ・聽（ク）者ハ・「於」耳ニ惑フ・上下親セ
不・故ニ國・家昏・乱ス

人伎、巧多キトキハ・奇、物滋、起ル

人ト云ハ人・君・百里ノ諸侯ヲ謂（フ）「也」。伎、巧多（シ）ト
云ハ・宮・觀、去ヲ刻ミ、畫キ・章、服ヲ彫、琢ス・奇、物滋、起
（ルト云ハ）・下「則」上ニ化ソ・金ヲ飾リ玉ヲ鏤ル・文、繡、綵、
色・日ニ以テ滋ク、起ル

法、物滋、彰レテ・盜、賊多ク有（リ）

法、物ハ・好、物「也」。珍、好ノ「之」物・滋、生（リ）テ彰（レ）
著去ル、トキハ「則」農、事廢レテ・飢、寒並ニ至ル。故ニ
盜、賊多ク有（リ）「也」

故ニ聖、人ノ云（ク）

我無、為ニソ・「而」民自（スカラ）化ス
下ノ事ヲ謂（フ）「也」

聖、人ノ言（ク）・我道ヲ修メ天ニ承（ケ）テ・改メ作（ス）所无

我好静而民自正

聖人言我好清静不言不教民皆自忠正也

我無事而民自富

我無徑役徵召之事使民安其業故皆自富

我無欲而民自朴

我無欲去華文微服飾民則隨我為質朴也

(ク)ソ・「而」民自(スカラ)化・成ス(也)

我静ヲ好去テ「而」民自(スカラ)正シ

聖人ノ言(ク)・我清静ヲ好去テ・言(ハ)不教ヘ不トモ・民皆自(スカラ)忠正ナリ(也)

我無事ニソ・「而」民自(スカラ)富ム

我徑・役徵・召ノ之事无(ク)ソ民ヲソ(使)其ノ業ヲ安セ「使」

ム・故ニ皆自(スカラ)富(ム)

我無欲ニソ・「而」民自(スカラ)朴ナリ

我常ニ无欲ニソ・華文ヲ去リ・服飾ヲ微ウスルトキハ・

民(則)我ニ隨テ質朴入ヲ為(也)

校異

1

(無窮・書陵・斯・足利・六地・東急・敦)は章題無し、(梅沢)は「涼風第五十七」に(武内・東大)は「淳風章第五十七」に(東洋)は「淳朴章第五十七」に(杏・慶・大東)は「以正章第五十七」に(筑波・弘文)は「以正之國章」に(東洋)は「淳風章」と題し、(弘文)は「本云淳風第五十七」との大字書入れがある、尚(梅沢)は章題「涼」字右旁に「二十一」と(無窮)は本章首行眉上に「廿」と下巻内章次数を記す(宋版・世徳・道感)「治」字に作る(弘文)「之」字有り(宋版・世徳・道感)「以」字に作る(弘文)「之」字無し

6 (活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・東洋・梅沢)「使」字無し

7 (敦)「也」字無し、(東洋)は「也矣」二字に作る、但、「矣」字左旁に青筆で見消しを付す

8 (宋版・世徳)「爲」字に作る

9 「用上」(陽・無窮・東急・宋版・世徳・道感)は「使」字(書陵)は「必」字(敦)は「令」字が有る、尚(東洋(書・東活)は「人用」字間に小圈を施し左旁に「使」字を加筆する

10 (活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道感・敦)「之」字無し

11 (敦)「也」字無し、尚(東洋(書・東活)は「也」字左旁に「中无」の書入れ有り

12 (東大・慶・大東・梅沢・六地)「无」字に作る

13 (活・陽・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯・梅

13 沢・東急・宋版・世徳・道蔵「無」字に作る
 14 (活・活) 無窮・書陵・筑波・弘文・足利・慶・大東・梅
 沢・東急・宋版・世徳・道蔵「無」字に作る
 15 (慶・大東)「意」字に作る
 16 (使取)「東大」取使」に作る
 17 (活・活) 無窮・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯
 (梅沢)「也」有り
 18 (其)「道蔵」天下之」三字に作る
 19 (梅沢・東急)「哉」字無し
 20 「以此」(東洋)書・東活」は左旁に「二字才无」の校異書入れ
 有り
 21 (道蔵)「我」字無し
 22 「意」字下、(東洋)杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・
 宋版・世徳・道蔵「然」字有り、但、(東洋)は「然」字左旁に青
 筆で見消ちを付す
 23 (東急)「哉」字無し
 24 (活・活) 陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑
 波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・道蔵」は「之也」一字
 (敦)は「之」字、(東急)は「也」字有り
 25 (足利・六地)「眞」字に作る
 26 (東洋)筑波」は「給」字、(敦)は「紹」字に作る、尚、(東
 洋)地脚に「給与詒同」の書入れあり
 27 (故)字下、(書陵・武内・慶・大東・弘文・足利・斯)「多」
 字有り、但、(足利)は「多」右旁に見消ちを付す
 28 (聖語、筑波)は「倉」字に作る
 29 (東急)は「之也」二字、(活・活) 陽・無窮・書陵・杏・
 武内・慶・大東・筑波・弘文・足利・斯・東大・東洋・梅沢・
 治要)は「也」字有り
 30 (民)「東洋・東活」は左旁に「人才」の校異書入れ、(東洋)は
 青筆)有り
 31 (弘文)「听」字に作る
 32 (敦)「或」字に作る
 33 (無窮)「觀」字に作る
 34 (唇)字下、(敦)「親」字有り
 35 (活・活) 陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・筑波・慶
 ・大東・弘文・足利・斯・治要)は「也」字、(梅沢)は「之
 也」二字、(東洋)は「者也」二字有り、但、(東洋)は「者」字左

旁に青筆で見消ちを付す
 36 (活・活) 陽・敦・道蔵「技」字に作る
 37 (百里諸侯)「治要」此の四字無し
 38 「多」字下、(宋版)世徳・敦・治要)は「知」字、(道蔵)は
 「招」字有り
 39 (活・活) 陽・敦・道蔵「技」字に作る
 40 (刻)字上、(宋版)世徳・道蔵「謂」字有り
 41 (武内)東大・東洋・杏・道蔵・治要)「雕」字に作る、尚、
 (書陵)は「彫」字右旁に「才作雕」と、(東活)は同字右旁に「本
 作雕」と、(東洋)は青筆で「雕」字左旁に見消ちを付し、地脚に
 「彫本作雕」と校異の書入れが有る
 42 (梅沢)は「珠」、(無窮・東急)は「珠」字に作る
 43 (章服)「宋版・世徳」(服章)に作る
 44 (奇物滋起)「治要」此の四字無し
 45 (飾金鑲玉文繡綠色)「治要」此の八字無し
 46 (書陵)は「鏤」字に、(東急・世徳)は「綉」字に作る
 47 (道蔵)「采」字に作る
 48 (日)字下、(無窮)杏・東大・東洋・梅沢)「已」字有り、但、
 (東洋)は青筆で旁に見消ちを付す
 49 (宋版)世徳・道蔵)「甚」字に作る
 50 (活・活) 陽・書陵・杏・武内・筑波・大東・東大・東
 洋・梅沢・東急・道蔵・治要)は「也」一字、(無窮・慶・弘文・
 足利・斯)は「之也」二字有り
 52 (活・活) 陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑
 波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・治要)「物」字
 無し
 53 (活・活) 陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑
 波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・治要)「物」字
 無し
 54 (著)字下、(東急)重ねて「著」字有り
 55 (道蔵)「近」字に作る
 56 (敦)「道蔵・治要)「也」字無し、(書陵)は「者也」、(東洋)
 は「之也」二字に作る、但、(東洋)は青筆で「之」字左旁に見消
 ちを付し、右旁に「者」字を加筆する
 57 (治要)此の終文「故聖人云 四字及び注文「謂下事也」四字無
 し

79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67 66 65 64 63 62 61 60 59 58

(道蔵) 此の注文「謂下事也」四字無し
 (陽) 東大・慶・六地・敦・治要「无」字に作る
 (敦)「也」字無し
 (聖人言我修道承天、(治要)此の注文八字無し)
 (活)活・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・道蔵・世徳「無」字に作る
 (改作)「世徳」「作爲」に作る
 (敦)杏・梅沢「は」之也「字」に作る
 (好清静)「治要」此の三字無し
 (道蔵)「安」字に作る、(活)活・陽・書陵・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・東急・宋版・世徳・敦「は」清字無し、尚(東洋)は青筆で「清」字左旁に見消ちを付す
 (杏)「自」字無し
 (敦)「は」也「字」無し、(陽)書陵「は」之也、(東洋)は「者也」に作る、但(東洋)は青筆で「者」字左旁に見消ちを付し右旁に「之」字を加筆する
 (陽)東大・慶・六地・敦・治要「无」字に作る
 (陽)「爲」字に作る
 (道蔵)「我」字無し
 (活)活・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵「無」字に作る
 (東洋)東急「は」儒「字」に作る
 (無窮)「促」字に誤る
 (徵召之事使民安其業、(治要)此の九字無し、「徵」字(世徳)は「征」字に、(慶)東急「は」徵「字」に作る
 (大東)宋版・世徳・敦・道蔵「使」字無し
 (斯)大東「民」字無し
 (活)活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑

訓読文補注

波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・道蔵「也」字有り
 (陽)東大・六地・敦・治要「无」字に作る
 (道蔵)「は」樸「字」に作る、尚、(東洋)東活「は」朴「字」左旁に「樸才」の校異書入れ(東洋)は青筆有り
 (常无欲、(治要)此の三字無し)
 (活)活・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵「無」字に作る
 (欲)「字」下、(敦)「心」字有り
 (文微服、(世徳)此の三字無し)
 (微服飾、(治要)此の三字無し)
 (東洋)東急「飾」字無し、但、(東洋)は青筆で「服民」字間余白に小圈を施し右旁に「飭」字を加筆する
 (道蔵)「為」字無し
 (質)「字」上、(宋版)世徳「多」字有り
 (治要)「は」撰「字」に作る
 (東洋)敦・道蔵・治要「也」字無し、但、(東洋)は「朴」字下に「也」字を加筆する
 (道蔵)は経文「我無情而民自清」七字及び其の注文「聖人言我修道真絶去六情而民隨我而清」十七字有り

1 「取ラシム」、(梅沢・東急)は「取ラシム」、(慶)は「取ラシム」と加点、今これに倣う。尚、(陽)書陵・弘文・東活)は「取シム」と加点、(杏)武内・東大)は「取メシム」、(東急)大東別訓・慶)別訓)は「取ム」と訓む

其政悶く

其政教寛大悶く昧く似若不明也

其民醇く

政教寛大故民醇醇富厚相親睦也

其政察く

其政教急疾言沢於口聽沢於耳也

其民缺く

政教急疾民不聊生故缺く日以踈薄

禍兮福之所倚

倚因也夫禍因福而生人遭禍而能悔過責已修善行道則禍去而福来

福兮禍之所伏

禍伏匿於福中人得福而為驕恣則福去而禍来

其ノ政悶・々タルトキハ

其ノ政教寛・大ニシテ・悶々昧々タルコト明(ラカ)ナラズ
(ル)カ若キニ似(ル)ソニ也

其ノ民醇・々タリ

政・教寛・大ナリ・故ニ民醇・醇トシテ富厚ニシテ・相親・睦ス
一也

其ノ政察・々タルトキハ

其ノ政教急・疾ナレハ・言ハ・「於」口ニ決シ・聽ハ・「於」
耳ニ決スニ也

其ノ民缺・々タリ

政・教急・疾(ナル)トキハ・民生ヲ聊ンセズ・故ニ缺・々トシ
テ日ニ以テ踈・薄ナリ

禍ハ「兮」・福ノ「之」倚ル所

倚ハ「因」也。夫(レ)・禍ハ福ニ因テ「而」生(ル)・人禍ニ遭
テ「而」能(ク)過去ヲ悔ヒ己ヲ責(メ)テ善ヲ修メ道ヲ行

(フ)トキハ「則」禍去テ「而」福来ル

福ハ「兮」・禍ノ「之」伏ス所

禍・「於」福ノ中ニ伏シ(匿ル)人福ヲ得テ「而」驕リ恣ナ
ルコトヲ為(ル)トキハ・「則」福去テ「而」禍来ル

孰知其極

禍福更相生⁴¹无能知其窮極⁴²時⁴³

其無正⁴⁶

无不也⁴⁸謂人君不正其身其无國也⁴⁹

正復為奇

奇詐也人君不正下雖正復化上為詐也⁵²

善復為妖

善人皆復化正為妖祥也⁵⁶

人之迷其日固久⁶²

言人君迷惑失正以來其日固久⁶⁶

是以聖人方而不割⁷²

聖人行方正者欲以卒下不以割截人也⁷³

廉而不害

聖人廉清欲以化民不以傷害人也今則不然正已以⁷⁴

孰レカ其ノ極ヲ知(リ)ン

禍福更ル(ル)相(生)ル(ル)能(ク)其ノ窮リ極ル時ヲ知(ル)

コト无(シ)

其(ノ)正(シ)クセ無ルトキハ

无ハ・不(也)人君其ノ身ヲ正(シ)クセ不(ル)トキハ其ノ

國アラ无ルヲ謂(フ)也

正モ復去(イ)奇ヲ為

奇ハ・詐(也)人君正(シ)カラ不(ル)トキハ・下正シト雖

(モ)復去(上)化(補注)ヲ詐ヲ為(也)

善モ復去(イ)妖ヲ為

善・人モ・皆復去化シ・正モ妖・祥(ヲ)為(也)

人(ノ)之迷ヘルコト・其ノ日固ニ久シ

言ハ人君迷(ヒ)惑テ・正ヲ失フテヨリ以(テ)來其ノ日固ニ

久シ

是(ヲ)以テ聖人ハ・方ニ(而)割セ不

聖人ノ・方・正ヲ行(フ)コトハ(者)・以テ下ヲ卒(ト)テ・以テ

人ヲ割・截セ不(ラ)ンコトヲ欲(ス)也

廉ニ(而)害セ不

聖人ハ廉・清ニ(而)・以テ民ヲ化シ・以テ人ヲ傷・害セ不(ラ)

割人清已以害人也⁷⁹
割人清已以害人也⁸⁰
割人清已以害人也⁸¹

宣而不肆⁸²

肆申也聖人雖直曲已從人不自申之也⁸³
肆申也聖人雖直曲已從人不自申之也⁸⁴
肆申也聖人雖直曲已從人不自申之也⁸⁵

光而不曜⁸⁶

聖人雖有独知之明常如闇昧不以曜乱人也⁸⁷
聖人雖有独知之明常如闇昧不以曜乱人也⁸⁸
聖人雖有独知之明常如闇昧不以曜乱人也⁸⁹
聖人雖有独知之明常如闇昧不以曜乱人也⁹⁰
聖人雖有独知之明常如闇昧不以曜乱人也⁹¹
聖人雖有独知之明常如闇昧不以曜乱人也⁹²

校異

- 1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(梅沢)は「順化第五十八」に作る、(武内・東大・東洋)は「順化第五十八」に、(杏・慶・大東)は「其政章第五十八」に、(弘文・筑波)は「其政閣々章第五十八」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち(東洋・東大)は「其政閣々章」、(筑波・杏・慶・大東)は「順化章」と題し、(弘文)は「一本云順化第五十八」との大字書入れがある、尚、(梅沢)は章題「順」字右旁に「二十一」と、(無窮)は本章首行眉上に「廿」と下巻内章次数を記す
- 2 (道蔵)「教」字無し
- 3 (道蔵)「弘」字に作る
- 4 (筑波)「時」字に誤る
- 5 (敦)「道蔵」に「也」字無し
- 6 (梅沢)「淳」字に作る
- 7 (道蔵)「弘」字に作る
- 8 (道蔵)「淳」字に作る
- 9 (醇醇)「梅沢」に作る
- 10 (世徳)「貴」字に作る
- 11 (敦)「也」字無し

ンコトヲ欲ス也。今ハ「則然アラ不・己ヲ正ト」以テ人ヲ割リ・己ヲ清トシテ・以テ人ヲ害ス也」

直ニシテ「肆」ヒ不

肆ハ・申「也」。聖人ハ直ナリト雖(モ)・己ヲ曲ケテ人ニ從(フテ)・自(ラ)申(ヒ)不「之也」

光リテ「曜」セ不
ヒカリアレドモ
カヘヤカ

聖人ハ・独「知」ノ「之明有(リ)ト雖(モ)・常ニ闇昧ノ如シテ以テ人ヲ曜・乱セ不「也」

- 11 (武内・弘文・東大・東洋・足利・斯・梅沢・東急)「教」字無し、但、(東洋)は青筆で「政急」字間に小圈を施し右旁に「教」字を加筆する
- 12 「急疾、(道蔵)「疾隱」に作る
- 13 「於」字下、(無窮)重ねて「於」字有り、衍
- 14 (弘文)「听」字に作る
- 15 (敦)「断」字に作る
- 16 (武内・東洋・東急・敦)「治要」「也」字無し、但、(東洋)は青筆で「耳」字下に小圈を施し下旁に「也」字を加筆する
- 17 (無窮・東洋・弘文・足利・梅沢・宋版・世徳・治要)「缺」字に作る
- 18 (政教急疾、(治要)此の四字無し)
- 19 (道蔵)「煩」字に作る
- 20 (東洋・東急・宋版・世徳・敦)「疾」字無し、但、(東洋)は青筆で「急民」字間に小圈を施し右旁に「疾」字を加筆する
- 21 (敦)「无」字に作る
- 22 (東洋・足利・無窮・梅沢・宋版・世徳・治要)「缺」字に作る
- 23 (活・活・陽・書陵・武内・東大・杏・筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・東洋・梅沢・東急・敦・道蔵・治要)

47 46 「疏」字に作る
 (陽・東大・大東・六地・敦)「无」字に作る
 (無窮・梅沢・東急)「耶」字有り
 45 44 43 「也」字有り
 (活・活・時)字無し
 (道蔵)「活」字無し
 (活)・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・道蔵・治要
 42 41 「極」字下(筑波・大東)「之」字有り
 (道蔵)「无」字無し(無窮・梅沢・東急)は「無」字に作る、
 弘文・慶・大東・足利・斯・宋版・世徳)は「誰」に、(東大)
 は「誰无」に、(東洋)は「誰無」に作る、但(東洋)は青筆で
 「無」字左旁に見消ちを付す
 40 39 38 37 「人」字下(杏)「而」字有り
 (大東)「禍」字に誤る
 (梅沢・東急・宋版・世徳・敦・道蔵・治要)「而」字無し
 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑
 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 「人」字下(杏)「而」字有り
 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 (敦)「福」字に作る
 (梅沢・東急・敦・道蔵・治要)「而」字無し
 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・筑波・弘
 25 「也」二字有り、但(東洋)は「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 (筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢)は「平」字に作
 24 「也」二字有り、但(東洋)は「也」字、(東洋)は「者」
 文・慶・大東・足利・斯・梅沢)は「也」字、(東洋)は「者」
 也」二字有り、但(東洋)は「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 (筑波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢)は「平」字に作
 23 「也」字無し
 (治要)「也」字無し
 (無窮・慶・敦・治要)「福」字に作る
 (無窮・慶・敦・治要)「禍」字に作る
 (宋版)「天」字に誤る
 (遣)字上(敦)「能」字有り
 (敦)「而能」二字無し
 (道蔵)「能」字無し
 (東洋)は青筆で左旁に見消ちを付し右旁に「情」字を加筆する
 (敦)「福」字に作る
 (梅沢・東急・敦・道蔵・治要)「而」字無し
 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・筑波・弘

48 (活)・活・無窮・書陵・筑波・大東・足利・斯・梅沢・東
 急・世徳・道蔵)「無」字に作る
 49 (無窮)「夫」字に作る
 50 (活)・活・書陵・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東急・世
 徳・敦・道蔵)「無」字に作る
 51 (道蔵)「正」字に作る
 52 (道蔵)「下」字無し
 53 (道蔵)「下」字に作る
 54 (敦)「道蔵)「也」字無し
 55 (東急・宋版・世徳・敦・道蔵)は「詠」字に、(弘文・斯)
 56 是「被」字に(足利)は「稜」字に作る
 (東急)「背」字に作る
 57 (化)字下(梅沢)「媛」字有り
 58 波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・敦
 59 (慶)・斯・足利)は「稜」字、(弘文)は「被」字、(東急・
 宋版・世徳・敦・道蔵)は「詠」字に作る
 60 (東大)「也」字無し
 61 (世徳)「民」字に作る、尚、(東洋)は「人」字右旁に青筆で
 「民才」と、(東活)左旁にも同じく「民才」と校異の書入れ有り
 62 (世徳)「固」字に作る
 63 (日固)「道蔵)「固日」に作る
 64 (活)・活・陽・無窮・書陵・筑波・慶・大東・足利・斯
 65 (六地)「矣」字有り
 66 (敦)「或」字に作る
 67 (陽)「矢」字に作る
 68 (敦)「正」字無し
 69 (日)字下、(宋版・世徳)は「巳」字有り
 70 (固)字下、(東急)「以」字有り
 71 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑
 72 波・弘文・慶・大東・足利・斯・梅沢・東急)「也」字有り
 73 (敦)「人」字無し
 74 (聖人、(敦)「也」字無し
 75 (梅沢)「復」字に作る

76 (敦)「也」字無し
 77 「正巳以割人」(敦)此の五字無し
 78 「以割人清巳」(宋版・世徳・道蔵)此の五字無し
 79 (東洋)は青筆で右旁に、(東活)は左旁に「害」本と校異書入
 れ有り
 80 「清巳以、(東急)此の三字無し
 81 (東洋・敦)「也」字無し、但、(東洋)は「人」字下字間に青
 筆で「也」を加筆
 82 (筑波)「真」字に作る
 83 (筑波)「真」字に作る
 84 (己)字下「杏」以「字有り
 85 (活)活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑
 波・弘文・足利・斯・梅沢・道蔵は「之」字無し、(慶
 大東・東急・敦)は「之世」二字無し
 86 (道蔵)「耀」字に作る、尚、(東洋・東活)は左旁に「耀才」の
 校異書入れ(東洋)は青筆有り
 87 (無窮・東急・道蔵)「見」字に作る、尚、(書陵)は左旁に「見
 中本」と、(東洋)は青筆で右旁に、(東活)は左旁に「見中」と校
 異書入れ有り
 88 (筑波・慶・大東・足利・斯・梅沢・世徳・道蔵)「暗」字に
 作る
 89 (杏)「味」字に誤る
 90 (道蔵)「耀」字に作る

下31才1 守道第五十九

治人

謂人君欲治理人民²

事天

事用也當用天道順四時³

92 91 (世徳)「眩」字に作る
 (敦・道蔵)「也」字無し

訓読文補注

1 「似ル」ソ、(治要・梅沢・東大)は「似タリ」、(書陵・東活)
 は「似タリ」、(無窮)は「似レリ」、(武内)は「似レリ」、(慶
 大東・筑波)は「似リ」と加點
 2 「口ニ」、もと「口ヲ」、「ヲ」を墨線で消し「ニ」に訂正
 3 「耳ニ」、もと「耳ヲ」、「ヲ」を墨線で消し「ニ」に訂正
 4 「生ル」、(治要・梅沢・武内・斯・慶・東活)は「ナル」
 と加點、(陽・書陵・大東・弘文)は「ル」或いは「る」を送る。
 今、これら点本に従う、尚、(杏・東洋・東大)は「生ス」と音
 読する
 5 「上ニ」、もと「上ヲ」、「ヲ」を墨線で消し「ニ」に訂正
 6 「如シテ」、(書陵・東活)は「如にして」、(東洋・東大・慶
 大東・杏・筑波)は「如ニソ」、(梅沢)は「如クソ」と加點

守道第五十九

人ヲ治メ

人君ノ・人民ヲ治理セマク欲スルヲ謂フ

天ヲ事^事井^井ル

事ハ・用也。當ニ天・道ヲ用(井)テ四時ニ順フ、當(シ)

莫若嗇⁴

嗇⁵貪也。治國者當愛民財。不為奢泰。治身者當愛精氣。不為放逸。¹³

夫唯嗇是謂早服¹⁴

早先也。服得也。夫獨愛民財。愛精氣。則能先得天道也。²¹

早服謂之重積德²²

先得天道是謂重積德於己也。²³

重積德則無不剋²⁴

剋勝也。重積德於己。則無不勝。³⁰

無不剋則莫知其極³¹

無不剋勝。則莫有知己德之窮極也。³⁷

莫知其極可以有國³⁸

莫知己德有極。則可以有社稷為民致福。³⁹

嗇^オムニ若クハ莫(シ)

嗇(ハ)・貪(也)。國ヲ治(ム)ル者ハ・當ニ民ノ財ヲ愛(シ)テ奢泰ヲ為(不)ル。當(シ)。(身ヲ治(ム)ル者ハ・當ニ精氣ヲ愛(シ)テ放逸ヲ為(不)ル)當(シ)

夫唯嗇^{ヒトリム}レリ・是ヲ早^マツ服^ウト謂(フ)

早ハ・先(也)。服ハ・得(也)。夫平獨(リ)民ノ財ヲ愛(シ)・精氣ヲ愛(スル)トキハ・「則」能(ク)先(ツ)天道ヲ得(也)。

早(ツ)服^ウル・之ヲ重平(ネ)テ德ヲ積(ム)ト謂(フ)

先(ツ)天^{高貴反}道ヲ得(也)・是ヲ重平(ネ)テ德ヲ於(己)ニ積(ム)ト謂(フ)也。

重平(ネ)テ德ヲ積(ム)トキハ・「則」剋^カタ不ト云コト無(シ)

剋(ハ)・勝(也)。重平(ネ)テ德ヲ於(己)ニ積(ム)トキハ・「則」勝(タ)不ト云コト無(シ)

剋(タ)不ト云コト無(キ)トキハ・「則」其ノ極^リヲ知(ル)コト莫(シ)

剋(チ)勝(タ)不ト云コト無(キ)トキハ・「則」己力^ノ德ノ「之」窮^リルコトヲ知(ル)コト有(ル)コト莫(シ)也。

其ノ極ヲ知(ル)コト莫(キ)トキハ・以テ國ヲ有^ズ可(シ)

己力^ノ德ノ極^リ有(ル)コトヲ知(ル)コト莫(キ)トキハ・「則」

有國之母可以長久

國身同也母道也人能保身中之道使精氣不勞五神

不苦則可以長久

是謂深根固蒂

人能以氣為根以精為蒂如樹根不深則拔蒂不堅則
落言當深藏其氣固守其精无使泄漏也

長生久視之道

深根固蒂者乃長生久視之道

校異

1 (無窮・書陵・足利・斯・六地・東急・敦)は章題無し、(東洋)は「守道章第五十九」に(武内・東大)は「守道章五十九」に(杏・慶)は「治人章第五十九」に(大東・筑波)は「治人章五十九」に、(弘文)は「治人章第五十九」に作る、尚、(杏)は題下に「守道章」と二字句章名を小書しその「道」字左旁に「人イ」と(東洋)の題下には「治人章」と小書され「人章」の間に小圈を施し右旁に青筆で「事天」二字を加筆、(弘文)題下には大字で「一本云守道第五十九」との書入れがある。また、(梅

以テ社・稷(ヨ)有テ・民ノ為福ヲ致ス可(シ)

國ヲ有(ツ)之母^{ミコ}・以テ長久(ト)ル可(シ)

國ト身ト同シ也。母ハ・道也。人能(ク)身中ノ之道

ヲ保テ精・氣ヲ使テ勞セ不ラ使(ム)ルトキ・五・神ヲ苦シ

八不ノ・一則以テ長久ナル可(シ)

是ヲ根ヲ深(ク)シ蒂ヲ固ムト謂(フ)

人能(ク)氣ヲ以テ根ト為・精ヲ以テ蒂ト為・樹ノ根ノ深(カ

ラ)不(ル)トキハ・一則拔(ク)蒂堅カラ不(ル)トキハ一則落

(ツ)ルカ如シ・言ハ當ニ深ク其ノ・氣ヲ藏シ・固ク其ノ・精ヲ

守リテ・泄リ漏(リ)サ使(ム)ルコト无(カル)當(シ)也

長生久視ノ之道ナリ

根ヲ深シ蒂ヲ固スルコト者・乃(チ)長生久視ノ之道ナ

リ

沢)「守」字右旁に「二十一」と、(無窮)は本章首行眉上に「廿二」と下巻内章次数を記す

2 (活・活・陽・無窮・武内・東大・杏・慶・大東・筑波・斯・梅沢)は「也」一字、(書陵)は「之也」、(東洋)は「者」一字がある、但、(東洋)は青筆で「者」字左旁に見消ちを

付し右旁に「之」字を加筆

3 (活・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・慶・大東・筑波・弘文・足利・斯・東洋・梅沢)「也」字有り

4 (杏)眉上に「又作食也」、(大東)右旁に「或作食」と校異の

書入れ有り
 5 (活)・活・杏・慶・大東・筑波・斯・道蔵「愛」字に作る。尚、(杏)は「愛」字右旁に「貪イ」と、(足利)は「貪」字に見消ちを付し肩に「愛」との書入れが有る
 6 (梅沢・東急)「者」字無し
 7 (宋版)「則」字に誤る
 8 (梅沢)「者」字無し
 9 (敦)「當」字無し
 10 (東急)「受」字に作る
 11 (氣)字下、(道蔵)「而」字有り
 12 (活)・陽・書陵・武内・東大・杏・慶・大東・筑波・弘文・足利・斯・東洋・梅沢・東大・杏・世徳「為」字無し
 13 (活)・活・陽・無窮・武内・東大・杏「は」也「一」字、(筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・書陵・梅沢)は「之」也、(東洋)は「者也」「二」字有り、但、(東洋)は青筆で「者」左旁に見消ちを付し右旁に「之」字を加筆
 14 (世徳)「惟」字に作る
 15 (東洋・東活)「服」字左旁に「才作復」との校異の書入れ有り
 16 (東洋)は青筆
 17 (東洋)「也」字無し、但、「先」字下に青筆で「也」字を加筆
 18 (服)字下、(東急)「者」字有り
 19 (東急・敦)「德」字に作る
 20 (足利)「得失」両字字間に加筆
 21 (無窮)「財」字に誤る
 22 (敦)「也」字無し
 23 (足利)「得」字に作る
 24 (敦)「也」字無し
 25 (陽)・東大・慶・六地・敦「无」字に作る
 26 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・慶・大東・杏は「克」字に作る。尚、(東洋・東活)は左旁に「克才」の書入れ有り、(東洋)は青筆
 27 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・慶・大東・杏は「克」字に作る
 28 (筑波)「種」字に作る
 29 (重)字下、(敦)「種」字有り

29 (活)・活・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東急・世徳・道蔵「無」字に作る
 30 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・慶・大東・筑波・弘文・足利・斯・梅沢「は」也「一」字、(東洋)は「也」「二」字有り、但、(東洋)は「之」字左旁に青筆で見消ちを付す
 31 (陽)・東大・慶・六地・敦「无」字に作る
 32 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・慶・大東・杏は「克」字に作る。尚、(東洋・東活)は左旁に「克才」の書入れ有り、(東洋)は青筆
 33 (無窮)「也」字有り
 34 (活)・活・陽・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵「無」字に作る
 35 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・筑波・慶・大東・杏・足利・斯・東洋・梅沢「は」剋「に」、(弘文)は「克」字に作る、(敦)はこの「一」字無し
 36 (東)字上、(活)・無窮・武内・東大・杏・慶・大東・筑波・弘文・足利・斯・東洋・梅沢「所」字有り
 37 (敦)・道蔵「也」字無し、(東洋)は「者也」「二」字に作る、但「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 38 (可)字上、(敦)「則」字有り
 39 (活)・活・陽・無窮・武内・東大・杏・筑波・東急「は」也「一」字、(書陵・弘文・足利・斯・梅沢)は「之」也、(東洋)は「者也」、(慶)は「也矣」「二」字有り、但、(東洋)は「者」字左旁に青筆の見消ちを付し右旁に「之」字を加筆する
 40 (國)字下、(大東・筑波・東洋)「与」字有り、但、(東洋)は「与」字左旁に青筆で見消ちを付す
 41 (東大)「固」字に誤る
 42 (人)字下、(陽)・書陵・足利「常」字有り、尚、(東洋)は青筆で「人能」字間に小圈を施し右旁に「常」字を加筆する
 43 (大東)「之」字無し
 44 (不)字上、(大東・筑波)「以」字有り
 45 (敦)「生」字に作る
 46 (活)・活・陽・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏・筑波・慶・大東・弘文・足利・斯・梅沢「は」也「一」字有り
 47 (杏)・慶・大東「に」帯「作抵」と、(東洋)に「帯作抵」と

校異の書入れ有り

48 (斯)「樹」字無し

49 (宋版)「樹」は「枝」字に作る

50 (不)「字下」(弘文)「固」字有り

51 (斯)「言」字無し

52 (世徳)「言」字無し

53 (活)「活」無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急「無

字に作る

54 「无使」(宋版)世徳・道蔵「使無」に作る

55 (武内)東大・杏・慶・大東・筑波・弘文・足利・斯・東

56 洋・梅沢「洩」字に作る

57 (宋版)世徳・敦・道蔵「也」字無し(東洋)は「之也」二

字に作る、但、「之」字左旁に青筆で見消ちを付す

58 (無窮)大東・筑波「也」字有り

59 (活)「活」陽・無窮・書陵・武内・東大・杏・慶・大

60 東・筑波・弘文・斯・東洋・梅沢・東急「也」字有り

(道蔵)「道徳真經註卷之三」と尾題有り

訓読文補注

1 「愛(シ)テ」(書陵)は「て」(東活)は「して」(陽)は

「して」(梅沢)大東・東洋・筑波・斯)は「ソ」を送り、(杏

・慶)は「愛(シ)」、(東大)は「愛(シ)」と加号